



購入者ガイド

AWS Marketplace



AWS Marketplace: 購入者ガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標およびトレードドレスは Amazon 以外の製品およびサービスに使用することはできません。また、お客様に誤解を与える可能性がある形式で、または Amazon の信用を損なう形式で使用することもできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Marketplace	1
購入者 AWS Marketplace としての の使用	2
AWS Marketplace と Amazon DevPay の違い	3
のソフトウェアとサービス AWS Marketplace	4
で販売される製品の契約 AWS Marketplace	5
EULA の更新	6
AWS Marketplaceの標準契約	8
サポート対象の リージョン	8
購入者としての開始方法	11
製品の購入	11
ソフトウェアの起動	12
チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入	13
ステップ 1: を作成する AWS アカウント	13
ステップ 2: ソフトウェアを選択する	13
ステップ 3: ソフトウェアを設定する	15
ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する	16
ステップ 5: ソフトウェアを管理する	17
ステップ 6: インスタンスを終了する	18
詳細情報	18
製品カテゴリ	19
インフラストラクチャソフトウェア	19
DevOps	20
ビジネスアプリケーション	21
機械学習	22
IoT	23
プロフェッショナルサービス	24
デスクトップアプリケーション	24
データ製品	25
業界	26
製品のタイプ	27
AMI ベースの製品	27
AWS CloudFormation テンプレート	28
AMI サブスクリプション	29
契約料金による AMI 製品	32

AMI 製品のコスト配分タグ	37
AMI イミリアスを使用する	40
の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace	42
コンテナ製品	43
有料コンテナ製品の料金モデル	43
コンテナ製品向けのサポート対象のサービス	44
コンテナと Kubernetes の概要	45
コンテナ製品を検索する	45
コンテナ製品の配信方法	47
AWS Marketplace で製品をサブスクライブする	47
契約料金によるコンテナ製品	48
コンテナソフトウェアの起動	53
機械学習製品	58
Amazon SageMaker AI モデルパッケージ	59
Amazon SageMaker AI アルゴリズム	60
検索とデプロイのプロセスの概要	60
機械学習製品の検索	61
機械学習製品をサブスクライブする	62
機械学習製品をデプロイする	62
プロフェッショナルサービス製品	63
SaaS 製品	64
SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする	64
SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする	65
SaaS 無料トライアルをサブスクライブする	66
Quick Launch を使用する	68
製品への支払い	70
発注書	71
AWS Marketplace のトランザクションに発注書を使用する	71
購入後の発注書の更新	72
一括使用発注書を使用する	73
発注書に関するトラブルシューティング	73
製品サブスクリプションをキャンセルする	76
AMI サブスクリプションをキャンセルする	77
コンテナサブスクリプションをキャンセルする	78
機械学習サブスクリプションをキャンセルする	78
SaaS サブスクリプションをキャンセルする	79

支払い方法	79
支払いエラー	80
サポートされている通貨	80
指定通貨の変更	82
支払い方法と支払い時期	82
プライベートオファ어의サブスクリプション	82
パブリックサブスクリプション (セルフサービス購入)	83
送金手順の更新	83
Refunds	84
プライベートマーケットプレイス	86
製品の詳細ページの表示	87
通知の設定	87
E メール通知設定を作成する	87
ユーザー向け	89
プライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブする	89
プライベートマーケットプレイス向け製品を再リクエストする	89
管理者向け	89
プライベートマーケットプレイスの開始方法	90
プライベートマーケットプレイスを管理する	91
プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスの作成	92
オーデイエンスを管理する	93
製品の追加	94
プライベートマーケットプレイスのステータスを変更する	96
ユーザーリクエストの管理	96
プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをアーカイブする	97
プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを再有効化する	98
プライベートオファー	100
プライベートオファーに適した製品のタイプ	101
プライベートオファーの受け入れ準備	104
AWS Billing and Cost Management 設定の確認	105
支払い方法の確認	105
課税設定の確認	105
プライベートオファーの表示とサブスクライブ	105
プライベートオファーのリストからのプライベートオファーの表示とサブスクリプシ ョ ン	106
販売者が提供したリンクからプライベートオファーを表示してサブスクライブする	106

製品ページからのプライベートオファ어의表示とサブスクリプション	106
プライベートオファ어의トラブルシューティング	107
プライベートオファ어를表示するために [オファ어 ID] をクリックすると、[ページが見つかりません] (404) エラーが表示されます。	107
どの提案でも機能しない場合	108
プライベートオファ어ページ	109
プライベートオファ어ページについて理解する	109
プライベートオファ어ページの閲覧に必要なアクセス許可	110
外貨でプライベートオファ어의支払い	110
米ドル以外の通貨で米ドルのプライベートオファ어의支払い	110
米ドル以外のプライベートオファ어의支払い	110
消費ベースの料金の支払い	111
SaaS プライベートオファ어へのサブスクライブ	111
AMI プライベートオファ어へのサブスクライブ	113
Flexible Payment Schedule で年間 AMI プライベートオファ어를サブスクライブする	114
Flexible Payment Schedule なしで年間 AMI プライベートオファ어를サブスクライブする	115
プライベートオファ어의変更またはサブスクライブ解除	117
パブリックオファ어からプライベートオファ어への料金設定の変更	117
SaaS 契約の変更 - アップグレードと更新	117
SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更する	118
AMI 契約から新しい契約に変更する	118
時間単位の AMI から年単位の AMI に変更する	118
年単位の AMI から時間単位の AMI に変更する	119
将来の日付の契約とプライベートオファ어	119
将来の日付の契約の作成	120
将来の日付の契約での Flexible Payment Scheduler の使用	121
将来の日付の契約の修正	121
将来の日付の契約の通知を受け取る	121
製品サブスクリプションを共有する	122
ライセンスの表示	122
ライセンスの共有	123
ライセンス共有の前提条件	124
ライセンスの使用状況の追跡	124
のコスト管理	125
コストレポートを表示する	125
調達インサイトの有効化	126

ダッシュボードの使用	130
委任管理者を使用する	133
ダッシュボードへのプログラムによるアクセス	134
コスト配分タグを使用する	134
ベンダー計測タグ	135
関連トピック	40
通知	137
E メール通知	137
Amazon EventBridge 通知	138
Discovery API イベント	138
プライベートマーケットプレイスイベント	139
調達システムの統合	144
Coupa 統合の設定	147
ステップ 1. IAM 許可をセットアップする	147
ステップ 2. Coupa と統合 AWS Marketplace するように を設定する	147
ステップ 3. Coupa を設定する	148
SAP Ariba 統合を設定する	149
ステップ 1. IAM アクセス許可のセットアップ	149
ステップ 2. AWS Marketplace を設定して SAP Ariba と統合する	150
AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード	151
調達システムの統合の無効化	151
購入者 AWS として で Buy を使用する	153
サポートされる製品	154
製品の発見と購入	154
販売者のウェブサイトで製品を表示およびサブスクライブする	154
販売者のウェブサイトからプライベートオファーをリクエストする	155
販売者のウェブサイトからデモをリクエストする	155
無料トライアル	156
ソフトウェアとインフラストラクチャの料金	156
AMI ベースの製品の無料トライアル	156
コンテナベースの製品の無料トライアル	157
機械学習製品の無料トライアル	157
SaaS 製品の無料トライアル	158
AWS Service Catalog への AWS Marketplace サブスクリプションの追加	159
製品レビュー	160
ガイドライン	160

制限事項	160
タイミングと心構え	161
サポート情報	162
カスタマーサポートの AWS アカウント番号の検索	162
AWS Marketplace Vendor Insights	163
購入者としての開始方法	164
製品を検索する	164
評価データへのアクセスをリクエストする	165
評価データのサブスクリプションを解除する	165
製品のセキュリティプロファイルを表示する	166
AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード	166
SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する	166
コントロールカテゴリを理解する	167
のスクリーンショットをエクスポートする	213
アクセスの制御	214
AWS Marketplace Vendor Insights 購入者のアクセス許可	215
GetProfileAccessTerms	215
ListEntitledSecurityProfiles	215
ListEntitledSecurityProfileSnapshots	215
GetEntitledSecurityProfileSnapshot	216
セキュリティ	217
販売者と共有されるサブスクライバー情報	217
IAM ポリシーを IPv6 にアップグレードする	217
IPv4 から IPv6 に移行する際、影響を受けるお客様	218
IPv6 とは	218
IPv6 用の IAM ポリシーを更新する	218
IPv4 から IPv6 に更新した後のネットワークのテスト	220
AWS Marketplace サブスクリプションへのアクセスのコントロール	222
AWS Marketplace アクセスの IAM ロールの作成	222
AWS の マネージドポリシー AWS Marketplace	223
License Manager で使用するアクセス許可	224
追加リソース	224
AWS マネージドポリシー	224
AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy	225
AWSMarketplaceFullAccess	226
AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy	226

AWSMarketplaceManageSubscriptions	227
AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess	227
AWSMarketplaceRead-only	227
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess	227
AWSPrivateMarketplaceRequests	228
AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy	228
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess	228
AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	229
AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy	229
AWS マネージドポリシーに関するAWS Marketplace の更新	230
サービスリンクロールの使用	233
AWS Marketplace のサービスリンクロールの作成	233
AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールの編集	234
AWS Marketplace のサービスリンクロールの削除	235
AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールをサポートするリージョン	235
エンタイトルメントを共有するサービスにリンクされたロール	235
発注書进行操作するサービスにリンクされたロール	236
製品を構成および起動するサービスにリンクされたロール	237
プライベートマーケットプレイスを構成するサービスにリンクされたロール	239
調達データを共有するサービスにリンクされたロール	241
プライベートマーケットプレイスの管理者の作成	242
プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例	243
ドキュメント履歴	247
.....	cclx

とは AWS Marketplace

AWS Marketplace は厳選されたデジタルカタログで、ソリューションを構築してビジネスを運営するために必要なサードパーティーのソフトウェア、データ、サービスを検索、購入、デプロイ、管理するために使用できます。には、セキュリティ、ネットワーク、ストレージ、機械学習、IoT、ビジネスインテリジェンス、データベース、DevOps などの一般的なカテゴリの何千ものソフトウェア出品 AWS Marketplace が含まれています。AWS Marketplace また、は柔軟な料金オプションと複数のデプロイ方法を使用して、ソフトウェアのライセンスと調達を簡素化します。さらに、AWS Data Exchange から入手できるデータ製品 AWS Marketplace も含まれます。

数回クリックするだけで事前設定されたソフトウェアをすばやく起動し、ソフトウェアソリューションを Amazon マシンイメージ (AMI) 形式、SaaS (Software-as-a-Service) 形式、その他の形式で選択できます。さらに、データ製品を参照してサブスクライブすることもできます。柔軟な料金オプションには、無料トライアル、時間単位、月単位、年単位、複数年、Bring-Your-Own-License (BYOL) モデルなどがあります。これらの料金オプションはすべて、1 つの source. AWS handles から請求され、AWS 請求には料金が表示されます。

購入者 (サブスクライバー) AWS Marketplace または販売者 (プロバイダー) として、あるいはその両方として を使用できます。を持つユーザーは誰でもコンシューマー AWS Marketplace として AWS アカウント を使用し、 を登録して販売者になることができます。販売者は、独立系ソフトウェアベンダー (ISV)、付加価値リセラー、または AWS 製品やサービスと連携する何かを提供する個人です。

Note

データ製品プロバイダーは、AWS Data Exchange の資格要件を満たす必要があります。詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品の提供](#)」を参照してください。

のすべてのソフトウェア製品はキュレーションプロセスを経て AWS Marketplace います。製品ページで、製品に対して 1 つ以上のサービスがあります。販売者が で製品を送信すると AWS Marketplace、製品の価格と利用規約が定義されます。購入者は、価格設定およびオファーに設定された利用規約に同意します。

では AWS Marketplace、製品は無料で使用でき、関連する料金が発生する可能性があります。料金は AWS 請求書の一部となり、支払い後に が販売者に AWS Marketplace 支払います。

Note

米国以外の販売者から購入した場合は、販売者から税金請求書も送信される場合があります。詳細については、[「Amazon Web Service Tax Help」](#)の[AWS Marketplace 「Sellers」](#)を参照してください。

製品はたくさんの形式を持つことができます。例えば、製品は、AWS アカウントを使用してインスタンス化された Amazon マシンイメージ (AMI) として提供できます。製品をコンシューマーへの配信に AWS CloudFormation テンプレートを使用するように設定することもできます。製品は、ISV の SaaS (Software-as-a-Service) サービス、ウェブ ACL、ルールセット、または AWS WAF の条件である場合もあります。

ソフトウェア製品は、ISV の標準エンドユーザー使用許諾契約 (EULA) に基づく出品料金で購入したり、カスタムの料金と EULA に基づくプライベートオファーで購入したりできます。また、期間や使用の範囲が指定された[標準契約](#)に基づいて製品を購入することもできます。

製品サブスクリプションを設定したら、AWS Service Catalog を使用して製品をコピーし、組織内で製品にアクセスして使用方法を管理できます。詳細については、「Service Catalog 管理者ガイド」の[「ポートフォリオへの AWS Marketplace 製品の追加」](#)を参照してください。

購入者 AWS Marketplace としての の使用

購入者は、[AWS Marketplace](#) に移動して、Amazon Web Services で実行される製品を検索、フィルタリング、および参照します。

ソフトウェア製品を選択すると、製品のページに移動します。ページには、製品に関する情報、料金、使用状況、サポート、および製品レビューがあります。ソフトウェア製品をサブスクライブするには、にサインイン AWS アカウントし、EULA、利用規約、サブスクリプションのカスタマイズに使用できるオプションを含むサブスクリプションページに移動します。

AWS Marketplace 欧州、中東、アフリカ (トルコと南アフリカを除く) を拠点とする アカウントが EMEA 対象販売者から行った の購入は、Amazon Web Services EMEA SARL によって促進されません。

特定の国のお客様の場合、Amazon Web Services EMEA SARL は AWS Marketplace 、購入に対して現地の付加価値税 (VAT) を請求します。税金の詳細については、[AWS Marketplace 「購入者税のヘルプページ」](#)を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL の詳細については、「[Amazon Web Services EMEA SARL FAQs](#)」を参照してください。

EMEA の対象となる販売者と取引を行うお客様には、Amazon Web Services EMEA SARL から請求書が届きます。他のすべてのトランザクションは、AWS Inc. を通過し続けます。詳細については、「[製品の支払い](#)」を参照してください。

サブスクリプションが処理されたら、フルフィルメントオプション、ソフトウェアバージョン、製品を使用する AWS リージョン 場所を設定し、ソフトウェア製品を起動できます。製品を検索または起動するには、AWS Marketplace ウェブサイトの [Marketplace ソフトウェア](#) にアクセスするか、AWS Marketplace または Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) コンソールから、または Service Catalog からアクセスします。

で利用可能な製品カテゴリの詳細については AWS Marketplace、「」を参照してくださいの[製品カテゴリ AWS Marketplace](#)。

でのソフトウェア製品の配信方法の詳細については AWS Marketplace、以下を参照してください。

- [の AMI ベースの製品 AWS Marketplace](#)
- [のコンテナ製品 AWS Marketplace](#)
- [の機械学習製品 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する](#)
- [AWS Marketplace 経由の SaaS 製品](#)
- データ製品 - AWS Data Exchange ユーザーガイドで「[AWS Data Exchange とは](#)」を参照してください。

AWS Marketplace と Amazon DevPay の違い

AWS Marketplace と Amazon DevPay には大きな違いがあります。どちらも、で実行されるソフトウェアの購入に役立ちますが AWS、Amazon DevPay よりも包括的なエクスペリエンス AWS Marketplace を提供します。ソフトウェア購入者にとって、主な相違点は以下のとおりです。

- AWS Marketplace では、Amazon.com のようなショッピング体験を提供し、利用可能なソフトウェアの検出を簡素化します。
- AWS Marketplace 製品は、Virtual Private Cloud (VPC) などの他の AWS 機能と連携し、オンデマンドインスタンスに加えて Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) リザーブドインスタンスおよびスポットインスタンスで実行できます。

- AWS Marketplace は、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) でサポートされるソフトウェアをサポートしており、Amazon DevPay はサポートしていません。

さらに、ソフトウェア販売者には、マーケティングアウトリーチおよび AWS Marketplace の検出のしやすさというメリットがあります。

のソフトウェアとサービス AWS Marketplace

AWS Marketplace には、データベース、アプリケーションサーバー、テストツール、モニタリングツール、コンテンツ管理、ビジネスインテリジェンスなど、多くのソフトウェアカテゴリがあります。よく知られている販売者が提供する商用ソフトウェアとともに、多くの広く使用されているオープンソースソフトウェアを選択できます。必要な製品が見つかったら、1-Click でそのソフトウェアを購入し、独自の Amazon EC2 インスタンスにデプロイできます。AWS CloudFormation を使用して製品のトポロジをデプロイすることもできます。

どの AWS お客様もショッピングができます AWS Marketplace。ソフトウェア価格とインフラストラクチャの見積もり価格はウェブサイトに表示されます。すでに登録されている支払い方法を使用して、ほとんどのソフトウェアをすぐに購入できます AWS。ソフトウェア料金は AWS インフラストラクチャ料金と同じ月次請求書に表示されます。

メモ

- Software as a Service (SaaS) とサーバーベースの製品の両方を含む AWS Marketplace、多くのビジネス製品が利用できます。サーバーベースの製品には、技術知識やセットアップと管理の IT サポートが必要な場合があります。
- 「[チュートリアル: Amazon EC2 Linux インスタンスの開始方法](#)」の情報とチュートリアルは、Amazon EC2 の基本について学習するのに役立ちます。
- を通じて AWS Marketplace 製品の複雑なトポロジを起動する予定がある場合は AWS CloudFormation、[の使用を開始すると AWS CloudFormation](#)、役立つ AWS CloudFormation 基本を学ぶのに役立ちます。

AWS Marketplace には、次のカテゴリのソフトウェアが含まれています。

- インフラストラクチャソフトウェア
- デベロッパーツール

- ビジネスソフトウェア
- 機械学習
- IoT
- プロフェッショナルサービス
- デスクトップアプリケーション
- データ製品

詳細については、「[の製品カテゴリ AWS Marketplace](#)」を参照してください。

主要なソフトウェアカテゴリのそれぞれに、より具体的なサブカテゴリがあります。例えば、インフラストラクチャソフトウェアのカテゴリには、[アプリケーション開発]、[データベースとキャッシュ]、[オペレーティングシステム]などのサブカテゴリがあります。ソフトウェアは、Amazon マシンイメージ (AMI) や Software as a Service (SaaS) など、7 種類の製品タイプから選べます。各種ソフトウェアについては、「[製品のタイプ](#)」を参照してください。

必要なソフトウェアの選択に役立つように、は次の情報 AWS Marketplace を提供します。

- 販売者の詳細
- ソフトウェアのバージョン
- ソフトウェアのタイプ (AMI または SaaS)、および AMI に関する情報 (該当する場合)
- 購入者の評価
- 価格
- 製品情報

で販売される製品の契約 AWS Marketplace

で販売されているソフトウェア、サービス、およびデータ製品の使用は、購入者と販売者の間の契約によって管理 AWS Marketplace されます。AWS は、これらの契約の当事者ではありません。

購入者として、の使用 AWS Marketplace には、[AWS サービス条件](#)、[AWS カスタマーアグリーメント](#)、および [プライバシー通知](#)が適用されます。

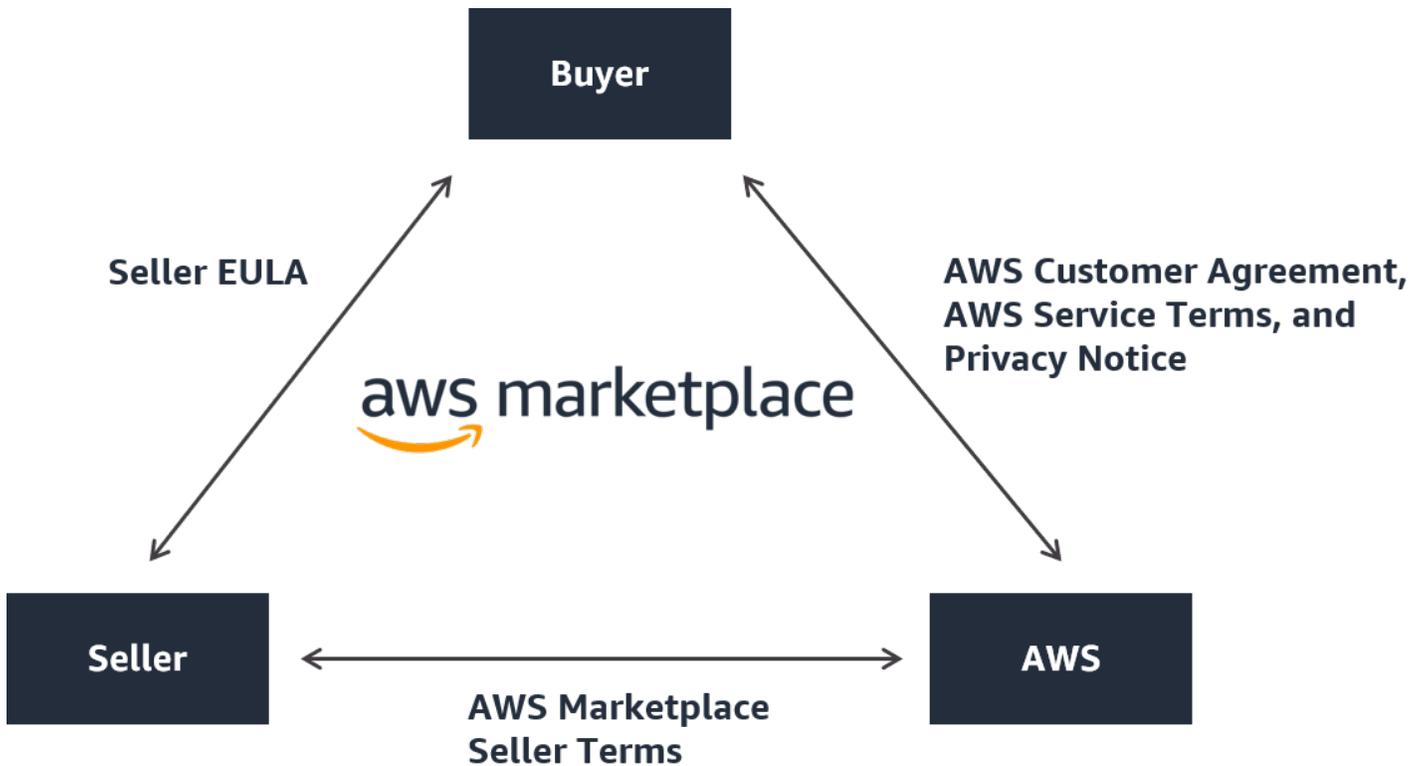
販売者契約には以下が含まれます。

- 販売者の EULA は、AWS Marketplaceに公開されているソフトウェアリストの製品リストページに記載されています。多くの販売者は、[AWS Marketplace 標準契約 \(SCMP\)](#) をデフォルトの

EULA として使用しています。SCMP をプライベートオファターの交渉のベースとして使用したり、修正テンプレートを使用して SCMP を変更したりすることもできます。プライベートオファターには、当事者間で交渉したカスタム契約条件を含めることもできます。

- [AWS Marketplaceでの販売者のアクティビティ](#)には、[AWS Marketplace 販売者規約](#)が適用されます。

次の図は、の契約構造を示しています AWS Marketplace。



EULA の更新

販売者には、各製品の EULA を更新するオプションがあります。更新の発効日は、EULA、オファertype、および料金モデルによって異なります。

次の表は、新しい EULA がいつ適用されるかについての情報を示しています。

Note

お客様と販売者がカスタム契約を結んでいる場合、以下が適用されない場合があります。

オファ어의タイプ	料金モデル	更新時に EULA が有効になります
Public	使用方法	サブスクリプションをキャンセルし、再サブスクライブを行います。
Public	契約	現在の契約は終了し、新しいパブリックオファー契約に更新されます。
Public	消費量での契約	現在の契約は終了し、新しいパブリックオファー契約に更新されます。
プライベート	使用方法	現在のプライベートオファーは期限切れになり、新しいパブリックオファー契約に自動更新されます。プライベートオファーの更新は、特定のプライベートオファーによって異なります。
プライベート	契約	現在のプライベートオファーの有効期限が切れ、パブリックオファーまたは新しいプライベートオファーに再サブスクライブします。プライベートオファーの更新は、特定のプライベートオファーによって異なります。
プライベート	消費量での契約	現在のプライベートオファーの有効期限が切れ、パブリックオファーまたは新しいプライベートオファーに再サブスクライブします。プライベートオファーの更新は、特定の

オファ어의タイプ	料金モデル	更新時に EULA が有効になります
		プライベートオファーによって異なります。

AWS Marketplaceの標準契約

製品を購入する準備をするときは、関連する EULA または標準化された契約を確認してください。多くの販売者は、出品に対して同じ標準化された契約である[AWS Marketplace 「\(SCMP\) 標準契約」](#)を提供しています。は、購入者および販売者コミュニティと協力して SCMP AWS Marketplace を開発し、デジタルソリューションの使用を管理し、購入者および販売者の義務を定義しました。デジタルソリューションの例としては、サーバーソフトウェア、Software as a Service (SaaS)、人工知能と機械学習 (AI/ML) アルゴリズムなどがあります。

購入ごとにカスタム EULA を確認する代わりに、SCMP を一度確認するだけで済みます。[契約条件](#)は、SCMP を使用するすべての製品に共通です。

販売者は、SCMP に付随する以下の補遺を使用することもできます。

- [セキュリティ強化補遺](#) - データセキュリティ要件が厳しい取引をサポートします。
- [HIPAA ビジネスアソシエイト補遺](#) - HIPAA (Health Insurance Portability and Accountability Act of 1996: 医療保険の携行性と責任に関する法律) に準拠している取引をサポートします。

標準化されたライセンス条項を提供している出品を検索するには、製品の検索時に [標準契約] フィルターを使用します。プライベートオファーの場合は、販売者に EULA を SCMP に置き換え、取引固有の要件に対応するために必要に応じて合意された修正を適用できるかどうかを問い合わせてください。

詳細については、「[の標準化された契約 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

AWS リージョン でサポート AWS Marketplace

ソフトウェア製品の場合、販売者はソフトウェアを使用可能 AWS リージョン にするとインスタンスタイプを選択します。利用可能なすべてのリージョンおよび有効なすべてのインスタンスタイプで製品を利用可能にすることをお勧めします。AWS Marketplace ウェブサイトは世界中で利用でき、次のリージョンをサポートしています。

- 北米
 - 米国東部(オハイオ)
 - 米国東部 (バージニア北部)
 - 米国西部 (北カリフォルニア)
 - 米国西部 (オレゴン)
 - AWS GovCloud (米国東部)
 - AWS GovCloud (米国西部)
 - カナダ (中部)
 - カナダ西部 (カルガリー)
 - メキシコ (中部)

 - アフリカ
 - アフリカ (ケープタウン)

 - 南米
 - 南米 (サンパウロ)

 - ヨーロッパ、中東、およびアフリカ
 - 欧州 (フランクフルト)
 - 欧州 (アイルランド)
 - 欧州 (ロンドン)
 - 欧州 (ミラノ)
 - 欧州 (パリ)
 - 欧州 (スペイン)
 - 欧州 (ストックホルム)
 - 欧州 (チューリッヒ)

 - アジアパシフィック
 - アジアパシフィック (香港)
 - **アジアパシフィック (ハイデラバード)**
-
- サポート対象の リージョン
- アジアパシフィック (ジャカルタ)

- アジアパシフィック (マレーシア)
 - アジアパシフィック (メルボルン)
 - アジアパシフィック (ムンバイ)
 - アジアパシフィック (大阪)
 - アジアパシフィック (ソウル)
 - アジアパシフィック (シンガポール)
 - アジアパシフィック (シドニー)
 - アジアパシフィック (タイ)
 - アジアパシフィック (東京)
-
- 中東
 - 中東 (バーレーン)
 - イスラエル (テルアビブ)
 - 中東 (UAE)

データ製品についてサポートされているリージョンの詳細は、「AWS 全般のリファレンス」の「[AWS Data Exchange エンドポイントとクォータ](#)」を参照してください。

を使用して購入者として開始する AWS Marketplace

次のトピックでは、AWS Marketplace 購入者としてソフトウェア製品の使用を開始するプロセスの概要を示します。

トピック

- [での製品の購入 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でソフトウェアを起動する](#)
- [チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入](#)
- [詳細情報](#)

データ製品の使用開始方法の詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

での製品の購入 AWS Marketplace

で製品を購入すると AWS Marketplace、製品詳細ページに示されている製品の条件に同意したことになります。これには、料金条件と販売者のエンドユーザーライセンス契約 (EULA) が含まれ、お客様は [AWS、カスタマーアグリーメント](#) に従って当該製品を使用することに同意します。AWS アカウント オファーが承諾されたに関連付けられた E メールアドレスに E メール通知が送信されます AWS Marketplace。

Note

AWS では、の特定の製品のガイド付きデモンストレーション AWS Marketplace を無料でリクエストできます。ガイド付きデモが利用可能な場合、[製品詳細] ページに [デモをリクエスト] ボタンが表示されます。デモをリクエストするには、ボタンを選択し、リクエストの詳細を指定します。リクエストをまとめた確認 E メールが届き、AWS 担当者から連絡をします。

月額料金がある製品や、サブスクリプション契約で購入した製品は、サブスクリプション時に料金が発生します。サブスクリプションは、当月の残り期間に応じて日割り計算されます。次のアクションの 1 つを実行するまで、その他の請求は発生しません。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを Amazon マシンイメージ (AMI) で起動する。
- AWS CloudFormation テンプレートを使用して製品をデプロイします。
- 販売者のウェブサイトに製品を登録する。

製品に年間サブスクリプションのオプションがある場合、サブスクリプションの年間料金がすべて課金されます。この料金は、製品の使用状況ベースで適用され、当初のサブスクリプションを行った日の1年後にサブスクリプションが更新されます。年間サブスクリプション期間の終了時にサブスクリプションを更新しない場合、サブスクリプションは最新の時間単位に基づいた時間別のサブスクリプションに切り替わります。

データ製品のサブスクリプションの詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

AWS Marketplace でソフトウェアを起動する

ソフトウェア購入後は、AWS Marketplace の [1-Click で起動] ビューを使用して、そのソフトウェアを含む Amazon マシンイメージ (AMI) を起動できます。また、AWS Management Console、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) コンソール、Amazon EC2 API、または AWS CloudFormation コンソールなど、他の Amazon Web Services (AWS) 管理ツールを使用して起動できます。

[1-Click で起動] ビューを使用すると、ソフトウェア販売者が推奨する設定で、ソフトウェアの単一インスタンスをすばやく確認、変更、起動できます。[EC2 コンソールで起動] ビューを使用すると、AWS Management Console、Amazon EC2 API、または他の管理ツールを使用して AMI を起動するために必要な、AMI 識別番号や他の関連情報を簡単に見つけることができます。また、[EC2 コンソールで起動] ビューには、インスタンスのタグ付けなど、AWS Management Console から起動するよりも多くの設定オプションが用意されています。

Note

インスタンスタイプまたは AWS リージョン にアクセスできない場合は、プライベートオファーが送信された時点でサポートされていない可能性があります。詳細については、契約の詳細を確認してください。インスタンスまたはリージョンにアクセスするには、販売者に連絡して、更新されたプライベートオファーをリクエストします。新しいオファーを承諾すると、新しく追加されたインスタンスまたはリージョンにアクセスできます。

トポロジが複雑な AWS Marketplace の製品の場合は、[カスタム起動] ビューを使用すると、適切な AWS CloudFormation テンプレートを使用して AWS CloudFormation コンソールでその製品をロードする [CloudFormation コンソールで起動] オプションを使用できます。その後、AWS CloudFormation コンソールのウィザードのステップに従って、その製品の AMI および関連する AWS リソースのクラスターを作成します。

チュートリアル: AMI ベースのソフトウェア製品の購入

次のチュートリアルでは、AWS Marketplace で Amazon マシンイメージ (AMI) 製品を購入する方法について説明します。

ステップ

- [ステップ 1: を作成する AWS アカウント](#)
- [ステップ 2: ソフトウェアを選択する](#)
- [ステップ 3: ソフトウェアを設定する](#)
- [ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する](#)
- [ステップ 5: ソフトウェアを管理する](#)
- [ステップ 6: インスタンスを終了する](#)

ステップ 1: を作成する AWS アカウント

にサインインしなくても、AWS Marketplace ウェブサイト (<https://aws.amazon.com/marketplace>) を参照できます AWS アカウント。ただし、製品のサブスクリプションや起動には、サインインする必要があります。

AWS Marketplace コンソールにアクセスするには AWS アカウント、にサインインする必要があります。の作成方法については AWS アカウント、「[AWS アカウント管理 リファレンスガイド](#)」の「[AWS アカウントの作成](#)」を参照してください。

ステップ 2: ソフトウェアを選択する

ソフトウェアを選択するには

1. [AWS Marketplace ウェブサイト](#) に移動します。

Note

新しいインスタンスは、パブリック AWS Marketplace ウェブサイト、<https://aws.amazon.com/marketplace>、または AWS Marketplace の を通じて購入、サブスクライブ AWS Management Console、起動できます。 <https://console.aws.amazon.com/marketplace/home#/subscriptions>

この2つの場所でのエクスペリエンスは似ています。この手順では AWS Marketplace ウェブサイトを使用しますが、コンソールを使用する場合の主な相違点を説明します。

- [Shop All Categories (すべてのカテゴリ)] ペインに、選択できるカテゴリの一覧が表示されています。中央のペインで紹介されているソフトウェアを選択することもできます。このチュートリアルでは、[すべてのカテゴリ] ペインで [コンテンツ管理] を選択します。
- [コンテンツ管理] 一覧で、[Bitnami と Automattic の認定を受けた WordPress] を選択します。
- 製品の詳細ページで製品情報を確認します。製品詳細ページには以下のような追加情報も記載されています。
 - 購入者の評価
 - サポート
 - [ハイライト]
 - 製品の詳細な説明
 - 各 のインスタンスタイプの料金詳細 AWS リージョン (AMIs の場合)
 - 使用開始に役立つその他のリソース
- [サブスクリプションを続行する] を選択します。
- AWS Marketplaceにまだサインインしていない場合は、サインインするように求められます。をすでにお持ちの場合は AWS アカウント、そのアカウントを使用してサインインできます。をまだお持ちでない場合は AWS アカウント、「」を参照してください[ステップ 1: を作成する AWS アカウント](#)。
- Bitnami の提供条件を読み、[契約に同意する] を選択してサブスクリプションの提供に同意します。
- サブスクリプションアクションが完了するまでに時間がかかることがあります。完了すると、サブスクリプション条件に関する E メールメッセージが届き、続行できます。[設定に進む] を選択して、ソフトウェアを設定して起動します。

製品をサブスクライブすると、その製品の利用規約に同意したことになります。その製品に月額料金がある場合は、サブスクリプション時に料金が請求され、契約月の残り期間に応じて日割り計算されます。選択した AMI で Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスを起動するまで、その他の料金は発生しません。

Note

製品のサブスクライバーは、サブスクライブしているソフトウェアの新しいバージョンが公開されると、アカウントに E メールメッセージが届きます。

ステップ 3: ソフトウェアを設定する

ソフトウェアを AMI として選択したため、次のステップでは、ソフトウェア AWS リージョン を使用する配信方法、バージョン、 の選択など、ソフトウェアを設定します。

ソフトウェアを設定するには

1. [このソフトウェアを設定する] ページで、[配信方法] に [64 ビット (x86) Amazon マシンイメージ (AMI)] を選択します。
2. [ソフトウェアのバージョン] には、使用可能な最新バージョンを選択してください。
3. 製品を起動する [リージョン] (例えば 米国東部 (バージニア北部) など) を選択します。

Note

設定を変更すると、画面下部の [Ami ID] が更新されたことに気付くかもしれません。AMI ID は `ami-<identifier>` の形式で、例えば `ami-123example456` などです。AMI は、リージョン、製品、製品バージョンによって異なります。この AMI ID により、製品の起動時に使用する正しい AMI を指定できます。AMI エイリアスは似たような ID で、自動化ではより簡単に使用できます。
AMI エイリアスの詳細については、「[での AMI エイリアスの使用 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

4. [続行して起動する] を選択します。

ステップ 4: Amazon EC2 でソフトウェアを起動する

Amazon EC2 インスタンスを起動する前に、1-Click 起動を使用して起動するかどうか、または Amazon EC2 コンソールを使用して起動するかどうかを決めておく必要があります。1-Click 起動を使用すると、セキュリティグループやインスタンスタイプなどの推奨されるデフォルトのオプションを使用してすばやく起動できます。1-Click 起動を使用すると、推定月額料金を確認することもできます。Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) 内での起動やスポットインスタンスの使用など、他のオプションを使用する場合は、Amazon EC2 コンソールを使用して起動する必要があります。以下では、製品をサブスクライブし、1-Click 起動または Amazon EC2 コンソールを使用して EC2 インスタンスを起動する手順について説明します。

1-Click 起動を使用して Amazon EC2 で起動する

1-Click 起動を使用して Amazon EC2 で起動するには

1. [このソフトウェアを起動] ページで、[アクションを選択] ドロップダウンから [ウェブサイトから起動] を選択し、デフォルト設定を確認します。設定を変更するには以下を実行します。
 - [EC2 インスタンスタイプ] ドロップダウンリストから、インスタンスタイプを選択します。
 - [VPC の設定] と [サブネットの設定] ドロップダウンリストで、使用するネットワーク設定を選択します。
 - [セキュリティグループの設定] で、既存のセキュリティグループを選択するか、[販売者の設定に基づいて新規クリックする] を選択してデフォルト設定を受け入れます。セキュリティグループの詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 セキュリティグループ](#)」を参照してください。
 - [キーペア] を展開し、キーペアがある場合は既存のキーペアを選択します。キーペアがない場合は、キーペアを作成するように求められます。Amazon EC2 のキーペアの詳細については、「[Amazon EC2 のキーペア](#)」を参照してください。
2. 設定が完了したら、[起動] を選択します。

新しいインスタンスは、Bitnami と Automattic の認定を受けた WordPress ソフトウェアが実行されている状態で起動します。ここから、インスタンスの詳細の表示、別のインスタンスの作成、ソフトウェアのすべてのインスタンスの表示を行うことができます。

EC2 コンソールによる起動を使用して Amazon EC2 で起動する

EC2 コンソールによる起動を使用して Amazon EC2 で起動するには

1. [EC2 で起動] ページで、[EC2 コンソールで起動] ビューを選択し、[バージョンを選択] の一覧から AMI バージョンを選択します。
2. [Firewall Settings (ファイアウォールの設定)]、[Installation Instructions (インストール手順)]、および [Release Notes (リリースノート)] の内容を確認してから、[Launch with EC2 Console (EC2 コンソールによる起動)] を選択します。
3. EC2 コンソールで、リクエストインスタンスウィザードを使用して AMI を起動します。
「[Amazon EC2 の開始手順](#)」の手順に従って、ウィザードを操作します。

ステップ 5: ソフトウェアを管理する

[AWS Marketplace コンソール](#)のサブスクリプションの管理ページ AWS Marketplace を使用して、でソフトウェアサブスクリプションをいつでも管理できます。

ソフトウェアを管理するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)に移動し、[サブスクリプションの管理] を選択します。
2. [サブスクリプションの管理] ページでは、以下の内容を確認できます。
 - 製品別のインスタンスのステータスの確認
 - 当月の月額料金の確認
 - 新しいインスタンスの実行
 - インスタンスの販売者のプロフィールの確認
 - インスタンスの管理
 - ソフトウェアを設定するための Amazon EC2 インスタンスへの直接リンク

Note

現在の のサブスクリプションのみがサブスクリプションの管理ページ AWS アカウント に表示されます。アカウントが [AWS Organization](#) の管理アカウントである場合、メンバーアカウントのサブスクリプションは表示されません。

ステップ 6: インスタンスを終了する

インスタンスが必要なくなったら、そのインスタンスを終了できます。

Note

終了したインスタンスを再起動することはできません。ただし、同じ AMI から別のインスタンスを起動できます。

インスタンスを終了するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)に移動し、[サブスクリプションの管理] を選択します。
2. [サブスクリプションの管理] ページで、インスタンスを終了するソフトウェアのサブスクリプションを選択し、[管理] を選択します。
3. 特定のサブスクリプションページで、[アクション] ドロップダウンリストから [インスタンスの表示] を選択します。
4. 終了するインスタンスがある [リージョン] を選択します。これにより Amazon EC2 コンソールが開き、そのリージョンのインスタンスが新しいタブに表示されます。必要に応じて、このタブに戻って、終了するインスタンスのインスタンス ID を確認できます。
5. Amazon EC2 コンソールで、[インスタンス ID] を選択し、[インスタンスの詳細ページ] を開きます。
6. [インスタンスの状態] ドロップダウンリストから [インスタンスを終了] を選択します。
7. 確認を求めるメッセージが表示されたら、[Terminate (終了)] を選択してください。

終了するまでに数分かかります。

詳細情報

製品カテゴリとタイプの詳細については、「[製品カテゴリ](#)」および「[製品のタイプ](#)」を参照してください。

Amazon EC2 の詳細については、[Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント](#)でサービスのドキュメントを参照してください。

詳細については AWS、<https://aws.amazon.com/> を参照してください。

の製品カテゴリ AWS Marketplace

[AWS Marketplace](#) ウェブサイトは、それぞれにサブカテゴリを持つ主要なカテゴリで構成されています。このカテゴリとサブカテゴリに基づいて、検索とフィルタリングを行えます。

トピック

- [インフラストラクチャソフトウェア](#)
- [DevOps](#)
- [ビジネスアプリケーション](#)
- [機械学習](#)
- [IoT](#)
- [プロフェッショナルサービス](#)
- [デスクトップアプリケーション](#)
- [データ製品](#)
- [業界](#)

インフラストラクチャソフトウェア

このカテゴリの製品は、インフラストラクチャ関連のソリューションを提供します。

バックアップおよび復旧

ストレージおよびバックアップソリューションに使用する製品。

データ分析

データ分析に使用される製品。

ハイパフォーマンスコンピューティング

ハイパフォーマンスコンピューティング製品。

移行

移行プロジェクトに使用する製品。

ネットワークインフラストラクチャ

ネットワークソリューションの作成に使用する製品。

オペレーティングシステム

パッケージ化された Linux および Windows オペレーティングシステム。

セキュリティ

インフラストラクチャのセキュリティ製品。

ストレージ

ストレージに関わるジョブロールに重点を置いたアプリケーション。

DevOps

このカテゴリの製品は、開発者および開発者チーム向けのツールを提供します。

アジャイルなライフサイクル管理

アジャイルな SDLM に使用される製品。

アプリケーション開発

アプリケーション開発に使用する製品。

アプリケーションサーバー

アプリケーション開発に使用するサーバー。

アプリケーションスタック

アプリケーション開発に使用するスタック。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー

CI/CD に使用される製品。

Infrastructure as Code

インフラストラクチャに使用される製品。

問題およびバグの記録

開発者チームがソフトウェアのバグの追跡と管理に使用する製品。

モニタリング

オペレーティングソフトウェアの監視に使用する製品。

ログ分析

ログの記録と分析に使用する製品。

ソースコントロール

ソースコントロールの管理と維持に使用する製品。

テスト

ソフトウェア製品の自動テストに使用する製品。

ビジネスアプリケーション

このカテゴリの製品はビジネスの運用に役立ちます。

ブロックチェーン

ブロックチェーンに使用される製品。

コラボレーションおよび生産性

ビジネスにおけるコラボレーションを実現するために使用する製品。

コンタクトセンター

組織内のコンタクトセンターを有効活用するために使用される製品。

コンテンツ管理

コンテンツ管理に重点を置いた製品。

CRM

顧客関係管理に重点を置いたツール。

eコマース

eコマースソリューションを提供する製品。

eラーニング

eラーニングソリューションを提供する製品。

人事

組織内の人事部門を有効活用するために使用される製品。

IT ビジネスマネジメント

組織の IT ビジネスマネジメントを有効活用できるようにするために使用する製品。

ビジネスインテリジェンス

組織のビジネスインテリジェンスを有効活用できるようにするために使用する製品。

プロジェクト管理

プロジェクト管理用のツール。

機械学習

このカテゴリの製品は、Amazon SageMaker AI と連携する機械学習アルゴリズムとモデルパッケージを提供します。

ML ソリューション

機械学習ソリューション。

データラベリングサービス

データラベリング機能を提供する製品。

コンピュータビジョン

コンピュータビジョン機能を使用できるようにする製品。

自然言語処理

自然言語処理機能を使用できるようにする製品。

音声認識

音声認識機能を使用できるようにする製品。

[テキスト]

テキスト学習機能を使用できるようにする製品。分類、クラスタリング、編集/処理、組み込み、生成、文法/解析、識別、名前とエンティティの認識、センチメント分析、要約、テキスト読み上げ、翻訳などが含まれます。

イメージ

画像分析機能を使用できるようにする製品。3D、キャプション、分類、編集/処理、組み込み/機能抽出、生成、文法/解析、手書き文字認識、人/顔、物体検出、セグメント化/ピクセルラベリング、テキスト/OCR などが含まれます。

動画

ビデオ分析機能を使用できるようにする製品。分類、物体検出、編集/処理、異常検出、話者識別、モーション、再識別、要約、テキスト/キャプション、トラッキングなどが含まれます。

Audio

音声分析機能を使用できるようにする製品。話者識別、テキスト読み上げ、分類、歌識別、セグメント化などが含まれます。

構造化

構造化分析機能を使用できるようにする製品。分類、クラスタリング、次元削減、因数分解モデル、機能エンジニアリング、ランク付け、回帰、時系列予測などが含まれます。

IoT

IoT 関連ソリューションの作成に使用する製品。

分析

IoT ソリューション用の分析製品。

アプリケーション

IoT ソリューションスペース用のアプリケーション製品。

デバイスの接続

デバイスの接続の管理に使用する製品。

デバイスの管理

デバイスの管理に使用する製品。

デバイスのセキュリティ

IoT デバイスのセキュリティの管理に使用する製品。

産業における IoT

産業関連の IoT ソリューションの提供に重点を置いた製品。

スマートホームおよびスマートシティ

スマートホームおよびスマートシティソリューションを有効活用できるようにするために使用する製品。

プロフェッショナルサービス

このカテゴリの製品は、AWS Marketplace 製品に関連するコンサルティングサービスを提供します。

評価

組織に最適なソリューションを見つけるために、現在の運用環境を評価します。

実装

サードパーティー製ソフトウェアの設定、セットアップ、デプロイを支援します。

マネージドサービス

お客様に代わって、エンドツーエンドで環境を管理します。

Premium Support

お客様のニーズに合わせて設計された、エキスパートによるガイダンスやサポートを受けることができます。

トレーニング

従業員がベストプラクティスを学ぶのに役立つ、エキスパートによるカスタマイズされたワークショップ、プログラム、教育ツールを提供します。

デスクトップアプリケーション

このカテゴリの製品は、インフラストラクチャ関連のソリューションを提供します。

デスクトップアプリケーション

全般的な生産性を向上させたり特定のジョブロールを有効にしたりするためのデスクトップアプリケーションおよびユーティリティ。

AP および請求

アカウントの支払いと請求に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

アプリケーションとウェブ

汎用およびウェブ環境アプリケーション。

開発

開発に使用するアプリケーション。

ビジネスインテリジェンス

ビジネスインテリジェンスの管理に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

CAD および CAM

コンピュータ支援設計および製造に重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

GIS とマッピング

GIS とマッピングに重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

イラストレーションおよびデザイン

イラストレーションとデザインに重点を置いたジョブロールで使用するアプリケーション。

メディアおよびエンコード

メディアとエンコードに関わるジョブロールで使用するアプリケーション。

生産性およびコラボレーション

生産性の向上とコラボレーションの実現に重点を置いたアプリケーション。

プロジェクト管理

プロジェクトマネージャーのジョブロールで使用するアプリケーション。

セキュリティ、ストレージ、およびアーカイブ

セキュリティ、ストレージ、およびデータアーカイブに関わるジョブロールに重点を置いたアプリケーション。

ユーティリティ

さまざまなジョブロールで使用するユーティリティに重点を置いたアプリケーション。

データ製品

このカテゴリの製品は、ファイルベースのデータのセットです。詳細については、「[AWS Data Exchange ユーザーガイド](#)」を参照してください。

業界

教育および研究

教育および研究ソリューションを提供することを目的とする製品。

金融サービス

組織で金融サービスを利用できるようにする製品。

ヘルスケアおよびライフサイエンス

ヘルスケアおよびライフサイエンス業界で使用する製品。

メディアおよびエンターテインメント

メディア関連の製品とソリューション。

工業用

工業関連の製品およびソリューション。

エネルギー

エネルギー関連の製品およびソリューション。

で利用可能な製品タイプ AWS Marketplace

AWS Marketplace には、人気のあるオープンソースおよび商用ソフトウェアに加えて、無料および有料のデータ製品が含まれています。これらの製品は、個々の Amazon マシンイメージ (AMIs)、AWS CloudFormation テンプレートを通じてデプロイされた AMIs のクラスター、Software as a Service (SaaS)、プロフェッショナルサービス、AWS Data Exchange データ製品など、さまざまな方法で利用できます。

これらの製品タイプの詳細については、次のトピックを参照してください。

- [AMI ベースの製品](#) (AMI とプライベートイメージ製品を含む)
- [のコンテナ製品 AWS Marketplace](#)
- [の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace](#)
- [の機械学習製品 AWS Marketplace](#)
- [AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する](#)
- [AWS Marketplace 経由の SaaS 製品](#)

AWS Marketplace を使用して、AWS Data Exchange で利用可能なデータ製品を検索してサブスクライブすることもできます。詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクライブ](#)」を参照してください。

の AMI ベースの製品 AWS Marketplace

Amazon マシンイメージ (AMI) は、オペレーティングシステム、および多くの場合に AWS で動作する追加のソフトウェアを含むサーバーのイメージです。

にリストされているソフトウェア AWS Marketplace は、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) でのみ実行できます。ダウンロードすることはできません。

では AWS Marketplace、AMIs の検索 (検索候補を使用)、他の顧客から送信された製品レビューの表示、AMIs サブスクライブと起動、サブスクリプションの管理を行うことができます。すべての AWS Marketplace 製品の品質が検証され、Amazon Web Services (AWS) インフラストラクチャの 1-Click 起動機能用に事前設定されています。

AMI 製品と Software as a Service (SaaS) 製品の出品は、どちらも信頼できる販売者から提供されます。AMI 製品は、お客様の AWS アカウントで実行されます。ソフトウェア設定とソフトウェアで動

作するサーバーをより詳細に制御できますが、サーバーの設定とメンテナンスに関する責任も大きくなります。

AWS Marketplace カタログには、有名な販売者からの厳選されたオープンソースおよび商用ソフトウェアが含まれています。の多くの製品は、時間単位で購入 AWS Marketplace できます。

AMI カタログは、ユーザーや開発チームがコストのかかる調査を行うことなく開発中のソフトウェアやプロジェクトを表示および交換できるコミュニティリソースです。コミュニティの AMI カタログに表示される製品は、有名な販売者が提供するものである場合とそうでない場合があります、一般的には詳しい調査を行っていません。

AWS Marketplace 製品には、製品が利用可能な各 AWS リージョンに 1 つの AMI が含まれています。これらの AMI は、場所を除いて同じです。また、販売者が最新のパッチと更新プログラムで製品を更新するときに、製品に別の AMI セットを追加することがあります。

テンプレートを使用してクラスターとしてデプロイされるため、一部の AWS Marketplace 製品では AMI の複数のインスタンスが起動される場合があります AWS CloudFormation。このインスタンスのクラスターと CloudFormation テンプレートで設定された追加の AWS インフラストラクチャサービスは、単一製品のデプロイとして機能します。

AWS CloudFormation テンプレート

AWS CloudFormation は、AWS リソースのモデル化とセットアップに役立つサービスです。これにより、リソースの管理に費やす時間を減らし、で実行されるアプリケーションに集中する時間を増やすことができます AWS。CloudFormation テンプレートは、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスや Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) データベースインスタンスなど、必要なさまざまな AWS リソースを記述します。次に、CloudFormation はプロビジョニングとそのためのリソースの設定を行います。詳細については、[「の開始方法 AWS CloudFormation」](#)を参照してください。

AWS CloudFormation テンプレートの使用

ソフトウェア販売者は CloudFormation テンプレートを提供して、複数の AMI インスタンスやその他の AWS リソースで構成される優先デプロイトポロジを定義できます。製品に CloudFormation テンプレートを使用できる場合は、製品一覧ページにデプロイオプションとして表示されます。

AMI では単一の Amazon EC2 インスタンスをデプロイできます。CloudFormation テンプレートを使用して、クラスターとして機能する AMI の複数のインスタンスを、Amazon RDS、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、またはその他の AWS サービスなどの AWS リソースとともに、単一のソリューションとしてデプロイできます。

計測対応 AMI 製品

にリストされている一部の製品は AWS Marketplace、ソフトウェアアプリケーションによって測定された使用量に基づいて請求されます。計測された使用状況ディメンションの例として、ホスト/エージェントの使用状況や帯域幅の使用状況などがあります。これらの製品が正しく機能するには追加の設定が必要です。使用量を計測するアクセス許可を持つ IAMrole は、起動時に AWS Marketplace Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに関連付ける必要があります。Amazon EC2 の IAMroles [Amazon EC2 の IAM ロール](#)」を参照してください。

AMI 製品バージョンポリシー

AWS Marketplace は、S-AMI、CloudFormation テンプレートを使用した AMI、およびコンテナ製品を使用して、AWS 顧客と販売者のバージョン管理エクスペリエンスを自動化します。自動バージョンアーカイブでは、販売者によって 2 年以上制限されているすべての製品バージョンが自動的にアーカイブされます。アーカイブされたバージョンは、新規顧客向けに から AWS Marketplace 起動できなくなりましたが、既存のユーザーは AMI ID を指定することで、起動テンプレートと Amazon EC2 Auto Scaling グループを通じてアーカイブされたバージョンを引き続き使用できます。過去 13 か月間に新しいインスタンスの起動に使用されていないアーカイブバージョンは削除されます。アーカイブされたバージョンが削除されると、新規または既存のユーザーに対して起動できなくなります。

AWS Marketplace での AMI サブスクリプション

AWS Marketplace では、一部の Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品には、年間サブスクリプション料金モデルがあります。この料金モデルは一括前払いで、以降の 12 か月間は時間単位の使用料金はかかりません。1 つの Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに対して、AWS Marketplace のソフトウェア製品の 1 つの年間サブスクリプションを適用できます。

Note

年間料金による時間単位の AMI の場合、年間サブスクリプションは購入時に指定したインスタンスタイプのみを対象としています。例えば、t3.medium と指定します。他のインスタンスタイプを起動すると、アクティブなサブスクリプションに基づいて、そのインスタンスタイプの時間単位の料金が発生します。

また、AWS Marketplace のソフトウェアを時間単位の料金で起動および実行を継続できます。AWS Marketplace のソフトウェア製品を購入するために支払う料金に加えて、Amazon EC2 や AWS の他のサービスの使用料金が別途必要です。

Amazon EC2 インスタンスタイプを時間単位で使用するように変更した場合、Amazon EC2 インフラストラクチャは契約した Savings Plans に従って請求されます。ただし、AWS Marketplace の AMI ライセンスは自動的に時間単位の料金に変更されます。

時間単位の AMI 製品が年間料金をサポートしていない場合、購入者は年間サブスクリプションを購入できません。時間単位の AMI 製品が年間料金をサポートしている場合、購入者は AWS Marketplace の製品のページにアクセスして年間料金で購入できます。各年間契約では、購入者は時間単位の料金を請求されることなく 1 つのインスタンスを実行できます。契約は、インスタンスタイプによって異なります。

年次契約の変更

1 時間ごとの年次 (年次) プラン修正案では、AWS Marketplace 管理ポータル から直接プランを変更できます。より多くの vCPUs が搭載されている Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスタイプで実行するために AMI に切り替えるか、CPU アーキテクチャの最新世代に移行する場合は、修正案を使用できます。修正案により、既存の年間計画に以下の変更を加えることができます。

- Amazon EC2 インスタンスタイプファミリー間の切り替え
- Amazon EC2 インスタンスタイプサイズ間の切り替え
- 新しいインスタンスタイプを追加する
- 契約内の既存のインスタンスタイプの数量を増やす

契約で追加または切り替えた新しい Amazon EC2 インスタンスタイプは、プランの現在の終了日に同時終了されるため、契約内のすべてのインスタンスタイプが同時に更新されます。

変更の比例配分コストが 0 より大きい限り、変更を行うことができます。新しく追加された Amazon EC2 インスタンスの日割コストは、契約の残りの期間に合わせて調整されたインスタンスタイプの年次コストに基づいています。インスタンスタイプを切り替える場合、削除された Amazon EC2 インスタンスタイプの比例配分コストは、新しく追加された Amazon EC2 インスタンスタイプの日割コストから差し引かれます。

Note

修正案は、パブリックオファーから行われたすべての契約と、分割プランなしのプライベートオファーからの契約でサポートされます。

年間契約修正案の例

年次契約の修正案に関する以下の例を検討してください。次の例では、顧客は 2024 年 1 月 1 日に m5.large インスタンスタイプの 2 つのユニット (4,000 USD/年) の契約に署名しました。販売者には、8,000 USD から出品料を差し引いた金額が支払われます。

Example 1: 同じ数のインスタンスタイプに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを r5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替え日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の r5.large - 2,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 0 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 2: より高価なインスタンスタイプに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを m5.2xlarge インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。スイッチの日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.2xlarge - 3,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 1,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 3: 低価格インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを c5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替えの日割額コストは、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の c5.large - 1,500 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは - 500 USD (0 USD 未満) であるため、修正は発生しません。

Example 4: 低価格インスタンスタイプの複数のユニットに切り替える

年半ばに、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを c5.large インスタンスタイプの 2 つのユニットに切り替えたいと考えています。切り替えの日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月分の 2 つの c5.large - 3,000 USD) から、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月分の m5.large - 2,000 USD) を差し引いて計算されます。正味コストは 1,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 5: 新しいインスタンスタイプを追加する

年半ば、顧客は m5.large インスタンスタイプの追加ユニットを契約に追加したいと考えています。この変更の日割額は、追加されたインスタンスの日割額 (6 か月の m5.large - 2,000 USD) として計算されます。正味コストは 2,000 USD であるため、修正が発生する可能性があります。

Example 6: インスタンスタイプを削除する

年半ば、顧客は m5.large インスタンスタイプの 1 つのユニットを削除したいと考えています。この変更の日割額は、削除されたインスタンスの日割額 (6 か月の m5.large - 2,000 USD) として計算されます。正味コストは - 2,000 USD (0 USD 未満) であるため、修正は発生しません。

で契約料金が設定されている AMI 製品 AWS Marketplace

一部の販売者は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品を契約料金モデルで販売しています。このモデルでは、選択した期間、ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。を通じて事前に請求されます AWS アカウント。例えば、1 年間に 10 件のユーザーアクセスライセンスと 5 件の管理ライセンスを購入するとします。ライセンスを自動的に更新するように選択できます。

さらに、一部の企業では、契約料金モデルでプライベート AMI ベースのソフトウェア製品を提供しています。通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

AMI ベースのソフトウェア製品契約は、の製品の詳細ページを使用して購入できます AWS Marketplace。このオプションが利用可能な場合、商品の詳細ページの [配信方法] に、[契約料金による AMI] が表示されます。製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定を行うために、製品のウェブサイトが表示されます。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

契約料金の AMI 製品をサブスクライブする

販売者は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品に対してパブリック契約またはプライベート契約を提案できます。ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。

契約がパブリックオファーである場合は、契約の期間とライセンスを自動更新するかどうかを選択できます。

通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

契約料金モデルによるパブリックオファーの AMI ベースの製品をサブスクライブするには

1. AWS Marketplace にサインインして、契約料金モデルによるコンテナベースのソフトウェア製品を検索します。
2. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

3. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。

サブスクライブせずにこの製品を保存するには、[リストに保存する] を選択します。

4. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。
 - a. [1 か月]、[12 か月]、[24 か月]、[36 か月] の中から契約期間を選択します
 - b. [更新設定] で、契約を自動的に更新するかどうかを選択します。
 - c. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。

契約料金の合計は、[料金の詳細] に表示されます。

5. すべての選択を完了したら、[Create Contract (契約の作成)] を選択します。

契約料金の合計が AWS アカウント に請求されます。ライセンスは AWS License Manager で生成されます。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが AWS License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

契約料金モデルによるプライベートオファターの AMI ベースの製品をサブスクライブするには

1. 購入者アカウントで AWS Marketplace にサインインします。
2. プライベートオファターが表示されます。
3. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

4. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。
5. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。

契約期間は既に販売者が設定しており、変更できません。

6. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。
7. [料金の詳細] で契約料金の合計を表示します。

また、パブリックオファターは、[ご利用いただけるその他のオファター] の [オファターを表示] を選択して確認できます。

8. すべての選択を完了したら、[Create Contract (契約の作成)] を選択します。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが AWS License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

AMI ベースソフトウェアへのアクセス

契約料金で Amazon マシンイメージ (AMI) ベースソフトウェア製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定のために製品のウェブサイトに移ります。その後、通常の AWS アカウント請求レポートに利用料金が表示されます。

AMI ベースのソフトウェア製品にアクセスするには

1. AWS Marketplace コンソールで [サブスクリプションを表示] に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで、次の手順を実行します。

- a. [ライセンスを管理] を選択すると、AWS License Manager での使用権限のアクセス許可の付与、使用状況を追跡できます。
- b. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。
3. [起動] ページの設定を確認し、[アクションを選択] でソフトウェアの起動方法を選択します。
4. [インスタンスタイプを選択] で、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を選択し、次に [次の手順: インスタンスの詳細の設定] を選択します。
5. [インスタンスの詳細の設定] ページの [IAM ロール] で、AWS アカウント から既存の AWS Identity and Access Management (IAM) ロールを選択します。

IAM ロールがない場合は、[新しい IAM ロールを手動で作成] リンクを選択し、その手順に従ってください。

Note

契約料金で製品を購入すると、License Manager API を使用して確認できるライセンスが AWS Marketplace によって AWS アカウント に作成されます。AMI ベースの製品のインスタンスを作成するには、IAM ロールが必要です。IAM ポリシーでは、次の IAM アクセス許可が必要です。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "license-manager:CheckoutLicense",
        "license-manager:GetLicense",
        "license-manager:CheckInLicense",
        "license-manager:ExtendLicenseConsumption",
        "license-manager:ListReceivedLicenses"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

6. インスタンスの詳細を設定したら、[確認と作成] を選択します。

7. [インスタンス作成の確認] ページで、既存のキーペアを選択するか、新しいキーペアを作成し、[インスタンスの作成] を選択します。

[インスタンスの作成を開始する] 進行状況ウィンドウが表示されます。

8. インスタンスが開始されたら、EC2 ダッシュボードに移動し、[インスタンス] の下の [インスタンスの状態] に [実行中] と表示されていることを確認します。

生成されたライセンスを表示する

AMI ベース製品をサブスクライブすると、AWS License Manager でライセンスが生成されます。[発行者] (AWS/マーケットプレイス) および [使用権限] (ライセンスによってアプリケーションやリソースの使用、アクセス、消費する権限を与える単位) を表示できます。

生成されたライセンスを表示するには

1. AWS License Manager で AWS アカウント にサインインします。
2. [付与されたライセンス] には、付与されたライセンスがすべて表示されます。
3. [検索] バーに、製品 SKU、受取人、または状態を入力してライセンスを検索します。
4. [ライセンス ID] を選択すると、[ライセンスの詳細] が表示されます。

既存の契約を変更する

AMI 製品に対する既存の前払い契約がある場合、AWS Marketplace 購入者は契約の一部の側面を変更できます。AMI 契約は、時間単位または年単位の Flexible Consumption Pricing (FCP) オファーではなく、契約条件ベースのオファーによってサポートされています。この機能は、と統合されているアプリケーションでのみ使用できます AWS License Manager。購入者は、現在の契約と同一オファーの使用権限の範囲内で、追加ライセンスを購入できます。ただし、購入者は契約で購入した使用権限の数を減らすことはできません。また、販売者がオプションを有効にしている場合、購入者はサブスクリプションの自動更新をキャンセルできます。

Note

Flexible Payment Schedule (FPS) 契約のオファーは変更できません。FPS で購入した契約では、購入者が使用権限を変更することはできません。使用権限とは、アプリケーションやリソースを使用、アクセス、消費する権利のことです。FPS オファーは変更できません。

サブスクリプションを管理する

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. リストから [条件を表示] を選択します。
4. [契約オプション] セクションで、矢印を使って使用権限を増やします。使用権限の数は、購入した使用権限の数よりも減らすことはできません。
5. 契約の詳細と合計金額は [料金の詳細] セクションに表示されます。

サブスクリプションの自動更新をキャンセルするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. [サブスクリプション] ページで、[更新設定] セクションを見つけます。
4. キャンセルに関する利用規約を必ずご確認ください。
5. チェックボックスをオンにすると、自動更新がキャンセルされます。

での AMI 製品のコスト配分タグ付け AWS Marketplace

AWS Marketplace は、Amazon マシンイメージ (AMI) ベースのソフトウェア製品のコスト配分タグ付けをサポートしています。新規および既存の Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスタグは、対応する AMI AWS Marketplace の使用に対して自動的に入力されます。アクティブ化されたコスト配分タグを使用して、AWS、コストと使用状況レポート AWS Cost Explorer、AWS 予算、またはその他のクラウド支出分析ツールを通じて AMI の使用状況を特定して追跡できます。

AMI を提供したベンダーでは、製品固有の情報に基づいて、AMI ベースの製品の計測に他のカスタムタグを記録する場合があります。詳細については、[コスト配分タグを使用する](#)を参照してください。

タグを使用してリソースを整理し、コスト配分タグを使用して AWS のコストを詳細レベルで追跡できます。コスト配分タグを有効にすると、はコスト配分タグ AWS を使用してコスト配分レポートでリソースコストを整理し、AWS コストの分類と追跡を容易にします。

コスト配分タグは、タグが Billing and Cost Management コンソールでアクティブ化された時点からのコストのみを追跡します。アカウントの請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできるのは、AWS アカウント 所有者、AWS Organizations 管理アカウントの所有者、および適切なアクセス許可を持つユーザーのみです。コスト配分タグを使用するかどうかにかかわらず、請求額に変更はありません。コスト配分タグを使用するかどうかは、AMI ベースのソフトウェア製品の機能には影響しません。

複数のインスタンス間での 1 つの AMI のコスト配分タグの追跡

AMI サブスクリプション用に起動された各 Amazon EC2 AWS Marketplace インスタンスには、AWS Marketplace AWS コストと使用状況レポートに対応するソフトウェア使用状況の明細項目があります。AWS Marketplace 使用状況には、対応する Amazon EC2 インスタンスに適用された特定のタグが常に反映されます。これにより、割り当てられたさまざまなタグ値に基づいて、インスタンスレベルで AWS Marketplace 使用コストを区別できます。

また、タグベースの使用コストを合計して、Cost Explorer または AWS Cost and Usage レポートで請求書に反映された AMI ソフトウェア使用料と等しくなるようにすることもできます。

コスト配分タグ付きインスタンスを使用した予算の検索

Billing and Cost Management コンソールで、複数の Amazon EC2 インスタンスのコスト配分タグでフィルタリング済みの有効な予算が既にある場合、それらすべてを見つけるのは難しい場合があります。次の Python スクリプトは、現在の AWS リージョンの AWS Marketplace からの Amazon EC2 インスタンスを含む予算のリストを返します。

このスクリプトを使用して、予算への潜在的な影響、およびこの変更によってオーバーランが発生する可能性がある場所を認識することができます。請求額は変更されませんが、コスト配分はより正確に反映され、これが予算に影響する可能性があることに注意してください。

```
#!/usr/bin/python

import boto3

session = boto3.Session()
b3account=boto3.client('sts').get_caller_identity()['Account']
print("using account {} in region {}".format(b3account,session.region_name))

def getBudgetFilters(filtertype):
    ...
    Returns budgets nested within the filter values [filter value][budeget name].
```

```

The filtertype is the CostFilter Key such as Region, Service, TagKeyValue.
'''
budget_client = session.client('budgets')
budgets_paginator = budget_client.get_paginator('describe_budgets')
budget_result = budgets_paginator.paginate(
    AccountId=b3account
).build_full_result()
returnval = {}
if 'Budgets' in budget_result:
    for budget in budget_result['Budgets']:
        for cftype in budget['CostFilters']:
            if filtertype == cftype:
                for cfval in budget['CostFilters'][cftype]:
                    if cfval in returnval:
                        if not budget['BudgetName'] in returnval[cfval]:
                            returnval[cfval].append(budget['BudgetName'])
                    else:
                        returnval[cfval] = [ budget['BudgetName'] ]
return returnval

def getMarketplaceInstances():
    '''
    Get all the Amazon EC2 instances which originated with AWS Marketplace.
    '''
    ec2_client = session.client('ec2')
    paginator = ec2_client.get_paginator('describe_instances')
    returnval = paginator.paginate(
        Filters=[{
            'Name': 'product-code.type',
            'Values': ['marketplace']
        }]
    ).build_full_result()
    return returnval

def getInstances():
    mp_instances = getMarketplaceInstances()
    budget_tags = getBudgetFilters("TagKeyValue")
    cost_instance_budgets = []
    for instance in [inst for resrv in mp_instances['Reservations'] for inst in
resrv['Instances'] if 'Tags' in inst.keys()]:
        for tag in instance['Tags']:
            # combine the tag and value to get the budget filter string
            str_full = "user:{{}}${}".format(tag['Key'], tag['Value'])

```

```
    if str_full in budget_tags:
        for budget in budget_tags[str_full]:
            if not budget in cost_instance_budgets:
                cost_instance_budgets.append(budget)
print("\r\nBudgets containing tagged Marketplace EC2 instances:")
print( '\r\n'.join([budgetname for budgetname in cost_instance_budgets]) )

if __name__ == "__main__":
    getInstances()
```

出力例

```
Using account 123456789012 in region us-east-2
```

```
Budgets containing tagged Marketplace EC2 instances:
EC2 simple
MP-test-2
```

関連トピック

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[コスト配分タグの使用](#)」。
- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS 生成コスト配分タグの有効化](#)」。
- 「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「[Amazon EC2 リソースにタグをつける](#)」

での AMI エイリアスの使用 AWS Marketplace

Amazon マシンイメージ (AMI) は、AMI ID で識別されます。AMI ID を使用して、製品を起動する際に使用する AMI を指定できます。AMI ID は `ami-identifier` の形式で、例えば `ami-123example456` などです。AMI (AMI ID) は、AWS リージョン、製品、製品バージョンによって異なります。

から製品を起動すると AWS Marketplace、 が自動的に入力AMI IDされます。を用意しておくAMI IDと、AWS Command Line Interface (AWS CLI) から、または Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を使用して製品の起動を自動化する場合に便利です。AMI ID は、起動時にソフトウェアを設定すると確認できます。詳細については、「[ステップ 3: ソフトウェアを設定する](#)」を参照してください。

ソフトウェアの設定時には、Ami Alias も AMI ID と同じ場所にあります。Ami Alias は AMI ID と似たような ID ですが、その方が自動化で簡単に使用できます。AMI alias は `aws/service/marketplace/prod-<identifier>/<version>` の形式で、例えば `aws/service/marketplace/prod-1234example5678/12.2` などです。この Ami Alias ID は任意のリージョンで使用でき、AWS は自動的に正しいリージョンにマッピングしますAMI ID。

製品の最新バージョンを使用する場合は、`latest` の代わりに `latest` という用語を使用して、`aws/service/marketplace/prod-1234example5678/latest` が製品の最新バージョン AWS を選択するAMI aliasようにします。たとえば、`aws/service/marketplace/prod-1234example5678/latest`。

Warning

latest オプションを使用すると、ソフトウェアの最新のリリースが提供されます。ただし、この機能を使用するには注意する必要があります。例えば、ある製品にバージョン 1.x と 2.x がある場合、2.x を使用している可能性があります。ここで、製品の最新リリースバージョンは 1.x のバグ修正である場合があります。

AMI エイリアスの使用例

AMI エイリアスは自動化に役立ちます。または テンプレート AWS CLI で AWS CloudFormation 使用できます。

次の例では、AWS CLIを使用することにより、AMI エイリアスを使用してインスタンスエイリアスを起動しています。

```
aws ec2 run-instances
--image-id resolve:ssm:/aws/service/marketplace/prod-<identifier>/version-7.1
--instance-type m5.xlarge
--key-name MyKeyPair
```

次の例では、AMI エイリアスを入力パラメータとして受け入れ、インスタンスを作成する CloudFormation テンプレートを示しています。

```
AWSTemplateFormatVersion: 2010-09-09

Parameters:
  AmiAlias:
    Description: AMI alias
```

```
Type: 'String'

Resources:
  MyEC2Instance:
    Type: AWS::EC2::Instance
    Properties:
      ImageId: !Sub "resolve:ssm:${AmiAlias}"
      InstanceType: "g4dn.xlarge"
      Tags:
        -Key: "Created from"
          Value: !Ref AmiAlias
```

の EC2 Image Builder コンポーネント製品 AWS Marketplace

EC2 Image Builder と の統合 AWS Marketplace により、カスタマイズされた Amazon マシンイメージ (AMIs) 内のサードパーティーの EC2 Image Builder コンポーネントを検出、デプロイ、管理できます。

購入者は、EC2 Image Builder [コンソール](#)または [から直接](#)、[サードパーティーの EC2 Image Builder コンポーネント](#)を検出してサブスクライブできます [AWS Marketplace](#)。新しいゴールデンイメージを構築するときは、Image Builder から直接複数のサードパーティーコンポーネントを選択し、Image Builder レシピに追加できます。

EC2 Image Builder と の統合 AWS Marketplace により、次の機能と利点を活用できます。

- セキュリティスキャナー、モニタリングエージェント、OS 強化スクリプト、分析ツール、ビジネスアプリケーションなどのさまざまなツールをイメージ構築プロセスに組み込みます。
- Image Builder パイプラインで複数のコンポーネントを組み合わせて、カスタマイズされたゴールデンイメージを作成します。
- を使用して、組織全体での調達、一括請求、ライセンス共有を簡素化できます AWS License Manager。
- 組織全体でゴールデンイメージを共有し、すべての EC2 イメージが確立されたセキュリティおよび規制要件に準拠していることを確認します。
- AWS Marketplaceソースコンポーネントの継続的な脆弱性スキャンでセキュリティを確保します。
- 新しいソフトウェアバージョンに関する通知を最新の状態に保ち、ゴールデンイメージの自動更新を設定します。

のコンテナ製品 AWS Marketplace

コンテナ製品は、コンテナイメージとして提供されるスタンドアロン製品です。コンテナ製品は無料の場合もありますが、販売者が提供する料金オプションによって支払いが必要な場合もあります。コンテナ製品は、[Amazon Elastic Container Service](#) (Amazon ECS)、[Amazon Elastic Kubernetes Service](#) (Amazon EKS)、さらに独自のインフラストラクチャ上で実行されるサービスなど、複数のコンテナランタイムやサービスで使用できます。サポートされているランタイムとサービスのすべてのリストと、それぞれの詳細については、「[コンテナ製品向けのサポート対象のサービス](#)」を参照してください。

コンテナ製品は、AWS Marketplace ウェブサイトまたは Amazon ECS コンソールで検出、サブスクライブ、デプロイできます。タスク定義や Helm チャートなど、販売者が提供するデプロイテンプレートを使用して、Amazon ECS や Amazon EKS に多くの製品をデプロイできます。また、製品にサブスクライブした後に、プライベート [Amazon Elastic Container Registry](#) (Amazon ECR) リポジトリからコンテナイメージに直接アクセスできます。

製品で QuickLaunch が有効になっている場合は、わずか数ステップで Amazon EKS クラスターでコンテナ製品をすばやくテストできます。QuickLaunch は AWS CloudFormation を使用して Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターでコンテナソフトウェアを起動します。QuickLaunch による起動の詳細については、「[AWS Marketplace での QuickLaunch](#)」を参照してください。

このセクションでは、AWS Marketplaceでのコンテナ製品の検索、サブスクリプション、起動について説明しています。

有料コンテナ製品の料金モデル

有料コンテナ製品には、1 つ以上の料金モデルが必要です。その他の有料製品と同様に AWS Marketplace、料金モデル AWS に従って、によって有料コンテナ製品の料金が請求されます。料金モデルには、固定月額料金と時間単位の料金があります。時間単位の料金は秒単位でモニタリングして日割り計算されます。料金の詳細は、製品登録時に詳細ページに表示されます。

のコンテナ製品でサポートされている料金モデル AWS Marketplace は次のとおりです。

- 無制限の使用を提供する固定月額料金。
- 長期契約期間中の製品使用に対する前払い料金。
- 製品の使用状況に応じた従量制料金モデル (通常は 1 時間ごと)。
- 契約料金による前払いモデル。

各モデルの詳細については、「AWS Marketplace 販売者ガイド」の「[コンテナ製品料金表](#)」を参照してください。

コンテナ製品向けのサポート対象のサービス

次のリストには、AWS Marketplaceのコンテナ製品でサポート対象のすべてのサービスが含まれています。サポート対象のサービスとは、製品を起動できるコンテナサービスまたは環境です。コンテナ製品には、1つ以上の環境への起動手順が記載された配信方法を含むフルフィルメントオプションが少なくとも1つ含まれている必要があります。

Amazon ECS

Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) は、スケーラビリティの高い、高速のコンテナ管理サービスで、クラスターでコンテナの実行、停止、管理に使用できます。コンテナは、個々のタスクやサービス内のタスクを実行するために使用するタスク定義で定義されます。ここでのサービスとは、クラスター内で指定された数のタスクを同時に実行および維持する構成のことです。タスクとサービスは、が管理するサーバーレスインフラストラクチャで実行できます AWS Fargate。または、インフラストラクチャをより詳細に制御するために、管理する Amazon EC2 インスタンスのクラスターでタスクとサービスを実行できます。

Amazon ECS の詳細については、「Amazon Elastic Container Service デベロッパガイド」の「[Amazon Elastic Container Service とは](#)」を参照してください。

Amazon EKS

Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) は、AWS で Kubernetes を簡単に実行できるようにするマネージド型サービスです。独自の Kubernetes コントロールプレーンまたはノードをインストール、操作、維持する必要はありません。Kubernetes は、コンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、スケーリング、および管理を自動化するためのオープンソースシステムです。

Amazon EKS コンソールを使用して、サードパーティーの Kubernetes ソフトウェアを検索、サブスクライブ、デプロイできます。詳細については、「Amazon EKS ユーザーガイド」の「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

セルフマネージド型 Kubernetes

コンテナ製品は、EKS Anywhere で実行中のセルフマネージド型 Kubernetes クラスター、Amazon ECS Anywhere、Amazon EC2、またはオンプレミスのインフラストラクチャで起動できます。

Amazon ECS Anywhere は Amazon ECS の機能の 1 つで、顧客が管理するインフラストラクチャ上でコンテナワークロードを実行および管理するために使用できます。Amazon ECS Anywhere は

Amazon ECS を基盤としており、コンテナベースのアプリケーション全体で整合性のあるツールと API エクスペリエンスを提供します。

詳細については、「[Amazon ECS Anywhere](#)」を参照してください。

EKS Anywhere は、顧客が管理するインフラストラクチャに Amazon EKS クラスターを作成するために使用できるサービスです。EKS Anywhere は、サポートされていないローカル環境としてデプロイすることも、サポート対象のオンプレミスの Kubernetes プラットフォームとして使用できる本番環境としてデプロイすることもできます。

EKS Anywhere の詳細については、[EKS Anywhere ドキュメント](#)を参照してください。

コンテナと Kubernetes の概要

Docker コンテナなどのコンテナは、仮想化されたオペレーティングシステム (Linux や Windows Server など) に対して抽象化と自動化の追加レイヤーを提供する、オープンソースのソフトウェアテクノロジーです。仮想マシンがサーバーイメージのインスタンスであるのと同様に、コンテナは Docker コンテナイメージのインスタンスです。コンテナでは、サーバーアプリケーションソフトウェアが、その実行に必要なあらゆるもの (コード、ランタイム、システムツール、システムライブラリなど) が含まれているファイルシステムでラップされます。コンテナを使用することにより、ソフトウェアは環境に関係なく常に同じように動作します。

Java 仮想マシンと同様に、コンテナでは、変換レイヤーとオーケストレーションレイヤーを提供し、オペレーティングシステムとコンテナ間および各コンテナ間を分離するための、基盤となるプラットフォームが必要です。Docker コンテナで使用できるさまざまな Docker 互換ランタイムおよびオーケストレーションサービスがあります。これには、用の非常にスケーラブルで高性能なオーケストレーションサービスである Amazon ECS や AWS、オープンソースの管理およびオーケストレーションサービスである [Kubernetes](#) を使用してコンテナ化されたアプリケーションのデプロイ、管理、スケーリングを容易にする Amazon EKS が含まれます。

AWS Marketplace でコンテナ製品を検索する

コンテナ製品は、AWS Marketplace で、コンテナイメージで起動できる製品です。コンテナ製品には、AWS Marketplace で販売者がフィルフィルメントオプションとしてコンテナイメージ、Helm チャート、Amazon EKS 向けアドオンの配信方法を提供しているすべての製品が含まれます。コンテナ製品の配信方法の詳細については、「[コンテナ製品の配信方法](#)」を参照してください。

コンテナ製品のフルフィルメントオプションには、サポート対象のサービスとも呼ばれる多くの起動環境が用意されています。起動環境には Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS)、Amazon

Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) などのサービスや、独自のセルフマネージド型インフラストラクチャが含まれます。使用可能なコンテナ製品の起動環境の詳細なリストについては、「[コンテナ製品向けのサポート対象のサービス](#)」を参照してください。

AWS Marketplace ウェブサイトを使用してコンテナ製品を検索する

AWS Marketplace の [製品詳細] ページには、次の情報を含む製品詳細が表示されます。

- [製品概要] - 概要には、製品の説明と次の情報が含まれます。
 - 表示されている製品のバージョン。
 - 販売者のプロフィールへのリンク。
 - この製品が属する製品カテゴリ。
 - このソフトウェアを実行するためにサポートされているオペレーティングシステム。
 - ソフトウェアの起動に使用できる配信方法。
 - この製品を起動できるサポート対象のサービス。
- [料金情報] - 製品には、無料利用枠、Bring-Your-Own-License (BYOL)、契約料金による前払い、月額または年額の固定料金、時間単位の従量制料金があります。料金モデルの詳細については、「[コンテナ製品料金表](#)」を参照してください。
- [使用状況情報] - 販売者が提供するフルフィルメントオプションと、ソフトウェアの起動と実行の手順が記載されています。各製品には少なくとも1つのフルフィルメントオプションが必要で、最大5つまで指定できます。各フルフィルメントオプションには、配信方法と、ソフトウェアの起動と実行の手順が記載されています。
- [サポート情報] - このセクションには、製品のサポートを受ける方法と返金ポリシーに関する詳細が含まれています。
- [カスタマーレビュー] - 他のユーザーからの製品レビューを検索したり、自分でレビューを書いたりできます。

AWS Marketplace ウェブサイトを使用してコンテナ製品を検索する

1. [\[AWS Marketplace 検索ページ\]](#) に移動します。
2. コンテナイメージまたは Helm チャートで、配信方法をフィルタリングします。
3. (オプション) サポート対象のサービスをフィルタリングして、製品を起動できるサービスで検索結果を絞り込みます。

関心のある製品が見つかったら、タイトルを選択して [製品の詳細] ページに移動します。

Amazon ECS コンソールを使用してコンテナ製品を検索する

Amazon ECS コンソールでコンテナ製品を見つけることもできます。ナビゲーションペインに、AWS Marketplace の新しい製品を検出するリンクと、既存のサブスクリプションを確認するリンクがあります。

コンテナ製品の配信方法

AWS Marketplace の製品には、販売者がフルフィルメントオプションとしてコンテナイメージ、Helm チャート、Amazon EKS 向けアドオンの少なくとも 1 つを提供している場合、コンテナ製品とみなされます。

コンテナイメージの配信方法

コンテナイメージの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これは Amazon Elastic Container Registry の AWS Marketplace レジストリから Docker イメージを直接プルすることにより行われます。この配信方法による起動の詳細については、「[コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する](#)」を参照してください。

Helm チャートの配信方法

Helm チャートの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順またはデプロイテンプレートに従って製品を販売します。これを行うには、Helm CLI を使用して Helm チャートをインストールします。アプリケーションは、既存の Amazon EKS クラスター、EKS Anywhere のセルフマネージド型クラスター、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、またはオンプレミスで起動できます。この配信方法による起動の詳細については、「[Helm フルフィルメントオプションで起動する](#)」を参照してください。

Amazon EKS アドオンの配信方法

Amazon EKS アドオンの配信方法を使用したフルフィルメントオプションの場合、Amazon EKS コンソールまたは Amazon EKS CLI を使用して製品を起動します。Amazon EKS アドオンの詳細については、「[Amazon EKS アドオン](#)」を参照してください。

AWS Marketplace で製品をサブスクライブする

製品を使用するには、まずその製品をサブスクライブする必要があります。サブスクリプションページでは、有料製品の料金情報を確認でき、ソフトウェアのエンドユーザー使用許諾契約 (EULA) にアクセスできます。

コンテナ契約料金の製品の場合は、契約料金を選択し、[契約に同意する] を選択して続行します。製品のサブスクリプションが作成され、その製品を使用するための使用権限が提供されます。サブスクリプションが完了するまでに 1~2 分程度かかります。有料製品の使用権限を受け取った後、その製品の使用を開始すると課金されます。そのソフトウェアの実行中のインスタンスを 1 つでも削除せずにサブスクリプションをキャンセルした場合、ソフトウェアの使用状況に対する課金は継続されます。また、その製品の使用に関連するインフラストラクチャの料金が発生する場合があります。たとえば、ソフトウェア製品をホストするために新規 Amazon EKS クラスターを作成した場合は、そのサービスに対して課金されます。

Note

コンテナベースの製品をサブスクライブしてデプロイする方法については、次の動画も参照してください。

- [Amazon ECS クラスターの AWS Marketplace コンテナをデプロイする \(3:34\)](#)
- [Amazon ECS Anywhere を使用して AWS Marketplace コンテナベースの製品をデプロイする \(5:07\)](#)
- [Amazon EKS アドオンの管理](#)

で契約料金が設定されているコンテナ製品 AWS Marketplace

一部の販売者は、公開コンテナベースのソフトウェア製品を契約料金モデルで販売しています。このモデルでは、選択した期間、ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。これは、AWS アカウント経由で事前請求されます。

Example 異なるライセンスを異なる数量で購入する例

例えば、1 年間に 10 件のユーザーアクセスライセンスと 5 件の管理ライセンスを購入するとします。ライセンスを自動的に更新するように選択できます。

さらに、一部の企業では、契約料金モデルでプライベートコンテナベースのソフトウェア製品を提供しています。通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

コンテナベースのソフトウェア製品の契約は、AWS Marketplace の [製品の詳細] ページから購入できます。このオプションが利用可能な場合、商品の詳細ページの [配信方法] に、[契約料金による AMI] が表示されます。製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定を行うために、製品の

ウェブサイトが表示されます。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

AWS Marketplace での契約料金のコンテナ製品をサブスクライブする

販売者は、コンテナベースのソフトウェア製品に対してパブリック契約またはプライベート契約を提供できます。ソフトウェア製品にアクセスするための個別のライセンスについて、一括で前払いすることに同意したものとみなされます。

契約がパブリックオファーである場合は、契約の期間とライセンスを自動更新するかどうかを選択できます。

通常、プライベートオファーは期間が決まっており、変更できません。

契約料金モデルによるパブリックオファーのコンテナベースの製品をサブスクライブするには

Note

Amazon EKS を使用してサブスクライブする方法の詳細については、「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

1. AWS Marketplace にサインインして、契約料金モデルによるコンテナベースのソフトウェア製品を検索します。
2. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) に対する [単位] と料金を確認できます。
3. サブスクリプションを開始するには、[サブスクライブを続ける] を選択します。

サブスクライブせずにこの製品を保存するには、[リストに保存する] を選択します。
4. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。
 - a. [1 か月]、[12 か月]、[24 か月]、[36 か月] の中から契約期間を選択します。
 - b. [更新設定] で、契約を自動的に更新するかどうかを選択します。
 - c. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。
契約料金の合計は、[料金の詳細] に表示されます。
5. すべての選択を完了したら、[契約書を作成] を選択します。

契約料金の合計が AWS アカウント に請求され、お客様の AWS License Manager にライセンスが生成されます。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

契約料金モデルによるプライベートオファターのコンテナベースの製品をサブスクライブするには

Note

Amazon EKS を使用してサブスクライブする方法の詳細については、「[Amazon EKS アドオンの管理](#)」を参照してください。

1. 購入者アカウントで AWS Marketplace にサインインします。
2. プライベートオファターが表示されます。
3. [調達] ページで、[料金情報] を表示します。

各期間 (月単位) の [単位] と料金を確認できます。

4. [サブスクライブを続ける] を選択して、サブスクリプションを開始します。
5. 料金情報を確認し、ソフトウェア製品の条件を設定して契約を作成します。

契約期間は既に販売者が設定しており、変更できません。

6. [契約オプション] で、各単位の数量を選択します。
7. [料金の詳細] で契約料金の合計を表示します。

また、パブリックオファターは、[ご利用いただけるその他のオファター] の [オファターを表示] を選択して確認できます。

8. すべての選択を完了したら、[契約書を作成] を選択します。

Note

サブスクリプションを処理し、ソフトウェア製品のライセンスが License Manager アカウントに生成されるまで、最大 10 分かかる場合があります。

コンテナベースのソフトウェアへのアクセス

契約料金をコンテナベースのソフトウェア製品を購入すると、アカウントのセットアップと設定のために製品のウェブサイトに遷移します。その後、通常の AWS アカウントの請求レポートに使用料金が表示されます。

コンテナベースのソフトウェア製品にアクセスするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで、次の手順を実行します。
 - a. ライセンスの管理を選択して、使用権限の表示、アクセス許可の付与、使用状況の追跡を行います AWS License Manager。
 - b. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。
3. [起動] ページで、コンテナイメージの詳細を確認し、表示される手順に従います。

Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) クラスターを作成する場合、IAM ポリシーに次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を追加する必要があります。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "license-manager:CheckoutLicense",
        "license-manager:GetLicense",
        "license-manager:CheckInLicense",
        "license-manager:ExtendLicenseConsumption",
        "license-manager:ListReceivedLicenses"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

```
    }  
  ]  
}
```

生成されたライセンスを表示する

コンテナベースの製品をサブスクライブすると、ライセンスがで生成されます AWS License Manager。[発行者] (AWS/マーケットプレイス) および [使用権限] (ライセンスによってアプリケーションやリソースの使用、アクセス、消費する権限を与える単位) を表示できます。

生成されたライセンスを表示するには

1. AWS License Manager を使用して にサインインします AWS アカウント。
2. [付与されたライセンス] には、付与されたライセンスがすべて表示されます。
3. [検索] バーに、製品 SKU、受取人、または状態を入力してライセンスを検索します。
4. [ライセンス ID] を選択すると、[ライセンスの詳細] が表示されます。

既存の契約を変更する

コンテナ製品に対する既存の前払いコミットメントがある場合、AWS Marketplace 購入者は契約の一部の側面を変更できます。コンテナ契約は、時間単位または年単位の Flexible Consumption Pricing (FCP) オファーではなく、契約条件ベースのオファーによってサポートされています。この機能は、と統合されているアプリケーションでのみ使用できます AWS License Manager。購入者は、現在の契約と同一オファーの使用権限の範囲内で、追加ライセンスを購入できます。ただし、購入者は契約で購入した使用権限の数を減らすことはできません。また、販売者がオプションを有効にしている場合、購入者はサブスクリプションの自動更新をキャンセルできます。

Note

Flexible Payment Schedule (FPS) 契約のオファーは変更できません。FPS で購入した契約では、購入者が使用権限を変更することはできません。使用権限とは、アプリケーションやリソースを使用、アクセス、消費する権利のことです。FPS オファーは変更できません。

サブスクリプションを管理する

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. リストから [条件を表示] を選択します。
4. [契約オプション] セクションで、矢印を使って使用権限を増やします。使用権限の数は、購入した使用権限の数よりも減らすことはできません。
5. 契約の詳細と合計金額は [料金の詳細] セクションに表示されます。

サブスクリプションの自動更新をキャンセルするには

1. AWS Marketplace コンソールで、サブスクリプションの表示に移動し、ソフトウェア製品のライセンスを表示します。
2. [調達] ページで [ライセンスを管理] を選択します。
3. [サブスクリプション] ページで、[更新設定] セクションを見つけます。
4. キャンセルに関する利用規約を必ずご確認ください。
5. チェックボックスをオンにすると、自動更新オプションがキャンセルされます。

AWS Marketplaceからのコンテナソフトウェアの起動

でコンテナ製品へのアクティブなサブスクリプションを取得したら AWS Marketplace、ソフトウェアを起動します。これを行うには、販売者が提供するフルフィルメントオプションの 1 つに記載されている手順に従ってください。では AWS Marketplace、フルフィルメントオプションは、環境で製品を起動するためのオプションの販売者提供の手順です。コンテナ製品の場合、販売者は最大 4 つのフルフィルメントオプションを提供でき、それぞれ異なる配信方法を使用したり、異なるソフトウェアの構成を示したりすることができます。例えば、販売者は、製品のテストに使用されるフルフィルメントオプションを 1 つ作成し、企業内で製品を大規模にデプロイするオプションをもう 1 つ作成できます。

利用可能なフルフィルメントオプションは、[製品の詳細] ページの [使用情報] セクションで確認できます。販売者が提供するフルフィルメントオプションに加えて、AWS Marketplace には Amazon Elastic Container Registry (Amazon ECR) から Docker イメージ直接プルする手順が含まれています。

販売者はフルフィルメントオプションを提供しているため、それぞれの名前とコンテンツは製品ごとに異なります AWS Marketplace。配信方法は製品や販売者によって異なりますが、各フルフィルメントオプションには配信方法が必要です。配信方法は、フルフィルメントオプションの種類と考えることができます。コンテナ製品には、次の配信方法を使用できます。

- コンテナイメージ
- Helm チャート
- Amazon EKS の への追加

からコンテナソフトウェアを起動するには AWS Marketplace

1. [AWS Marketplace](#) にサインインします。
2. 起動するソフトウェアを含む製品を参照して AWS Marketplace 検索します。ソフトウェアを起動するには、製品のサブスクリプションが必要です。でコンテナ製品を検索してサブスクライブする方法については AWS Marketplace、「」を参照してください [AWS Marketplace でコンテナ製品を検索する](#)。
3. [製品の詳細] ページで [サブスクライブを続ける] を選択します。
4. [Continue to Configuration (設定に進む)] を選択します。ボタンが表示されない場合は、最初の利用規約に同意する必要があるか、製品のサブスクリプションがない可能性があります。
5. デプロイするサービスと、販売者が提供する配信方法を選択します。
6. 販売者が提供する手順に従って製品を起動します。手順は、フルフィルメントオプションによって異なります。詳細については、[コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する](#) または [Helm フルフィルメントオプションで起動する](#) を参照してください。
7. オプション - [使用手順] を選択すると、起動後の製品の設定方法や使用方法について、販売者からのドキュメントが表示されます。

Note

コンテナベースの製品をサブスクライブしてデプロイする方法については、次の動画も参照してください。

- [Amazon ECS クラスターへの AWS Marketplace コンテナのデプロイ \(3:34\)](#)
- [Amazon ECS Anywhere を使用して AWS Marketplace コンテナベースの製品をデプロイする \(5:07\)](#)

[ECS Anywhere を使用して AWS Marketplace のコンテナベースの製品をデプロイする](#)

コンテナイメージのフルフィルメントオプションで起動する

コンテナイメージの配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これは、Amazon ECR から Docker イメージを直接プルすることによって行われます。製品を起動する一般的なステップは次のとおりです。

コンテナイメージのフルフィルメントオプションで製品を起動する

1. AWS Command Line Interface (AWS CLI) と Docker の最新バージョンがインストールされていることを確認します。詳細については、「Amazon Elastic Container Registry ユーザーガイド」の「[AWS CLI で Amazon ECR を使用する](#)」を参照してください。
2. Amazon ECR レジストリに対し、Docker クライアントを認証します。これを行うステップは、オペレーティングシステムによって異なります。
3. 提供された Amazon ECR イメージの Amazon リソースネーム (ARN) を使用して、すべての Docker イメージをプルします。詳細については、「Amazon Elastic Container Registry ユーザーガイド」の「[イメージのプル](#)」を参照してください。
4. 製品の使用方法については、販売者から提供されている使用手順や外部リンクを確認してください。

Helm フルフィルメントオプションで起動する

Helm の配信方法を使用するフルフィルメントオプションについては、販売者が提供した手順に従って製品を販売します。これを行うには、Helm CLI を使用して Helm チャートをインストールします。アプリケーションは、既存の Amazon EKS クラスター、EKS Anywhere のセルフマネージド型クラスター、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、またはオンプレミスで起動できます。

Note

起動環境には、Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用する必要があります。Helm バージョンのリストについては、「[GitHub の Helm リリース](#)」を参照してください。

販売者が QuickLaunch を有効にしている場合は、これを使用してアプリケーションを起動できます。QuickLaunch は、AWS Marketplace が Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターでアプリケーションを起動 AWS CloudFormation するために使用する の機能です。QuickLaunch の詳細については、「[AWS Marketplace での QuickLaunch](#)」を参照してください。

手順は販売者が提供するもので、販売者や製品ごとに異なります。Helm フルフィルメントオプションによる製品を起動する一般的な手順は次のとおりです。

Helm フルフィルメントオプションによる製品を起動するには

1. [AWS Marketplaceからのコンテナソフトウェアの起動](#) のステップ 1~6 に従い、Helm チャートの配信方法を含むフルフィルメントオプションを選択します。
2. [起動ターゲット] で、デプロイする環境を選択します。
 - [Amazon マネージド型 Kubernetes] を選択し、Amazon EKS でアプリケーションをデプロイします。販売者が QuickLaunch を有効にしている場合、それを使用して新しい Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターで起動できます。
 - [セルフマネージド型 Kubernetes] を選択すると、[EKS Anywhere](#)、Amazon EC2 またはオンプレミスで実行中の任意の Kubernetes クラスターにアプリケーションをデプロイできます。
3. Amazon マネージド型 Kubernetes クラスターで起動する場合:
 - a. Amazon EKS の既存のクラスターで起動するには、[起動方法] で [既存のクラスターで起動する] を選択し、[起動手順] に従います。手順には、AWS Identity and Access Management (IAM) ロールの作成とアプリケーションの起動が含まれます。Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用していることを確認します。
 - b. QuickLaunch を使用して新しい Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターで起動するには、[起動方法] で [QuickLaunch を使用して新しい EKS クラスターを起動する] を選択します。コンソールでスタックを作成するためにリダイレクトする起動を選択します。AWS CloudFormation。このスタックによって Amazon EKS クラスターを作成し、販売者が提供した Helm チャートをインストールしてアプリケーションをデプロイします。
 - c. [スタックのクイック作成] ページの [スタック名] に、このスタックの名前を入力します。
 - d. [パラメータ] タイルの情報を確認し、必要な情報を入力します。[機能] に表示される確認事項を確認して選択し、[スタックを作成] を選択します。

Note

QuickLaunch の詳細については、[スタック AWS CloudFormation、作成された Amazon EKS クラスターに関する情報など、「」を参照してください](#)[AWS Marketplace](#) [での QuickLaunch](#)。

4. セルフマネージド型 Kubernetes クラスターで起動する場合:

- a. Helm CLI バージョン 3.7.1 を使用していることを確認します。
- b. [トークンを作成] を選択して、ライセンストークンと IAM ロールを生成します。このトークンとロールは、と通信 AWS License Manager して製品の使用権限を検証するために使用されます。

 Note

Create トークンを使用するに

は、AWSServiceRoleForAWSLicenseManagerRole アカウントに がが必要です。
アカウントのライセンストークンの最大数は 10 です。

- c. [CSV 形式でダウンロード] を選択して、生成されたトークン情報を含む .csv のファイルをダウンロードします。すべてのシークレットやパスワードと同様に、.csv ファイルは安全な場所に保存します。
- d. [Kubernetes シークレットとして保存] のコマンドを実行して、ライセンストークンと IAM ロールを Kubernetes クラスターのシークレットとして保存します。このシークレットは、Helm チャートをインストールしてアプリケーションを起動するときに使用されます。はシークレット AWS Marketplace を使用して、この製品の使用権限を検証します。
- e. [トークンを使用してアプリケーションを起動する] のコマンドを実行して、アプリケーションをクラスターにデプロイする Helm チャートをインストールします。
- f. [使用手順] を選択すると、起動後の製品の設定方法や使用方法について、販売者からのドキュメントが表示されます。
- g. オプション - [[オプション] アーティファクトをダウンロード] に記載されているコマンドを使用して、製品のコンテナイメージと Helm チャートをローカルにダウンロードします。

Amazon EKS フルフィルメントオプションで起動する

Amazon EKS アドオンの配信方法を使用したフルフィルメントオプションの場合、Amazon EKS コンソールを使用して、Amazon EKS クラスターにソフトウェアをデプロイします。製品を起動する一般的なステップは次のとおりです。

Amazon EKS フルフィルメントオプションによる製品を起動するには

1. 製品をサブスクライブしたら、[設定] ページに移動し、[Amazon EKS コンソールに進む] を選択して Amazon EKS コンソールにアクセスします。

2. Amazon EKS コンソールから、クラスターをデプロイする AWS リージョン を選択します。ソフトウェアをデプロイするクラスターを選択します。
3. [アドオン] タブを選択します。
4. [アドオンをさらに追加] を選択し、スクロールしてデプロイするアドオンを検索し、[次へ] を選択します。
5. デプロイするバージョンを選択し、[次へ] を選択します。Amazon EKS のデプロイの詳細については、「[EKS アドオン](#)」を参照してください。
6. 場所を確認して [作成] を選択します。

AWS Marketplace での QuickLaunch

販売者がフルフィルメントオプションで QuickLaunch を有効にしている場合は、それを使用して Amazon EKS クラスターを作成し、そのクラスターにコンテナアプリケーションをデプロイできます。QuickLaunch では、AWS CloudFormation を使用して Amazon EKS クラスターを設定および作成し、そのクラスターでコンテナアプリケーションを起動します。QuickLaunch を使用すると、テスト目的でコンテナアプリケーションを起動できます。QuickLaunch を使用するには、「[Helm フルフィルメントオプションで起動する](#)」のステップに従います。

アプリケーションをデプロイできる Amazon EKS クラスターを作成するには、CloudFormation スタックを作成します。スタックは、単一のユニットとして管理できる AWS リソースのコレクションです。スタック内のすべてのリソースは、スタックの CloudFormation テンプレートで定義されます。QuickLaunch では、スタックのリソースに Amazon EKS クラスターの作成とアプリケーションの起動に必要な情報が含まれています。AWS CloudFormation のスタックの詳細については、「AWS CloudFormation ユーザーガイド」の「[スタックの操作](#)」を参照してください。

クラスターが作成されると、QuickLaunch は販売者が提供した Helm チャートをクラスターにインストールして、クラスターでアプリケーションを起動します。QuickLaunch では、Amazon EKS クラスターを作成するスタック作成の一部としても、これを処理します。

の機械学習製品 AWS Marketplace

の Machine Learning カテゴリ AWS Marketplace には、機械学習 (ML) モデルパッケージやアルゴリズムなどの製品が含まれます。

モデルの品質や適合性を評価するために、製品説明、使用手順、お客様のレビュー、サンプルの [Jupyter ノートブック](#)、料金情報、およびサポート情報を確認できます。Amazon SageMaker AI コンソール、Jupyter Notebook、Amazon SageMaker AI SDK、または を使用して、モデルを直接デブ

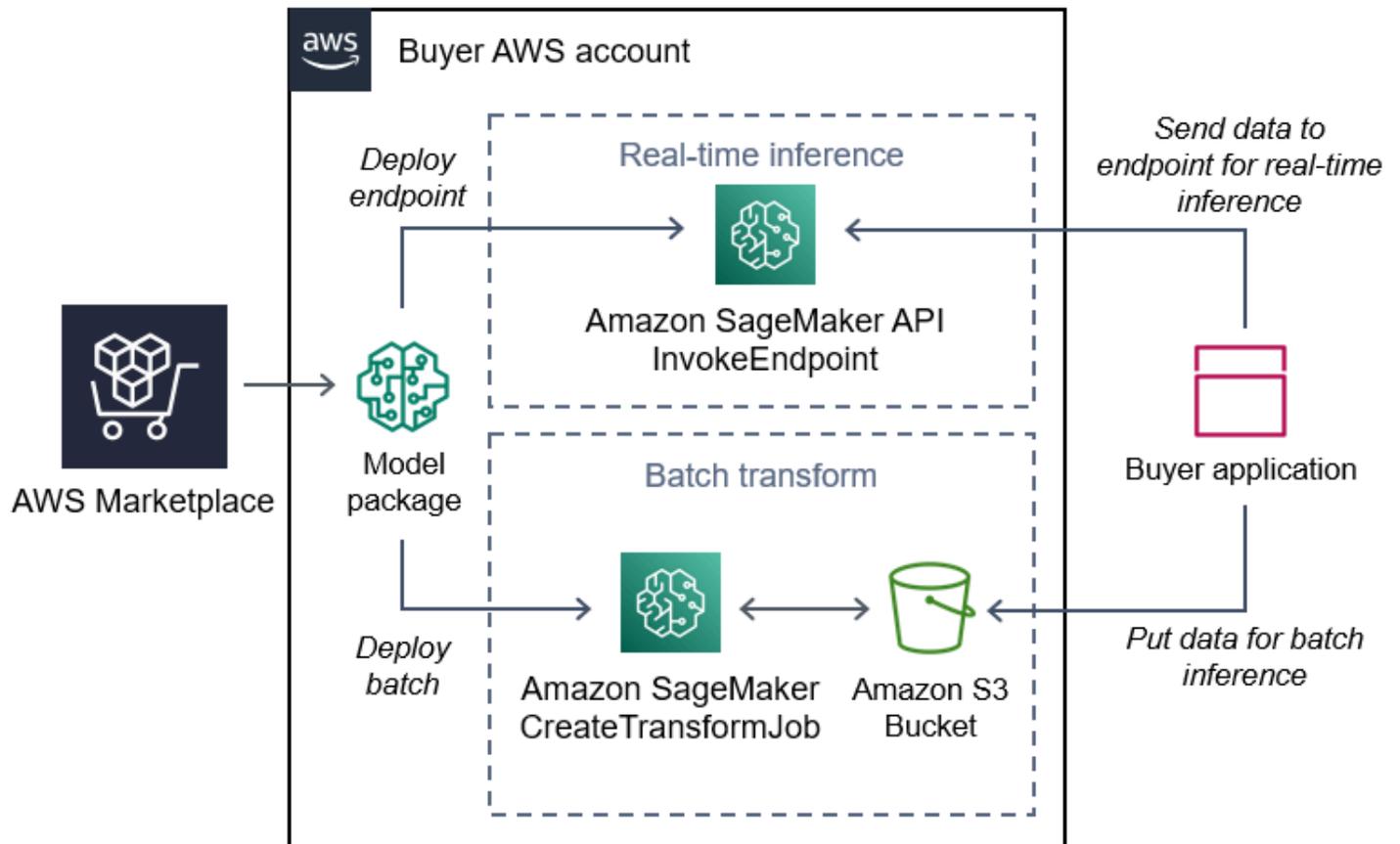
ロイします AWS Command Line Interface AWS CLI。Amazon SageMaker AI は、すべてのマーケットプレイス製品で静的スキャンを実行して、トレーニングジョブと推論ジョブを実行するための安全な環境を提供します。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージ

Amazon SageMaker AI モデルパッケージは、Amazon SageMaker AI の Amazon リソースネーム (ARN) によって識別される、トレーニング済みの一意の ML モデルです。お客様はモデルパッケージを使用して Amazon SageMaker AI でモデルを作成します。次に、モデルをホスティングサービスで使用するリアルタイム推論を実行したり、バッチ変換で Amazon SageMaker AI でバッチ推論を実行したりできます。

次の図は、モデルパッケージ製品を使用するワークフローを示しています。

1. で AWS Marketplace、モデルパッケージ製品を見つけてサブスクライブします。
2. 製品の推論コンポーネントを SageMaker AI にデプロイして、リアルタイムまたはバッチで推論 (または予測) を実行します。

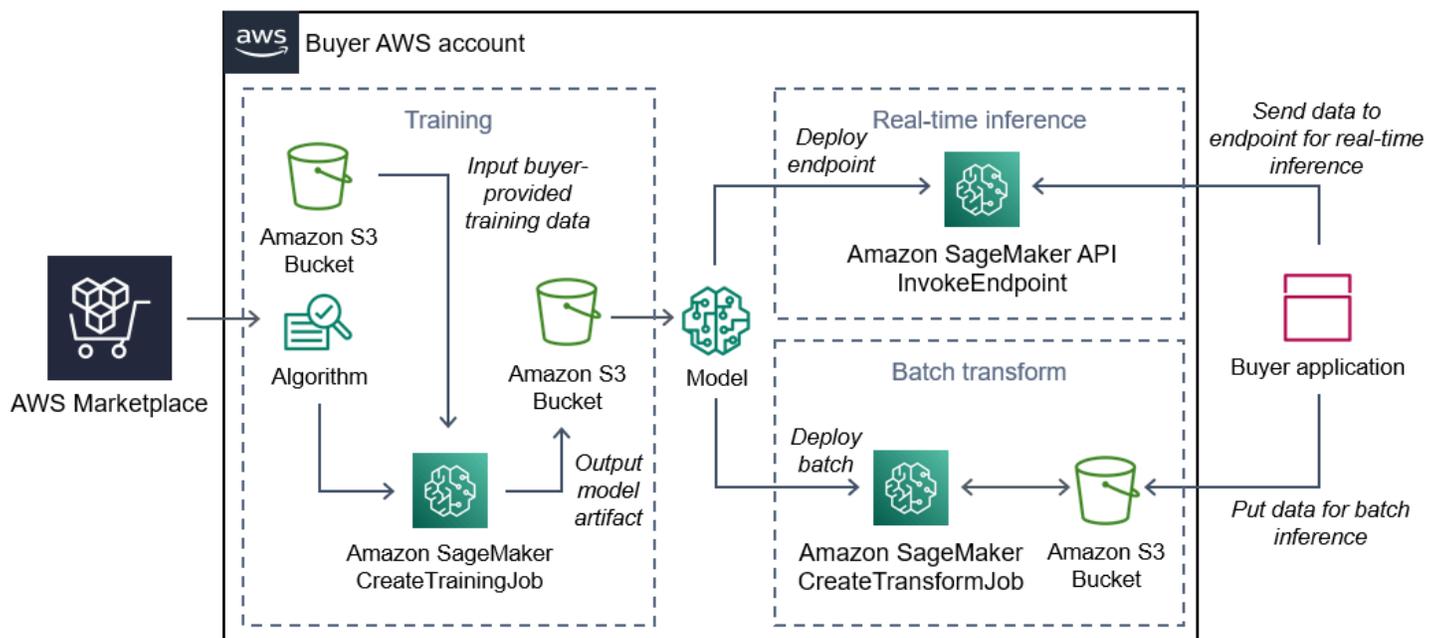


Amazon SageMaker AI アルゴリズム

Amazon SageMaker AI アルゴリズムは、ARN によって識別される一意の Amazon SageMaker AI エンティティです。アルゴリズムには、トレーニングと推論という 2 つの論理コンポーネントがあります。

次の図は、アルゴリズム製品を使用するワークフローを示しています。

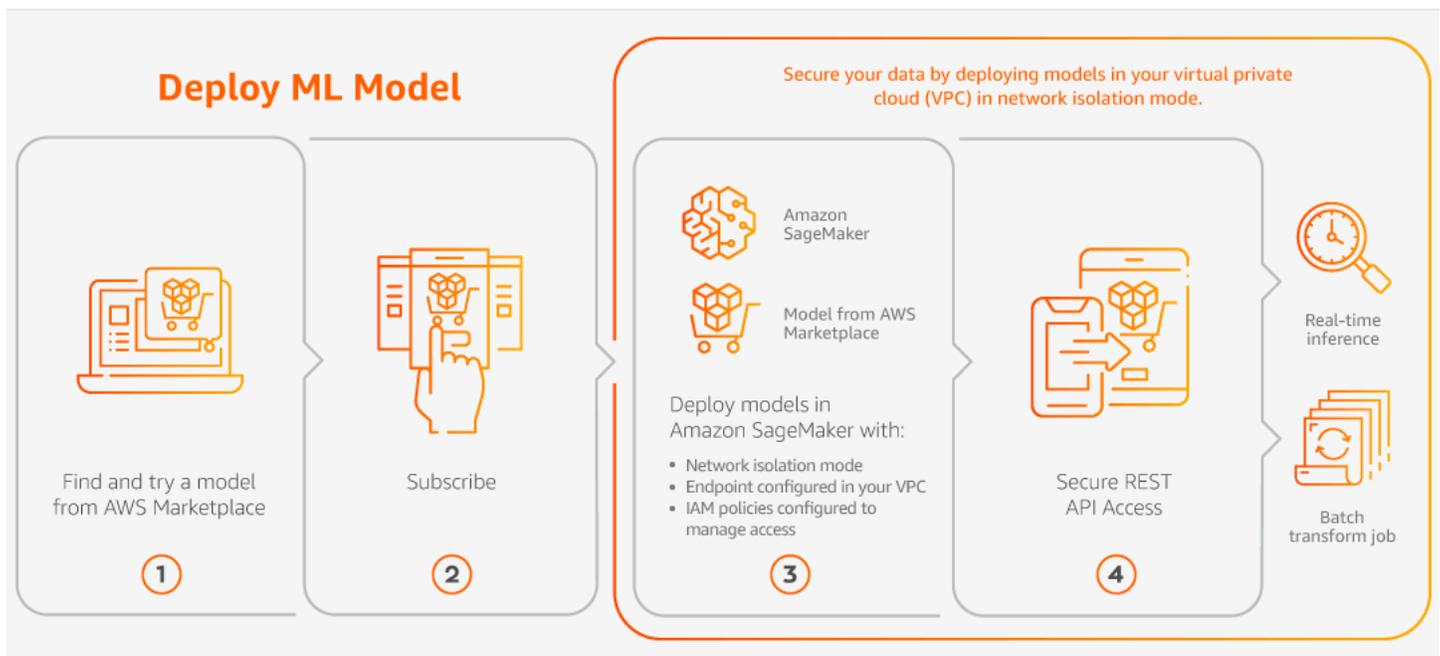
1. AWS Marketplace、アルゴリズム製品を見つけてサブスクライブします。
2. 製品のトレーニングコンポーネントを使用して、Amazon SageMaker AI の入力データセットを使用して機械学習モデルを構築するトレーニングジョブまたは調整ジョブを作成します。
3. 製品のトレーニングコンポーネントが完了すると、機械学習モデルのアーティファクトが生成されます。
4. SageMaker AI は、モデルアーティファクトを Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) バケットに保存します。
5. SageMaker AI では、生成されたモデルアーティファクトを使用して製品の推論コンポーネントをデプロイし、リアルタイムまたはバッチで推論 (または予測) を実行できます。



機械学習製品の検索とデプロイのプロセスの概要

次の図は、Amazon SageMaker AI で機械学習製品を検索、サブスクライブ、デプロイするプロセスの概要を示しています。

1. からモデルを検索して試す AWS Marketplace
2. ML 製品をサブスクライブする
3. Amazon SageMaker AI にモデルをデプロイする
4. 安全な REST API を使用する
5. 実行
 - リアルタイム推論
 - バッチ変換ジョブ



最低料金や前払いのコミットメントなしで、使用量に対してのみお支払いいただきます。は、アルゴリズムとモデルパッケージ、AWS インフラストラクチャ使用料の一括請求 AWS Marketplace を提供します。

機械学習製品の検索

さまざまなサブカテゴリ (コンピュータビジョン、自然言語処理、音声認識、テキスト、データ、音声、イメージ、動画分析、不正検出、予測分析など) で、何百もの ML モデルパッケージとアルゴリズムを参照および検索できます。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムを見つけるには

1. [AWS Marketplace ウェブサイト](#) にサインインします。

2. 「ニーズに合った AWS Marketplace 製品を見つける」で、カテゴリドロップダウンメニューを使用して、関心のある Machine Learning のサブカテゴリを見つけます。
3. リソースタイプ、カテゴリ、および料金プランのフィルターを適用して検索結果を絞り込むことができます。
4. 検索結果から、[製品の詳細] ページにアクセスします。
5. 製品の説明、使用方法、カスタマーレビュー、データ要件、サンプル Jupyter Notebook、料金とサポート情報を確認してください。

機械学習製品をサブスクライブする

AWS Marketplace には、を通じてサブスクライブできる機械学習製品のカテゴリがあります AWS Marketplace。その製品カテゴリは [Machine Learning] です。このカテゴリの製品には、機械学習 (ML) モデルパッケージとアルゴリズムがあります。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムをサブスクライブするには

1. [製品の詳細] ページで [サブスクライブを続ける] を選択します。
2. 調達ページで、製品の料金情報とエンドユーザー使用許諾契約 (EULA) を確認します。
3. [サブスクリプションを続行する] を選択します。

機械学習製品をデプロイする

モデルパッケージ製品またはアルゴリズム製品をサブスクライブすると、SageMaker AI コンソールの製品リストに追加されます。AWS SDKs、AWS Command Line Interface (AWS CLI)、または SageMaker AI コンソールを使用して、フルマネージド REST 推論エンドポイントを作成したり、データのバッチに対して推論を実行したりすることもできます。

Amazon SageMaker AI モデルパッケージとアルゴリズムをデプロイするには

1. [\[Marketplace ソフトウェア\]](#) に移動して、有効なアルゴリズムまたはモデルパッケージのサブスクリプションがあることを確認します。
2. AWS Marketplace ウェブサイトで製品を設定します (特定のバージョンやデプロイリージョンを選択するなど)。
3. Amazon SageMaker AI で表示を選択して、Amazon SageMaker AI 製品の詳細ページを表示します。

4. Amazon SageMaker AI コンソールから、Amazon SageMaker AI コンソール、Jupyter Notebook、Amazon SageMaker AI CLI コマンド、または API オペレーションを使用してモデルパッケージとアルゴリズムをデプロイできます。

Amazon SageMaker AI へのデプロイの詳細については、[「開始方法」](#)を参照してください。

AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する

AWS Marketplace には、AWS Marketplace の販売者によるプロフェッショナルサービスの製品が含まれます。AWS Marketplace の [プロフェッショナルサービス] カテゴリを使用してプロフェッショナルサービスを検索できます。関心のある製品が見つかったら、販売者にオファーをリクエストしてください。通常、プロフェッショナルサービスでは連携が必要なため、購入を完了するには販売者に追加情報を提供する必要があります。また、この機会を利用して、料金や解決が必要なその他のサービスの詳細について交渉できます。製品のプライベートオファーが届きます。詳細については、[「のプライベートオファー AWS Marketplace」](#)を参照してください。

プロフェッショナルサービス製品を購入するには

1. [AWS Marketplace](#) に移動して AWS アカウントにサインインし、購入するプロフェッショナルサービス製品を検索して見つけます。
2. その製品の [製品の詳細] ページで、[続行] を選択します。
3. [サービスのリクエスト] ページで、販売者がオファーを作成するのに必要な追加情報を追加します。これには、名前、E メールアドレス、会社名その他、ビジネスニーズ、タイムライン、契約要件など、販売者に有益な追加情報が含まれます。
4. 販売者は、提供された E メールアドレスを使用してお客様に連絡し、オファーの詳細を検討します。同意すると、販売者は AWS Marketplace のオファーへのリンクを送信します。ブラウザでリンクを開き、AWS アカウントにサインインします。
5. 販売者によって開かれた [調達] ページで、オファーの詳細を確認します。そのオファーが、期待したサービスと料金に合っていることを確認してください。一括払いなのか、分割払いなのかといった条件も確認してください。オファーが正しければ、続行します。それ以外の場合は、販売者に連絡して変更を加えます。
6. [契約を設定] で、契約に使用する設定を選択します。例えば、サポート契約を購入する場合、Silver、Gold、Platinum のオプションがあり、それぞれ料金が異なります。
7. [契約書を作成] を選択してサービスを購入します。2 営業日以内に、販売者からサービスの使用方法を連絡します。

AWS Marketplace 経由の SaaS 製品

Software as a Service (SaaS) 製品については、AWS Marketplace を通じて製品をサブスクライブしますが、ソフトウェア販売者の環境で製品にアクセスします。

AWS Marketplace には次の価格モデルがあります。

- [SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする](#)
- [SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする](#)
- [SaaS 無料トライアルをサブスクライブする](#)

[クイック起動オプション](#) がある製品では、ソフトウェアを一度に設定、デプロイ、起動できます。

SaaS 使用量ベースのサブスクリプションをサブスクライブする

SaaS 使用量ベースのサブスクリプションでは、ソフトウェア販売者が使用量を追跡し、ユーザーは使用した分の料金だけを支払います。このpay-as-you-goモデルは、多くの に似ています AWS のサービス。SaaS 製品の使用に対する請求は、AWS 請求書を通じて管理されます。

SaaS 使用量ベースサブスクリプションを使用してサブスクライブするには

1. 製品詳細ページで [購入オプションを表示] を選択し、サブスクリプションプロセスを開始します。
2. 製品に複数のオファertypeがある場合は、[プライベートオファー] または [パブリックオファー] を選択できます。

Note

販売者がプライベートオファーをリクエストするには、[製品詳細] ページで、[プライベートオファーをリクエスト] をクリックします。この製品の利用可能なプライベートオファーは、[購入] ページで表示するか、販売者が提供したプライベートリンクにアクセスします。

3. 製品に複数の利用可能なオファーがある場合は、利用可能なオファードロップダウンリストからオファーを選択できます。
4. 請求される料金ディメンションと各ディメンションの料金を確認します。特定のディメンションを検索するには、料金の上にある検索バーに名前を入力します。料金ディメンションは [希望通貨](#) で表示されます。

5. [EULA をダウンロード] をクリックして、このオファ어의利用規約を確認します。
6. サブスクリプションを確認し、[サブスクリプション] ページで [承認] を選択して、有効なサブスクリプションを作成します。

 Note

一部の製品には、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間とリソースを削減できるクイック起動デプロイオプションが用意されています。これらの製品はクイック起動バッジで識別されます。詳細については、「[the section called “Quick Launch を使用する”](#)」を参照してください。

7. [\[マーケットプレイスサブスクリプション\]](#) ページで現在のサブスクリプションを確認します。

SaaS 事前コミットメントをサブスクライブする

一部の企業では、SaaS 契約を前払いで購入できます AWS Marketplace。このオプションでは、これらの製品のライセンスまたはデータインジェストを個別に購入できます。その後、を通じてこれらの製品を事前に請求できます AWS アカウント。たとえば、1 年間のユーザーアクセスライセンスを 10 個購入したり、1 日に 10 GB のデータを取り込める 1 年間のサービスを購入したりできます。

製品を購入すると、クイック起動が有効になっていない場合にはアカウントのセットアップと設定を行う製品のウェブサイトに移動します。その後、使用料金は通常の AWS アカウント 請求レポートに表示されます。

 Note

クイック起動エクスペリエンスについて詳しくは、「[the section called “Quick Launch を使用する”](#)」を参照してください。

SaaS 契約でサブスクライブするには

1. 製品詳細ページで [購入オプションを表示] を選択し、サブスクリプションプロセスを開始します。必要な量かユニット、サブスクリプションの期間 (複数のオプションを使用できる場合)、および自動更新を選択できます。
2. 選択が完了したら、サブスクリプションを選択します。

3. [Set Up Your Account (アカウントのセットアップ)] を選択すると、製品を提供する会社のウェブサイトに移動します。アカウントが設定されていて、支払いが検証されている間、AWS Marketplace 製品詳細ページで契約が保留中であることがわかります。

Note

一部の製品には、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間とリソースを削減できるクイック起動デプロイオプションが用意されています。これらの製品はクイック起動バッジで識別されます。詳細については、「[the section called “Quick Launch を使用する”](#)」を参照してください。

設定が完了すると、製品ページにアカウントを設定するためのリンクが表示されます。AWS Marketplace ソフトウェアは、アカウントにサインインすると Marketplace ソフトウェアの下に表示されます。これでソフトウェアの使用を開始できます。アカウントのセットアッププロセスを完了していない場合は、その製品を再確認するときにセットアッププロセスを実行するように求められます AWS Marketplace。

ソフトウェア会社のウェブサイトで作成したアカウントを使用して、その会社のウェブサイトからソフトウェアサブスクリプションにアクセスします。AWS Marketplace アカウントへのサインイン時に Marketplace ソフトウェア AWS Marketplace で購入したソフトウェアサブスクリプションのウェブサイトリンクも参照できます。

SaaS 無料トライアルをサブスクライブする

一部のベンダーでは、評価 AWS Marketplace 目的で を通じて SaaS 製品の無料トライアルを提供しています。で SaaS 製品を検索 AWS Marketplace し、結果をフィルタリングして、無料トライアルがある製品のみを表示できます。検索結果には、どの製品が無料トライアルを提供しているかがわかります。すべての無料トライアル製品には、製品ロゴの横に [無料トライアル] バッジが表示されます。製品調達ページでは、無料試用期間と試用版に含まれる無料ソフトウェアの使用量を確認できます。

無料トライアル中、または無料トライアルの有効期限が切れた後は、プライベートオファーを交渉するか、パブリックオファーに登録することにより、購入を決定できます。SaaS の無料トライアルは、自動的に有料契約に切り替わりません。無料トライアルが不要になった場合は、期限切れにできます。

AWS Marketplace コンソールからサブスクリプションの管理を選択すると、サブスクリプションを表示できます。

Note

各 AWS アカウント は、製品ごとに 1 つの無料トライアルのみの対象となります。

SaaS 契約無料トライアルオファーをサブスクライブするには

1. AWS Marketplace コンソールにサインインし、AWS Marketplace メニューから製品の検出を選択します。
2. [結果の絞り込み] パネルで [無料トライアル] に移動し、[無料トライアル] を選択します。
3. [配信方法] には [SaaS] を選択します。
4. [料金モデル] で [前払いのコミットメント] を選択すると、無料トライアルを提供するすべての製品が表示されます。対象となるすべての製品には、[無料トライアル] バッジが表示されます。
5. 必要な SaaS 製品を選択します。
6. [製品の詳細] ページから [無料で試す] を選択します。
7. [オファータイプ] には、[無料トライアル] オプションを選択します。
8. 購入で、無料で試す を選択します。
9. [アカウントのセットアップ] を選択して登録を完了し、ソフトウェアの使用を開始します。

SaaS サブスクリプション無料トライアルオファーをサブスクライブするには

1. AWS Marketplace コンソールにサインインし、AWS Marketplace メニューから製品の検出を選択します。
2. [結果の絞り込み] パネルで [無料トライアル] に移動し、[無料トライアル] を選択します。
3. [配信方法] には [SaaS] を選択します。
4. [料金モデル] で [使用量ベース] を選択すると、無料トライアルを提供するすべての製品が表示されます。対象となるすべての製品には、[無料トライアル] バッジが表示されます。
5. 必要な SaaS 製品を選択します。
6. [製品の詳細] ページから [無料で試す] を選択します。
7. [オファータイプ] には、[無料トライアル] オプションを選択します。
8. 購入で、無料で試す を選択します。

Quick Launch を使用して SaaS 製品を設定・起動する

クイック起動は、クイック起動が有効になっている SaaS 製品で利用できる AWS Marketplace デプロイオプションです。これにより、ソフトウェアの設定、デプロイ、起動に必要な時間、リソース、手順が削減されます。この機能を提供する製品では、クイック起動を使用するか、リソースを手動で設定するかを選択できます。

クイック起動エクスペリエンスを使用して SaaS 製品を検索、サブスクライブ、起動するには

1. [\[AWS Marketplace 検索ページ\]](#) に移動します。
2. 起動するソフトウェアを含む製品を参照して AWS Marketplace 検索します。クイック起動エクスペリエンスを提供する製品には、製品説明にクイック起動バッジが付いています。

Tip

クイック起動エクスペリエンスが有効になっている製品を検索するには、[結果を絞り込む] ペインの [SaaS] および [CloudFormation テンプレート] フィルターを使用します。

3. 製品をサブスクライブしたら、[アカウントの設定] ボタンを選択して [設定と起動] ページに移動します。
4. 「ステップ 1: 必要な AWS アクセス許可があることを確認する」の「設定と起動」ページで、クイック起動エクスペリエンスを使用するために必要なアクセス許可があることを確認します。アクセス許可をリクエストするには、AWS 管理者にお問い合わせください。

クイック起動エクスペリエンスをフル活用するには、次のアクセス許可が必要です。

- `CreateServiceLinkedRole` — `AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment` サービスにリンクされたロールを作成 AWS Marketplace できるようにします。このサービスにリンクされたロールにより、AWS Marketplace は AWS Secrets Manager、ユーザーに代わってシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理できます。
- `DescribeSecrets` — 販売者から渡されたデプロイパラメータに関する情報の取得 AWS Marketplace をに許可します。
- `GetRole` — サービスにリンクされたロールがアカウントで作成されたかどうかを判断 AWS Marketplace できるようにします。
- `ListSecrets` — AWS Marketplace がデプロイパラメータのステータスを取得できるようにします。

- ListRegions — 現在のアカウントでオプトインされている AWS リージョン を が取得 AWS Marketplace できるようにします。
 - ReplicateSecrets — ソフトウェアをデプロイする選択したリージョンへのシークレットのレプリケーションを が開始 AWS Marketplace できるようにします。
5. 「ステップ 2: 既存または新規のベンダーアカウントにログインする」で、[ログインまたはアカウントを作成] ボタンを選択します。販売者のサイトが新しいタブで開き、そこでログインするか、新しいアカウントを作成できます。完了したら、[設定と起動] ページに戻ります。
 6. ステップ 3: ソフトウェアと AWS 統合を設定する で、製品を設定する方法を選択します。
 - クイック起動 — この合理化されたエクスペリエンスを選択して、製品をすばやく設定できます。
 - 手動 — 販売者が提供する指示に従ってソフトウェアを設定します。
 7. 「ステップ 4: ソフトウェアを起動する」で、[ソフトウェアを起動] ボタンを選択してソフトウェアを起動します。

での製品の支払い AWS Marketplace

月初めに、Amazon Web Services (AWS) から AWS Marketplace 料金の請求書が届きます。ソフトウェア製品の場合、請求書には、ソフトウェアの時間単位料金に、このソフトウェアの Amazon マシンイメージ (AMI) インスタンスの実行時間数を掛けた計算結果が示されます。また、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS)、帯域幅などの AWS インフラストラクチャサービスの使用に関する請求書も届きます。

AWS アカウント がトルコと南アフリカを除く欧州、中東、アフリカ (EMEA) を拠点とし、購入が EMEA 対象販売者からのものである場合、Amazon Web Services EMEA SARL () から請求書を受け取りますAWS Europe。AWS アカウント がオーストラリアを拠点としている場合は、Amazon Web Services Australia Pty Ltd () から請求書を受け取りますAWS Australia。AWS アカウント が日本に拠点を置く場合は、Amazon Web Services Japan G.K (AWS Japan) から請求書を受け取ります。それ以外の場合は、AWS Inc. から請求書を受け取ります。

Note

AMI 年次および契約購入の場合、サブスクリプション料金の請求書は、毎月の一括請求ではなく、サブスクリプション時に発行されます。AMI 年次購入では、サブスクリプション中に購入したすべてのインスタンスタイプを対象とする契約全体に対して1つの請求書が生成されます。契約の Flexible Payment は、予定されている支払い時に請求されます。従量制料金モデルなど、使用量が含まれる契約の場合、その使用量は毎月の一括請求書に表示されません。

AWS Marketplace 複雑なトポロジを使用する製品では、提供された AWS CloudFormation テンプレートによって起動AMIs やその他の AWS インフラストラクチャサービスのクラスターに対して料金が発生する場合があります。

たとえば、EC2 スモールインスタンスタイプでソフトウェアを 720 時間実行したとします。ソフトウェア使用に対する販売者の料金は 0.12 USD/時間であり、EC2 料金は 0.085 USD/時間です。この場合、月末の請求額は 147.60 USD になります。

データ製品のサブスクリプションの詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのデータ製品のサブスクリプション](#)」を参照してください。

AWS 請求書の支払いの詳細については、[AWS Billing 「ユーザーガイド」](#)を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL (AWS Europe) での支払い管理の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS Europe での支払いの管理](#)」を参照してください。

AWS Marketplace トランザクションの発注書

AWS Marketplace および AWS Billing コンソールで発注書を使用すると、お客様が定義した発注書番号 AWS を含む請求書が から届きます。この方法により、支払い処理とコスト配分が簡単になります。では AWS Marketplace、out-of-cycle 請求書には、即時に、またはプライベートオファーでスケジュールされた定義済みの支払いに従って請求される購入が含まれます。通常、pay-as-you-go が AWS Marketplace 一括月次使用請求書に表示されます。

AWS Marketplace のトランザクションに発注書を使用する

取引時に発注書を追加できます。AWS は、提供された発注書に基づいて請求書を生成し、各請求書は 1 つの発注書番号に関連付けられます。

Note

で発注書を使用するには AWS Marketplace、AWS 組織内の管理アカウントで AWS Billing 統合を有効にする必要があります。この 1 回限りの設定タスクにより、サービスにリンクされたロールが作成されます。このロールによって、組織内のアカウントに発注書の仕様をサブスクライブするアクセス許可を与えます。統合を有効にしないと、組織内のアカウントは調達中に発注書を追加できません。統合の詳細については、「[AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールの作成](#)」を参照してください。

で発注書を指定するには AWS Marketplace :

1. 製品を見つけて購入する準備をします AWS Marketplace。
2. 購入プロセス中に、発注書番号で発注書の追加を選択します。
3. [発注書番号] フィールドに発注書番号を入力します。

発注書番号は、システム内で注文を追跡するために使用する番号またはテキストです。通常、社内システムまたはプロセスによって発行されます。最大 200 文字を使用できます。

複数の請求書が発生するトランザクションの場合、は複数の発注書 AWS Marketplace をサポートします。次の選択肢が 1 つ以上ある場合があります。

- 発注書の割り当てなし: PO 番号は料金に関連付けられません。このオプションでは、追跡や請求書の詳細を追加する必要はありません。請求コンソールに PO がある場合でも、この購入に適用される可能性があります。
- すべての料金 (固定料金と使用量): 1 回限りの料金、定期サブスクリプション、使用量ベースのサービスなど、すべての AWS Marketplace 料金に 1 つの PO 番号を使用します。
- 固定料金と使用料金の個別の POs: すべての固定料金 (スケジュールされた前払いと前払い) に 1 つの PO 番号、すべての使用ベースの料金 (pay-as-you-goに個別の PO 番号を割り当てます。このオプションを使用すると、固定料金と可変料金を区別できます。
- 各料金の個別の PO: 注文に関連する各料金に個別の PO 番号を割り当てます。

トランザクション中に AWS Marketplace 提供された発注書など、発注書の詳細については、AWS Billing コンソールで[発注書を表示します](#)。

購入後の発注書の更新

で製品をサブスクライブした後 AWS Marketplace、サブスクリプションの詳細ページから発注書番号を追加できます。発注書が請求に関連付けられると、その請求に対して生成された請求書に発注書番号が含まれます。請求ごとに同じ PO 番号または異なる PO 番号を指定できます。使用料の金額の詳細については、AWS Billing コンソールを参照してください。

Note

PO 番号は、将来の料金に対してのみ入力できます。

請求書の作成前に発注書を追加または更新するには :

1. サブスクリプションの詳細ページから、料金概要コンテナに移動します。
2. 請求明細項目ごとに、発注書番号列に発注書番号を入力できます。

請求書の作成後に購入を追加または更新するには :

- AWS サポートにお問い合わせください。

一括使用発注書を使用する

他の発注書から AWS Marketplace 請求を分離するには、AWS Billing コンソールで AWS Marketplace 一括使用明細項目を使用して発注書を作成できます。AWS Marketplace 請求書トランザクションには、特定の条件とパラメータが一致する場合に指定する一括使用発注書 (請求エンティティなど) が含まれます。一括 PO AWS Marketplace とは異なる発注書 (PO) 番号を入力した場合、その料金は一括 PO には適用されません。

詳細については、AWS 「Billing and Cost Management ユーザーガイド」の「[発注書の管理](#)」を参照してください。

発注書に関するトラブルシューティング

次の表の情報は、発注書の問題のトラブルシューティングや、さまざまなシナリオで何が起こるかを理解するのに役立ちます。

シナリオ	詳細
不十分なアクセス許可 - 購入中	サブサブスクライブする <code>aws-marketplace:Subscribe</code> のアクセス許可がない場合は、[発注書エントリ] フィールドの近くに注意事項が表示されます。管理アカウントも AWS Billing 統合を有効にする必要があります。統合の有効化の詳細については、「 AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの作成 」を参照してください。
購入後のアクセス許可が不十分	サブスクリプション後に発注書を追加または更新するには、 <code>aws-marketplace:ListAgreementCharges</code> および <code>aws-marketplace:UpdatePurchaseOrders</code> のアクセス許可が必要です。
発注書がない	AWS Marketplace によって新しい発注書が作成されます。新しい発注書にはデフォルトの情報が記載されており、連絡先の情報はありません。

シナリオ	詳細
発注書の通知が届かない	連絡先情報のない発注書 (によって作成された発注書を含む AWS Marketplace) は、Eメール通知を受信しません。 Billing and Cost Management コンソールの発注書ダッシュボード で、発注書に連絡先情報を追加できます。
誤った発注書番号が追加された	間違った発注書番号を入力し、更新する必要がある場合は、AWS Marketplace コンソールから PO 番号を追加して、今後の料金を支払うことができます。請求書をすでに受け取っている場合は、サポートに連絡して発注書番号を更新してください。詳細については、「 the section called “購入後の発注書の更新” 」を参照してください。
サブスクリプションアカウントが別の組織に移動した	発注書を新しい組織で機能させるには、新しい組織で統合を完了する必要があります。統合が完了し、発注書サポートが新しい組織で機能している場合、サブスクリプションアカウントが組織間を移動すると、新しい請求書には新しい組織の発注書番号が表示されます (必要に応じて新しい発注書が作成されます)。
チェックアウト時に発注書オプションが使用できない	製品を購入したら、のサブスクリプションページに移動 AWS Marketplace して発注書を更新します。発注書を更新できない場合は、にお問い合わせください サポート。詳細については、「 the section called “購入後の発注書の更新” 」を参照してください。
従量制料金による契約	すべての料金、pay-as-you-go (使用量) のみ、または個別の料金を対象とする発注書を使用できます。詳細については、「 the section called “AWS Marketplace のランザクシオンに発注書を使用する” 」を参照してください。

シナリオ	詳細
すべての AWS Marketplace 料金に対して 1 つの PO	すべての料金に 1 つの PO 番号を使用する場合は、AWS Billing コンソールで 一括使用の発注書を追加できます 。
発注書の中断	発注書番号が指定され、Billing and Cost Management コンソールの発注書ダッシュボードで、発注書が中断としてマークされている場合、新しい明細目は発注書に追加されませんが、請求書には発注書は含まれません。の請求管理者は、発注書をアクティブにし、サポートに連絡して、アクティブな発注書で請求書を再生成 AWS アカウント する必要があります。
発注書の有効期限切れ	発注書番号が指定され、発注書の有効期限が切れると、新しい明細項目が作成され、発注書がアクティブとしてマークされます。明細項目の終了日は、新しい発注書の有効期限として使用されます。
残高の追跡	残高の追跡は AWS Marketplace 明細項目に対して有効になっていません。
調達システムの統合	管理アカウントから、AWS Billing の統合を設定 AWS Marketplace して、統合された調達システムによって提供された発注書を請求書に表示する必要があります。
Flexible Payment Schedule — 複数の発注書	Flexible Payment Schedule の個別の支払いで異なる発注書を表示する必要がある場合は、購入時に複数の POs を追加するか、請求書の作成前に AWS Marketplace サブスクリプションページから発注書を更新できます。詳細については、「 the section called “購入後の発注書の更新” 」を参照してください。

シナリオ	詳細
<p>調達ページに発注書オプションがありません</p>	<p>発注書は、のほとんどの製品でサポートされています AWS Marketplace。ただし、以下の発注書を追加することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 無料製品 2. コンテナの年間料金製品 3. 調達ページの機械学習製品 <p>Amazon EC2 コンソールなど AWS Marketplace、の外部で製品を購入する場合、サブスクリプション中に PO を追加することはできません。ただし、AWS Marketplace コンソールでの購入後に、他のコンソールから購入した機械学習製品や製品の発注書を更新することはできます AWS。詳細については、「the section called “購入後の発注書の更新”」を参照してください。</p>
<p>ライセンスマネージャーによる発注書</p>	<p>発注書はサブスクリプション関連の料金にのみ適用されます。グラント料金は、元のサブスクリプションに適用された PO を継承しません。</p>

製品サブスクリプションをキャンセルする

以下のセクションのステップでは、Amazon マシンイメージ (AMI)、コンテナ製品、機械学習、Software as a Service (SaaS) 製品をキャンセルする方法について説明します。

トピック

- [AMI サブスクリプションをキャンセルする](#)
- [コンテナサブスクリプションをキャンセルする](#)
- [機械学習サブスクリプションをキャンセルする](#)
- [SaaS サブスクリプションをキャンセルする](#)

AMI サブスクリプションをキャンセルする

AWS Marketplace コンソールを使用して AMI サブスクリプションをキャンセルし、Amazon EC2 コンソールを使用してサブスクリプションのすべての実行中のインスタンスを終了します。サブスクリプションの請求を停止するには、すべてのインスタンスを終了する必要があります。

サブスクリプションをキャンセルすると、ソフトウェアにアクセスできなくなります。

以下のステップでは、サブスクリプションをキャンセルし、すべてのインスタンスを終了する方法について説明します。

サブスクリプションをキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[Amazon マシンイメージ] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。
6. サブスクリプションのすべてのインスタンスを終了するには、次のステップを実行します。終了しないと、請求される場合があります。

インスタンスを削除するには

1. Amazon EC2 コンソール (<https://console.aws.amazon.com/ec2/>) を開きます。
2. [Amazon EC2 ダッシュボード] ページの [リソース] で、[インスタンス] を選択します。
3. すべてのインスタンスのチェックボックスをオンにします。

Note

サブスクリプションの請求を停止するには、すべてのインスタンスを終了する必要があります。

4. [インスタンスのステータス] リストで、[インスタンスを終了 (削除)] を選択します。
5. [インスタンスの終了 (削除)] ダイアログボックスで、[終了 (削除)] を選択します。

コンテナサブスクリプションをキャンセルする

次の手順では、コンテナサブスクリプションをキャンセルする方法について説明します。

サブスクリプションをキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[コンテナイメージ] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

機械学習サブスクリプションをキャンセルする

機械学習のサブスクリプションをキャンセルする前に、次のアクションを実行してください。

- ML アルゴリズムの場合 – にサインイン AWS Management Console し、[Amazon SageMaker AI](#) コンソールを開きます。アルゴリズムに対して実行中のトレーニングジョブをすべて終了します。アルゴリズムからモデルパッケージを作成した場合は、リアルタイムエンドポイントの起動や、サブスクリプションキャンセル後のバッチ推論ジョブの作成はできません。
- アルゴリズムから作成された ML モデルパッケージまたはモデルの場合 – にサインイン AWS Management Console し、[Amazon SageMaker AI](#) コンソールを開きます。実行中のモデルのリアルタイムエンドポイントをすべて終了するか、実行中のバッチ推論ジョブをすべて終了します。

Note

終了していない既存のジョブやエンドポイントは引き続き実行され、終了するまで課金されます。

機械学習のサブスクリプションをキャンセルするには

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. [サブスクリプションを管理] ページで、キャンセルするサブスクリプションを選択します。

3. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
4. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

サブスクリプションをキャンセルすると、アルゴリズムやモデルを起動できなくなります。

SaaS サブスクリプションをキャンセルする

SaaS サブスクリプションをキャンセルするプロセスは、サインアップしたサブスクリプションのタイプによって異なります。

SaaS 契約サブスクリプションをキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
[サブスクリプションを管理] ページが表示されます。
2. [配信方法] リストを開き、[SaaS] を選択します。
3. キャンセルするサブスクリプションを選択します。
4. [契約] の [アクション] リストで [サブスクリプションをキャンセル] を選択します。
5. [サブスクリプションをキャンセル] ダイアログボックスで、**confirm** と入力し、[はい、サブスクリプションをキャンセルします] を選択します。

SaaS 契約サブスクリプションの自動更新をキャンセルする

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. [製品の詳細] ページに異動します。
3. [続行] を選択して [注文] ページに移動します。
4. [更新を変更] タブを選択し、[更新をキャンセル] を選択します。

支払い方法

を初めて作成するときに AWS アカウント、そのアカウントの支払い方法を設定します。支払い方法は、[AWS 請求情報とコスト管理コンソール](#)で管理できます。手順については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[支払いの管理](#)」を参照してください。

支払いエラー

支払者アカウントでの支払い処理中にエラーが発生した場合は、支払い方法を更新してもう一度試してください。このエラーは、次の理由で発生する可能性があります。

- 支払い方法が見つからない、無効、またはサポートされていない。
- 支払いが拒否された。
- Amazon Internet Services Private Limited (AISPL) アカウントでは、契約料金モデルによる新規購入の際、デビットカードまたはクレジットカードの使用が制限されています。AISPL アカウントをお持ちの場合は、[AWS カスタマーサービス](#)に連絡してデフォルトの支払い方法を更新してください。詳細については、AWS Marketplace ブログウェブサイトの「[を使用した AISPL のお客様のクレジットカードおよびデビットカードの購入の制限 AWS Marketplace](#)」を参照してください。
-

更新された支払い方法は、新しい購入に使用できるまでに最大 7 日間かかる場合があります。トラブルシューティングについては、[サポート](#) にお問い合わせください。

サポートされている通貨

次のリストには、Amazon Web Services EMEA SARL AWS、Amazon Web Services Australia、Amazon Web Services Japan G.K. でサポートされている既存の通貨がすべて含まれています。

Note

Amazon Internet Services Private Limited (AISPL) は現在 でサポートされていないため、インドルピー (INR) はサポートされている通貨ではありません AWS Marketplace。詳細については、「[アカウントAWS アカウント と AWS India アカウントの違いは何ですか？](#)」を参照してください。

プライベートオファーおよびその他のトランザクションの通貨処理：

プライベートオファー契約が EUR、GBP、AUD、または本気で締結されている場合は、サブスクリプションを通じてその通貨で請求書を直接受け取ります。その他のすべての購入 (パブリックサブスクリプションや使用料金など) については、請求書は USD で表示されます。ただし、これらの USD

請求書は、サポートされている任意の現地通貨で支払うことができます。現地通貨を選択した場合、金額は請求時に USD-to-local 為替レートを使用して計算されます。

AWS は、Knowledge の日次為替レートを使用して通貨換算を計算します。一括 pay-as-you-go の請求書には、その月の最終日からの料金が使用されます。各請求書で使用されている特定の為替レートを確認できます。

Amazon Web Services でサポートされている通貨は次のとおりです。

- オーストラリアドル (AUD)
- 英国ポンド (GBP)
- カナダドル (CAD)
- デンマーククローネ (DKK)
- ユーロ (EUR)
- 香港ドル (HKD)
- 日本円 (JPY)
- ニュージーランドドル (NZD)
- ノルウェークローネ (NOK)
- シンガポールドル (SGD)
- 南アフリカランド (ZAR)
- スウェーデンクローナ (SEK)
- スイスフラン (CHF)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services EMEA SARL でサポートされている通貨は次のとおりです。

- 英国ポンド (GBP)
- デンマーククローネ (DKK)
- ユーロ (EUR)
- ノルウェークローネ (NOK)
- 南アフリカランド (ZAR)
- スウェーデンクローナ (SEK)
- スイスフラン (CHF)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services Australia でサポートされている通貨は次のとおりです。

- オーストラリアドル (AUD)
- 米ドル (USD)

Amazon Web Services Japan G.K. でサポートされている通貨は次のとおりです。

- 日本円 (JPY)
- 米ドル (USD)

指定通貨の変更

AWS Marketplace 購入は、に指定した通貨で表示されます AWS アカウント。[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)で、アカウントに指定されている通貨を変更できます。手順については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[請求の支払いに使用する通貨の変更](#)」を参照してください。ただし、[米ドル以外の通貨](#)でプライベートオファーを承諾した場合、サブスクリプションが終了するまで、オファーに選択された通貨で請求書が引き続き届きます。契約書は、[自分のサブスクリプション] ページでご確認いただけます。

Note

希望通貨を変更すると、送金手順が変更されます。更新された送金手順を表示するには、AWS Marketplace 請求書を参照するか、[AWS Billing and Cost Management コンソール](#)のアカウント設定ページを参照してください。

支払い方法と支払い時期

次の表は、プライベートオファーおよびパブリックサブスクリプションにおける契約および使用量ベースの料金の請求方法を示しています。

プライベートオファーのサブスクリプション

料金モデル	「請求」
契約	契約ベースの料金モデルでは、購入者には次のいずれかの方法で請求されます。

料金モデル	「請求」
	<ul style="list-style-type: none"> カスタム請求スケジュールを含む分割プラン。販売者が定義した日付の 00:00 UTC に請求されます。請求書には、購入者への支払い手順が含まれています。 前払い請求は、サブスクリプション直後に支払われます。
使用量 (従量制)	毎月 2 日または 3 日の 00:00 UTC に請求され、他の AWS 料金と組み合わせられます。

パブリックサブスクリプション (セルフサービス購入)

料金モデル	「請求」
契約	前払い請求は、サブスクリプション直後に支払われます。
使用量 (従量制)	毎月 2 日または 3 日の 00:00 UTC に請求され、他の AWS 料金と組み合わせられます。

送金手順の更新

欧州、中東、アフリカ (EMEA) を AWS アカウント 拠点とする で、トルコと南アフリカを除く EMEA 対象販売者からソフトウェア製品を購入しているお客様は、Amazon Web Services EMEA SARL から請求書を受け取ります。Amazon Web Services EMEA SARL (AWS Europe) 請求書には AWS、Inc. とは異なる送金手順があります。 [AWS Billing and Cost Management コンソール](#) にサインインすると、請求書に送金情報が表示されます。請求書の送金情報部分に記載されている銀行口座は、Amazon Web Services EMEA SARL を通じて購入した AWS クラウド サービスとは異なります。Amazon Web Services EMEA SARL は、ルクセンブルクのライセンスされた電子金融機関である Amazon Payments Europe, S.C.A. を AWS Marketplace 請求書の支払いプロセッサとして使用します。すべての請求は、全額決済される必要があります。請求金額の全額に満たない支払いは、お客様の銀行口座に返金されます。

次の表は、取引の種類、取引主体、対応する送金手順 (請求書の「電子送金詳細」に記載されているアカウント名) の概要を示しています。

取引の種類	取引主体	送金手順
AWS クラウド サービスの購入	Amazon Web Services EMEA SARL	Amazon Web Services EMEA SARL
対象 AWS Marketplace 販売者	Amazon Web Services EMEA SARL	Amazon Payments Europe, S.C.A.
対象外 AWS Marketplace の販売者	AWS 株式会社	AWS

送金手順のために残高証明書を請求するには、請求またはアカウントのサポートを選択し、[\[AWSへのお問い合わせ\]](#) でアカウントおよび請求サポートケースを作成するか、<awslux-receivables-support@email.amazon.com> まで E メールメッセージを送信してください。

通貨設定をサポート対象通貨に変更する方法の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の[「請求書の支払いに使用する通貨の変更」](#)を参照してください。

Amazon Web Services EMEA SARL では、電子送金、MasterCard、VISA、American Express のクレジットカードによる支払いを受け付けています。Diners Club または Discover のクレジットカードはご利用いただけません。

詳細については、「[AWS Marketplace 購入者の税務ヘルプ](#)」を参照してください。

AWS Marketplace 製品の返品

顧客は、AWS Marketplace 製品の払い戻しのタイプをリクエストできます。AWS が販売する AWS Marketplace 製品については、[\[返金ポリシー\]](#) ページを参照し、AWS Support Center Console を使用してサポート問い合わせフォームを送信してください。サードパーティーによって製品が販売された場合は、[\[製品の詳細\]](#) ページの返金ポリシーを確認してください。AWS Marketplace サブスクリプションのソフトウェア料金は、製品の販売者に支払われ、返金は販売者に直接要求する必要があります。AWS Marketplace 販売者は、各自の AWS Marketplace ページに返金ポリシーを記載する必要があります。

AWS Marketplace での購入に関連する返金の詳細については、「AWS Marketplace 販売者ガイド」の次のトピックを参照してください。

- [返金](#)
- [製品の料金](#)

 Note

プライベートオファーに関連するすべての返金については、販売者にお問い合わせください。

のプライベートマーケットプレイス AWS Marketplace

プライベートマーケットプレイスは AWS アカウント、ビジネスユーザーやエンジニアリングチームなど、 のユーザーがどの製品から調達できるかを制御します AWS Marketplace。これは 上に構築されており AWS Marketplace、管理者は承認された独立系ソフトウェアベンダー (ISVs) と自社ポリシーに準拠した製品の厳選されたデジタルカタログを作成およびカスタマイズできます。のユーザーは、プライベートマーケットプレイスから承認済み製品 AWS アカウント を検索、購入、デプロイし、利用可能なすべての製品が組織のポリシーと標準に準拠していることを確認できます。

[AWS Organizations](#) を使用すると、すべてのアカウントの管理を一元化し、アカウントを組織単位 (OU) にグループ化し、異なるアクセスポリシーを各 OU に割り当てることができます。組織全体、一つ以上の OU、または、組織内の 1 つ以上のアカウントに関連付けられた複数のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを作成し、それぞれに独自の承認済み製品一式を設定できます。AWS 管理者は、会社またはチームのロゴ、メッセージング、カラースキームを使用して、各プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに会社のブランドを適用することもできます。

📌 メモ

- ([プライベートオファー](#)を通じて) シェアされたプライベート製品をプライベートマーケットプレイスに追加できます。詳細については、「[プライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブする](#)」を参照してください。
- プライベートマーケットプレイスでは、EULAs が AWS カスタマーアグリーメントまたは の使用 AWS を管理する他の契約によって管理されている製品に対して、お客様は自動的に権利を付与されます AWS のサービス。顧客にはデフォルトで既にこれらの製品を利用する資格があるため、プライベートマーケットプレイスで承認した製品のリストには含まれません。お客様は Service Catalog を使用してこれらの製品のデプロイを管理できます。

トピック

- [製品の詳細ページの表示](#)
- [通知の設定](#)
- [ユーザー向けプライベートマーケットプレイス](#)
- [管理者向けのプライベートマーケットプレイス](#)

製品の詳細ページの表示

ユーザーは、アカウントを管理するプライベートマーケットプレイスで許可されている製品のみをサブスクライブできます。製品の詳細ページを閲覧したり表示したりすることはできますが、サブスクリプションが有効になっているのは、プライベートマーケットプレイスに追加した製品のみです。製品がプライベートマーケットプレイスに含まれていない場合は、ページ上部に赤色のバナーが表示され、製品が AWS Marketplace での調達が承認されていないことを示します。

ソフトウェアリクエストが有効な場合、ユーザーは製品詳細ページで [リクエストを作成] を選択できます。ユーザーが [リクエストを作成] を選択すると、製品をプライベートマーケットプレイスで入手可能にするためのリクエストが管理者に送信されます。この機能の詳細については、「[プライベートマーケットプレイスでの製品に対するユーザーリクエストを管理する](#)」を参照してください。

通知の設定

プライベートマーケットプレイス管理者と購入者は、購入者が製品をリクエスト AWS Marketplace したとき、およびリクエストが承認または拒否されたときに、 から通知イベントを受け取ります。管理者は、AWS 組織内の任意のアカウントからリクエストの通知を受け取ります。購入者は、アカウントからのリクエストの通知のみを受け取ります。通知イベントには、製品の詳細と販売者名が含まれます。

プライベートマーケットプレイス通知イベントの詳細については、このガイドで後述されている「[AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知](#)」を参照してください。

ターゲットタイプ別 EventBridge ルールを作成するには、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge ルール](#)」の手順を実行します。

E メール通知設定を作成する

AWS User Notifications サービスを使用して、E メールを含む複数のチャネルを介してイベントの通知を受信できます。次の手順では、E メール通知設定を作成する方法について説明します。通知設定は、通知を受け取るサービスとイベントルールのコンテナとして機能します。イベントルールは、AWS コンソールで通知を生成するイベントと、使用する配信チャネルを指定します。

通知設定を作成するには

1. AWS マネジメントコンソールにサインインし、AWS ユーザー通知に移動します。
2. 通知設定を選択し、通知設定の作成を選択します。
3. 名前 ボックスに、設定の名前を入力します。

4. ページのイベントルールセクションに、次の値を入力します。
 - AWS サービス名で、AWS Marketplace Private Marketplace を選択します。
 - イベントタイプで、次のいずれかを選択します。
 - 製品リクエストが作成される
 - 製品リクエストが承認される
 - 製品リクエストが拒否される

 Note

必要に応じて、イベントタイプごとに通知設定を作成できます。

- [リージョン] には、[us-east-1] を選択します。プライベートマーケットプレイスは、そのリージョンでのみ動作します。
5. 集約設定では、5 分以内に受信を選択することをお勧めします。
 6. 配信チャネルで、Eメールのチェックボックスを選択し、次の操作を行います。
 - a. 受信者ボックスに、通知受信者の E メールアドレスを入力します。
 - b. 必要に応じて、別の受信者を追加を選択し、受信者ボックスに別の E メールアドレスを入力します。最大 99 人の受信者を入力できます。
 - c. (オプション) タグの管理 で、新しいタグを追加を選択し、キーと値 ボックスに値を入力します。

 Note

AWS コンソールモバイルアプリとチャットチャネルの配信オプションの使用の詳細については、以下のリンクを参照してください。

7. 完了したら、通知設定の作成を選択します。

Eメール配信チャネルの使用に加えて、AWS コンソールモバイルアプリおよびチャット配信チャネルを使用することもできます。以下のリンクから、これらのチャネルとに関する詳細情報にアクセスできます User Notifications。

- [Console AWS Mobile Application ユーザーガイドのAWS 「コンソールモバイルアプリケーションとは」](#)。

- [AWS チャットアプリケーション管理者ガイドの「チャットボットとは」](#)。
- 「User Notifications ユーザーガイド」の[「通知設定の作成」](#)。

ユーザー向けプライベートマーケットプレイス

ユーザーとしてプライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブするには、製品の詳細ページに移動し、[続行] を選択します。これにより、製品のサブスクリプションページにリダイレクトされます。サブスクリプションページで、設定を選択してから、[サブスクライブ] を選択できます。

プライベートマーケットプレイスで製品が承認されていない場合、[Subscribe (サブスクライブ)] は使用できません。現時点で製品の調達が承認されていないことを示す赤色のバナーがページ上部に表示されます。ソフトウェアリクエストが有効な場合は、[Create request (リクエストの作成)] を選択して、プライベートマーケットプレイスに製品を追加するよう管理者にリクエストを送信できます。

プライベートマーケットプレイスで製品をサブスクライブする

AWS Marketplace には、一般公開されていない製品もあります。これらの製品は、販売者からプライベートオファーを受けた場合にのみ表示されます。ただし、プライベートマーケットプレイスの管理者が最初にプライベートマーケットプレイスに製品を追加した場合にのみ、サブスクライブできます。このため、プライベートオファーは、自分の AWS アカウントと組織のプライベートマーケットプレイス管理者を含むアカウントの両方にまで拡大する必要があります。プライベートオファーがユーザーと管理者の両方に拡大されたら、プライベートマーケットプレイスの管理者はプライベートマーケットプレイスに製品を追加できます。製品が承認されると、他のプライベートオファーと同様に製品をサブスクライブできます。

プライベートマーケットプレイス向け製品を再リクエストする

ユーザーは、管理者にプライベートマーケットプレイスにない製品の追加をリクエストできます。リクエストを行うには、製品の詳細ページに移動して [Create request (リクエストの作成)] を選択し、製品をプライベートマーケットプレイスに追加するためのリクエストを管理者宛てに入力して、送信します。リクエストのステータスを追跡するには、左側のドロップダウンメニューで [Your Private Marketplace Requests (プライベートマーケットプレイスのリクエスト)] を選択します。

管理者向けのプライベートマーケットプレイス

プライベートマーケットプレイスを作成および管理するには、管理アカウントまたはプライベートマーケットプレイスの委任管理者アカウントにサインインする必要があります。また、AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess IAM ポリシーで AWS Identity and Access

Management (IAM) アクセス許可を保持している必要があります。このポリシーをユーザー、グループ、およびロールに適用するための詳細については、「[the section called “プライベートマーケットプレイスの管理者の作成”](#)」を参照してください。

Note

プライベートマーケットプレイス AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様は、IAM AWSPriateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーを持つ組織内の任意のアカウントからプライベートマーケットプレイスを作成および管理できます。

このセクションでは、AWS Marketplace ウェブサイトを通じてプライベートマーケットプレイス管理者として実行できるタスクについて説明します。AWS Marketplace Catalog APIを使用してプライベートマーケットプレイスを管理することもできます。詳細については、「AWS Marketplace Catalog API リファレンス」の「[Working with a private marketplace](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスの開始方法

プライベートマーケットプレイスの使用を開始するには、AWS 管理アカウントにサインインし、[プライベートマーケットプレイス](#)に移動して、次の前提条件を有効にします。

- 信頼されたアクセス – の信頼されたアクセスを有効にする必要があります。これにより AWS Organizations、組織の管理アカウントは、AWS サービスの AWS Organizations データへのアクセスを許可または取り消すことができます。信頼されたアクセスを有効にすることは、プライベートマーケットプレイスがと統合 AWS Organizations し、プライベートマーケットプレイスを組織内の信頼されたサービスとして指定するために不可欠です。
- サービスにリンクされたロール – プライベートマーケットプレイスのサービスにリンクされたロールを有効にする必要があります。このロールは管理アカウントにあり、ユーザーに代わってプライベートマーケットプレイスリソースを記述 AWS Organizations および更新するためにプライベートマーケットプレイスが必要とするすべてのアクセス許可が含まれています。サービスにリンクされたロールの詳細については、「[ロールを使用して AWS Marketplaceのプライベートマーケットプレイスを構成する](#)」を参照してください。

Note

現在のプライベートマーケットプレイス顧客は、[プライベートマーケットプレイス] の管理者ページで [設定] を選択すると、プライベートマーケットプレイスの設定を有効化できま

す。の信頼されたアクセスを有効に AWS Organizations し、サービスにリンクされたロールを作成することで、OUsプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに関連付ける、委任された管理者を登録するなどの機能を利用できます。有効化すると、管理アカウントと専任管理者アカウントのみがマーケットプレイスエクスペリエンスを作成および管理できます。既存のリソースは、管理アカウントに転送され、専任管理者のみと共有されます。信頼されたアクセスを無効にすると、組織のプライベートマーケットプレイスガバナンスが削除されます。プライベートマーケットプレイスにはアカウントグループは表示されません。組織のガバナンスをさまざまなレベルで表示するには、[組織構造] ページを使用します。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

プライベートマーケットプレイスを管理する

プライベートマーケットプレイスは、左ペインの [設定] にある [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページで管理できます。管理アカウント管理者と委任管理者は、このページを使用して、デフォルトのプライベートマーケットプレイスやライブエクスペリエンスの数などのプライベートマーケットプレイスの詳細を確認します。

管理アカウント管理者は、このページを使用して以下の設定を管理することもできます。

委任された管理者

管理アカウント管理者は、委任管理者と呼ばれる指定されたメンバーアカウントにプライベートマーケットプレイス管理アクセス許可を委任できます。プライベートマーケットプレイスの委任管理者としてアカウントを登録するには、管理アカウントの管理者は、信頼できるアクセスとサービスにリンクされたロールが有効になっていることを確認し、[新しい管理者の登録] を選択した後に、12 桁の AWS アカウント番号を指定して、[送信] を選択する必要があります。

管理アカウントと委任された管理者アカウントは、エクスペリエンスの作成、ブランド設定の更新、オーディエンスの関連付けまたは関連付け解除、製品の追加または削除、保留中のリクエストの承認または拒否などのプライベートマーケットプレイス管理タスクを実行できます。

信頼されたアクセスとサービスにリンクされたロール

管理アカウント管理者は、プライベートマーケットプレイスで次の機能を有効にできます。

Note

現在のプライベートマーケットプレイス顧客は、[プライベートマーケットプレイス] の管理者ページで [設定] を選択すると、プライベートマーケットプレイスの設定を有効化できま

す。AWS Organizations の信頼されたアクセスを有効化し、サービスにリンクされたロールを作成すると、OU とプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスの関連付けや専任管理者の登録などの機能を使用できるようになります。有効化すると、管理アカウントと専任管理者アカウントのみがマーケットプレイスエクスペリエンスを作成および管理できます。既存のリソースは、管理アカウントに転送され、専任管理者のみと共有されます。信頼されたアクセスを無効にすると、組織のプライベートマーケットプレイスガバナンスが削除されます。プライベートマーケットプレイスにはアカウントグループは表示されません。組織のガバナンスをさまざまなレベルで表示するには、[組織構造] ページを使用します。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

- 信頼されたアクセス – AWS Organizations に対して、信頼されたアクセスを有効化します。これにより、組織の管理アカウントは、AWS サービスの AWS Organizations データを提供するか、無効にします。信頼されたアクセスを有効にすることは、プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations を統合し、組織内で信頼されたサービスとしてプライベートマーケットプレイスを指定するために重要です。
- サービスにリンクされたロール – プライベートマーケットプレイスのサービスにリンクされたロールを有効にする必要があります。このロールは管理アカウントに存在し、ユーザーに代わってプライベートマーケットプレイスが AWS Organizations を記述し、プライベートマーケットプレイスリソースを更新するためのすべてのアクセス許可を含みます。サービスにリンクされたロールの詳細については、「[ロールを使用して AWS Marketplace のプライベートマーケットプレイスを構成する](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスの作成

プライベートマーケットプレイスは 1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスで構成されます。エクスペリエンスは、1 つ以上のオーディエンスを関連付けることができる製品のサブセットおよび関連するブランディングです。エクスペリエンスは、組織全体、1 つ以上の OU または組織内の 1 つ以上のアカウントに関連付けることができます。AWS アカウント が組織のメンバーでない場合は、1 つのアカウントに関連付けられた 1 つのプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスがあります。プライベートマーケットプレイスを作成するには、[プライベートマーケットプレイス](#)に移動し、左側の [エクスペリエンス] ページを選択して、[エクスペリエンスを作成] を選択します。各エクスペリエンスでは、ロゴやタイトルを追加したり、組織のカラースキームを使用するようにユーザーインターフェイスをカスタマイズしたりできます。

Note

でプライベートマーケットプレイスを使用するには AWS Organizations、組織のすべての機能を有効にする必要があります。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[組織内のすべての機能の有効化](#)」を参照してください。

AWS アカウントが組織のメンバーでない場合は、プライベートマーケットプレイスを使用するための前提条件ステップは必要ありません。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを作成する

1. [\[プライベートマーケットプレイス\]](#) に移動します。
2. 左側のナビゲーションペインで、[エクスペリエンス]、[エクスペリエンスを作成] の順に選択します。
3. エクスペリエンスの名前を指定し、[エクスペリエンスを作成] を選択します。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスは、承認された商品やブランド要素なしで作成され、組織内のアカウントにも関連付けられていません。デフォルトでは、ライブになりません。マーケットプレイスエクスペリエンスの次のステップは次のとおりです。

1. [プライベートマーケットプレイスのオーディエンスを管理する](#)
2. [製品を追加する](#)
3. [プライベートマーケットプレイスのステータスを \[ライブ\] に変更する](#)

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのオーディエンスを管理する

オーディエンスとは、プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに関連付けることができる組織または組織単位のグループ (OU) またはアカウントのことを示します。オーディエンスは、左側のペインの [エクスペリエンス] の [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから作成できます。

1 つ以上のオーディエンスをエクスペリエンスに関連付けることができます。オーディエンスを関連付けづけるまたは関連を解除する際、子 OU およびアカウントの管理エクスペリエンスが変更される場合があります。[組織構造] ページを使用して、関連付けの影響を受けるアカウントと OU を表示

します。信頼されたアクセスを無効にすると、オーディエンスの関連付けが解除され、すべてのガバナンスが削除されます。

Note

プライベートマーケットプレイスから AWS Organizations 階層を表示し、組織のガバナンスを管理できます。プライベートマーケットプレイスを組織単位レベルで管理し、委任管理者を登録するには、[設定] ページから信頼されたアクセスとサービスにリンクされたロールを有効にします。ご質問やサポートが必要な場合は、[お問い合わせください](#)。

プライベートマーケットプレイスに製品を追加する

プライベートマーケットプレイスでは、で利用可能な幅広い製品カタログと AWS Marketplace、それらの製品のきめ細かな制御が提供されます。

Note

プライベートマーケットプレイスでは、EULA EULAs が AWS カスタマーアグリーメントまたは AWS の使用を管理する とのその他の契約に準拠するすべての製品に対して、自動的に権利が付与されます AWS のサービス。顧客にはデフォルトで既にこれらの製品を利用する資格があるため、プライベートマーケットプレイスで承認した製品のリストには含まれません。お客様は Service Catalog を使用してこれらの製品のデプロイを管理できます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに製品を追加するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。次に、製品タブで、すべての AWS Marketplace 製品を選択します。製品名または販売者名で検索できます。
2. プライベートマーケットプレイスに追加する各製品の横にあるチェックボックスを選択してから、[Add to Private Marketplace] を選択します。

Note

赤いバナーの [プライベートマーケットプレイスに追加] ボタンを選択して、商品詳細ページから直接商品を追加することもできます。赤いバナーが製品ページに表示されていない場合、その商品は既にプライベートマーケットプレイスにあります。

左側のナビゲーションペインで [製品を一括追加/削除] を選択すれば、複数の製品を複数のエクスペリエンスに一度に追加することもできます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスでの製品の確認

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスで製品が承認されていることを確認するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [承認された製品] を選択します。承認された製品はすべて承認済みリストに表示されます。

Note

編集しているエクスペリエンスに関連付けられたアカウントを使用していて、そのエクスペリエンスが有効になっている場合は、AWS Marketplace コンソール (<https://console.aws.amazon.com/marketplace>) で製品を直接表示することもできます。プライベートマーケットプレイスの一部であれば、検索結果のすべての製品に [調達の承認済み] のバッジが表示されます。

プライベート製品の使用

一部の製品は、一般公開されていません AWS Marketplace。これらの製品は、販売者からプライベートオファーを受けた場合にのみ表示されます。販売者からのプライベートオファーには、製品へのリンクが含まれています。ページ上部のバナーから、プライベートマーケットプレイスに製品を追加できます。

Note

組織内の別のアカウントからプライベート製品をサブスクライブする場合、販売者は AWS アカウント プライベートオファーに (製品をプライベートマーケットプレイスに追加するた

め)とユーザーのアカウント(製品をサブスクライブするため)の両方を含める必要があります。

プライベートマーケットプレイスからプライベート製品を削除するには、[AWS Marketplace サポートに連絡する](#)必要があります。

プライベートマーケットプレイスのステータスを変更する

エクスペリエンスの製品リスト、マーケットプレイスのブランド設定、関連するアカウントグループに問題がなければ、プライベートマーケットプレイスを公開できます。[AWS プライベートマーケットプレイス] 管理者ページにある左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択し、有効にするエクスペリエンスを選択します。[設定] タブでは、プライベートマーケットプレイスのステータスを [ライブ] (有効) と [非ライブ] (無効) に変更できます。

プライベートマーケットプレイスがライブの場合、エンドユーザーは承認した製品のみを購入できます。プライベートマーケットプレイスを無効にした場合は、製品のリストが保持されます。ただし、プライベートマーケットプレイス無効にすると、AWS Organizations 組織のユーザーに対する制限が解除されます。その結果、パブリックな製品にサブスクライブできます AWS Marketplace。

プライベートマーケットプレイスをライブ化しても、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスで実行されているアクティブな Amazon マシンイメージ (AMI) が中断されることはありません。ベストプラクティスとして、組織全体で現在使用されているすべての AWS Marketplace 製品がプライベートマーケットプレイスに含まれていることを確認してください。また、プライベートマーケットプレイスをライブにする前に、未承認製品の使用を中止する計画を立てておくのもベストプラクティスです。プライベートマーケットプレイスの開始後は、すべての新規購読または更新は、プライベートマーケットプレイスのカタログで承認された製品によって管理されます。

プライベートマーケットプレイスでの製品に対するユーザーリクエストを管理する

ソフトウェアリクエスト機能を使用して、自分の Private Marketplace カタログに製品を追加するリクエストをユーザーが送信できるようにできます。ソフトウェアリクエストはデフォルトで有効になっており、プライベートマーケットプレイスが有効になっている間のみ設定を変更できます。

このページから、リクエストされた製品をいくつでも追加できます。追加するには、リクエストされた各製品の名前の横にあるチェックボックスをオンにし、[Add to Private Marketplace (プライベートマーケットプレイスに追加)] を選択します。同様に、[拒否] を選択して、1 つまたは複数の選択した

リクエストを拒否することもできます。製品 (またはそのソフトウェアリクエスト) に関する詳細情報を表示するには、そのリクエストの [詳細] 列で [詳細を表示] を選択します。

製品リクエストを拒否する場合は、その理由を追加して、今後この製品がリクエストされないように (ブロック) できます。製品のブロックにより、プライベートマーケットプレイスに製品を追加できなくなることはありませんが、ユーザーは製品をリクエストできなくなります。

ユーザーリクエストを管理する

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. 管理するエクスペリエンスを選択します。
3. ユーザーリクエストを有効または無効にするには、[設定] タブを選択します。
4. 製品リクエストを表示するには、[製品] タブを選択します。ここから、ユーザーが自分の Private Marketplace カタログに追加した製品のリクエストを確認できます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをアーカイブする

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスはアーカイブして削除できます。アーカイブされたエクスペリエンスは更新したり、組織内のアカウントを管理したりするために使用できません。アーカイブされたエクスペリエンスに関連付けられているオーディエンスがいる場合は、それらを別のエクスペリエンスに関連付けられます。後でエクスペリエンスを使用する場合は、[いつでも再有効化できます](#)。管理アカウント管理者または委任管理者は、エクスペリエンスをアーカイブするアクセス許可を持っています。

Note

エクスペリエンスをアーカイブする前に、そのエクスペリエンスを無効にする必要があります。エクスペリエンスの無効化については、「[プライベートマーケットプレイスの状態を変更する](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様の場合、エクスペリエンスを作成したアカウントの管理者には、エクスペリエンスをアーカイブするアクセス許可があります。

1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスをアーカイブするには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [アクティブエクスペリエンス] タブで、1 つ以上のエクスペリエンスを選択します。
3. [エクスペリエンスをアーカイブ] を選択します。

 Note

1 つ以上のエクスペリエンスのステータスが「ライブ」になっている場合は、[エクスペリエンスをオフラインにする] を選択してオフラインにする必要があります。

4. エクスペリエンスをアーカイブするかどうかを確認するには、テキストボックスに **confirm** (すべて小文字) と入力します。
5. [Archive] (アーカイブ) を選択します。

 Note

エクスペリエンスを選択し、[設定] タブの [管理者] モードで [エクスペリエンスをアーカイブ] を選択し、[保存] を選択してもエクスペリエンスをアーカイブできます。

プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを再有効化する

[アーカイブされた](#)マーケットプレイスエクスペリエンスを使用する場合は、いつでも再有効化できます。管理アカウント管理者または委任管理者は、エクスペリエンスを再有効化するアクセス許可を保有しています。

 Note

プライベートマーケットプレイスと AWS Organizations の統合がない現在のプライベートマーケットプレイスのお客様の場合、エクスペリエンスを作成したアカウントの管理者には、エクスペリエンスを再アクティブ化するアクセス許可があります。

1 つ以上のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを再有効化するには

1. [プライベートマーケットプレイス] 管理者ページから、左側のナビゲーションペインで [エクスペリエンス] を選択します。
2. [アーカイブされたエクスペリエンス] タブで、1 つ以上のエクスペリエンスを選択します。
3. [再有効化] を選択します。
4. エクスペリエンスを再有効化するかどうかを確認するには、テキストボックスに **confirm** と入力します。
5. [再有効化] を選択します。

 Note

エクスペリエンスを選択し、[設定] タブの [管理者] モードで [エクスペリエンスを再有効化] を選択し、[保存] を選択してもエクスペリエンスを再有効化できます。

のプライベートオファー AWS Marketplace

AWS Marketplace 販売者のプライベートオファー機能を使用すると、公開されていない販売者から製品の料金と EULA 条件を受け取ることができます。販売者と料金と条件を交渉すると、販売者は指定した AWS アカウントのプライベートオファーを作成します。プライベートオファーを受け入れ、交渉価格と利用規約の受信を開始します。

プライベートオファーをサブスクライブしたら、プライベートオファーの製品の種類によっては、プライベートオファーの契約が有効期限に達すると、自動的に製品のパブリックオファーに移行するか、製品をサブスクライブしなくなります。

一括請求機能を使用している場合は AWS Organizations、組織の管理アカウントまたはメンバーアカウントからプライベートオファーを受け入れることができます。管理アカウントから承諾すると、プライベートオファーを組織内のすべてのメンバーアカウントと共有できます。以前この製品をサブスクライブしていたメンバーアカウントも、価格設定のメリットを受けるためには、新しいプライベートオファーを受け入れる必要があります。また、AMI およびコンテナ製品の場合は、AWS License Manager を使用して管理アカウントからのライセンスをメンバーアカウントと共有できます。製品をサブスクライブしていないメンバーアカウントは、製品をデプロイするためにプライベートオファーを受け入れる必要があります。

一括請求の詳細については、「AWS Billing ユーザーガイド」の「[組織の一括請求](#)」を参照してください。以下は、プライベートオファーを使い始める際に留意すべき重要なポイントです。

- AWS Marketplace 購入者は、プライベートオファーのためにサードパーティーのローンサービスにアクセスできます。詳細については、「[カスタマーローンが利用可能になりました AWS Marketplace](#)」を参照してください。
- プライベートオファーを使用して購入するソフトウェア製品に違いはありません。プライベートオファーを使用して購入したソフトウェアは、プライベートオファーを使用せずにソフトウェアを購入した場合と同じように動作します。
- プライベートオファーで購入した製品サブスクリプションは、その他すべての AWS Marketplace 製品と同じように毎月の請求書に記載されています。詳細請求を使用して、AWS Marketplace 購入した各製品の使用状況を表示できます。各プライベートオファーは、内訳別に明細項目が表示されます。
- プライベートオファーをサブスクライブするのに、ソフトウェアの新しいインスタンスを起動する必要はありません。プライベートオファーを承諾すると、料金がプライベートオファーの料金に対応したものに變更されます。製品に 1-Click 起動機能がある場合は、ソフトウェアの新しいイン

スタンスをデプロイできます。製品の 1-Click 起動機能がデフォルトになっている場合は、新しいインスタンスを起動せずにプライベートオファーを承諾できます。新しいインスタンスをデプロイせずに起動するには、受理ページで [Manual Launch (手動起動)] を選択します。Amazon Elastic Compute Cloud コンソールを使用して、他の AWS Marketplace 製品と同様に追加のインスタンスをデプロイできます。

- 販売者がプライベートオファーを行うと、販売者がプライベートオファーに含めたアカウントに対して確認メッセージが送信されます。プライベートオファーは、表示されている特定のソフトウェア購入者のアカウントに連結されています。ソフトウェア販売者は、指定されたアカウントのプライベートオファーを作成します。各プライベートオファーは、最大 25 個のアカウントに対して作成できます。
- プライベートオファーを承認すると、あなたと販売者間で締結する契約 (コントラクトまたはサブスクリプションとも呼ばれる) になります。
- 販売者は、購入済みの SaaS 契約製品または従量課金制の SaaS 契約製品に対するアップグレードや更新を提供する場合があります。たとえば、販売者は新しいプライベートオファーを作成することで、新しい権利の付与、料金割引の提供、支払いスケジュールの調整、またはエンドユーザーライセンス契約 (EULA) の変更を行い、[標準化されたライセンス条項](#)を使用できます。

これらの更新やアップグレードは、承諾済みの元のプライベートオファーに対する変更であり、この変更を承諾するには同じプロセスを使用します。新しいアップグレードや更新のプライベートオファーを承諾すると、新しい契約条項が即座に発効し、ソフトウェアサービスが中断されることはありません。以前の条項または残りの支払予定はキャンセルされ、この新しい契約の条項に置き換えられます。

- の年間ソフトウェアサブスクリプションはすべて、ソフトウェア AWS Marketplace で確認できます。一括請求の AWS Organizations を使用して 1 つのアカウントで年間サブスクリプションを購入した場合、連結アカウントファミリー全体で共有されます。サブスクリプションを購入したアカウントに実行中のインスタンスがない場合、年間サブスクリプションは、そのソフトウェアを実行する別の連結アカウントの使用量としてカウントされます。年間サブスクリプションの詳細については、「[the section called “AMI サブスクリプション”](#)」を参照してください。
- プライベートオファーの有効期限が切れると、サブスクライブすることはできません。ただし、販売者に問い合わせることもできます。販売者に、現在のオファーの有効期限を将来の日付に変更してもらおうか、新しいプライベートオファーを作成してもらってください。

プライベートオファーに適した製品のタイプ

次の製品タイプのプライベートオファーを取得できます。

オファ어의タイプ	説明
データ製品	詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「 プライベートオファ어의承諾 」を参照してください。
SaaS 契約	<p>SaaS (Software-as-a-Service) 契約では、SaaS 製品の予想使用量に対する前払い金をコミットするか、販売者と Flexible Payment Schedule を交渉できます。契約期間は 1 か月、1 年、2 年、3 年、または月単位で最長 60 か月までのカスタム期間を選択できます。前払い料金をお支払いいただく場合は、製品ソフトウェアを使用する前に前払い料金が請求されます。</p> <p>販売者が Flexible Payment Schedule を提供する場合、プライベートオファ어に記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。</p> <p>また、販売者は契約した量を越える使用量に対して、交渉による従量制料金を含めることができます。</p>
SaaS サブスクリプション	SaaS サブスクリプションを使用すると、製品の使用に対する価格に同意したことになります。販売者は使用状況を追跡して AWS Marketplace に報告し、使用した分に応じて料金が請求されます。
時間単位の AMI	時間単位の Amazon マシンイメージ (AMI) では、AMI を使用するための時間あたりの料金を交渉して、最も近い時間に四捨五入します。
年間料金による時間単位の AMI	年間料金による時間単位の AMI では、インスタンスタイプごとに時間単位と長期料金を交渉します。長期料金は、プライベートオファ어의期間 (1 日から 3 年間) を対象としています

オファーのタイプ	説明
	<p>。販売者が Flexible Payment Schedule なしでプライベートオファーを作成した場合、プライベートオファーで決定された時間単位の料金で Amazon EC2 インスタンスを実行し、オプションでプライベートオファーに設定された長期料金で契約期間中の前払いのコミットメントを購入できます。販売者が Flexible Payment Schedule を設定したプライベートオファーを作成した場合、利用状況にかかわらず、プライベートオファーに記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。このタイプのプライベートオファーでは、販売者は、時間単位の料金の請求なしで実行できるインスタンスタイプごとに Amazon EC2 インスタンスの数を含めることができます。使用量がこの料金に含まれるものを超え得た場合、プライベートオファーで設定された時間単位の料金で請求されます。</p>
AMI 契約	<p>AMI 契約では、契約料金と契約期間 (1 ~ 60 か月) を交渉します。販売者が Flexible Payment Schedule なしでプライベートオファーを作成した場合、承諾時にプライベートオファーに設定されている料金とオプションに従って契約を設定できます。販売者が Flexible Payment Schedule を設定したプライベートオファーを作成した場合、プライベートオファーに記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。このタイプのプライベートオファーでは、販売者はプライベートオファーで契約を設定しますが、承諾時には設定できません。</p>

オファ어의タイプ	説明
コンテナ製品	コンテナ製品では、購入する製品に合わせて、ポッド、タスク、カスタム単位で、使用するコンテナ製品の時間単位または年間料金を交渉します。コンテナ製品のプライベートオファ어は、AMI 製品のプライベートオファ어と一致します。
Machine Learning 製品	プライベートオファ어は、指定された日数の固定前払い料金が適用される契約にできます。契約の終了時に、継続して実行するすべてのインスタンスには、販売者がプライベートオファ어で設定した時間単位の料金で請求されます。
プロフェッショナルサービス	プロフェッショナルサービスのオファ어は、すべてプライベートオファ어です。購入者と協力して、プライベートオファ어を作成する必要があります。詳細については、「 AWS Marketplace でプロフェッショナルサービス製品を購入する 」を参照してください。

プライベートオファ어의受け入れ準備

一般的なプライベートオファ어를交渉する場合、サードパーティーの資金調達を利用している場合を除き、オファ어를承諾した時点でオファ어의全額を支払います。サードパーティーの資金調達では、金融機関がお客様に代わって契約料金を支払い、合意された支払いスケジュールに基づいて請求書を発行します。プライベートオファ어를承諾する前に、会社の請求構造、AWS 請求の支払い方法、希望通貨、税金設定を確認してください。

Note

一部の販売者は、AWS Marketplaceで製品のプライベートオファ어를リクエストするオプションを提供しています。参加販売者の場合、プライベートオファ어의リクエストボタンが製品詳細ページに表示されます。プライベートオファ어를リクエストするには、このボタン

を選択し、リクエストの詳細を指定します。リクエストをまとめた確認 E メールが届き、AWS 担当者から連絡をします。

AWS Billing and Cost Management 設定の確認

請求情報とコスト管理は、AWS 請求の支払い、使用状況のモニタリング、コストの予算作成に使用するサービスです。の一括請求機能を使用して AWS Organizations、複数のアカウントまたは複数の Amazon Internet Services Pvt の請求と支払いを統合できます。Ltd (AISPL) アカウント。のすべての組織 AWS Organizations には、すべてのメンバーアカウントの料金を支払う管理アカウントがあります。管理アカウントは支払者アカウントと呼ばれ、メンバーアカウントは連結アカウントと呼ばれます。プライベートオファーをネゴシエートする前に、会社が AWS 請求をどのように支払うか、またプライベートオファーがどの AWS アカウントに対して行われるかを確認してください。

支払い方法の確認

プライベートオファーを承認する前に、支払い方法と希望通貨がプライベートオファーの全額の支払いをサポートしているか確認します。支払い方法を確認するには、<https://console.aws.amazon.com/costmanagement/> の請求情報とコスト管理コンソールを開きます。

課税設定の確認

ユーザーの会社が免税を受ける資格がある場合は、課税設定を確認してください。税金設定を表示または変更するには、にサインイン AWS Management Console し、アカウント設定で税金設定を表示します。税登録の詳細については、「[AWS アカウントに関する納税者登録番号または事業法人所在地を追加または更新する方法を教えてください](#)」を参照してください。

プライベートオファーの表示とサブスクライブ

プライベートオファーは、次のいずれかの方法で表示できます。

トピック

- [プライベートオファーのリストからのプライベートオファーの表示とサブスクリプション](#)
- [販売者が提供したリンクからプライベートオファーを表示してサブスクライブする](#)
- [製品ページからのプライベートオファーの表示とサブスクリプション](#)

プライベートオファーのリストからのプライベートオファーの表示とサブスクリプション

に拡張されたプライベートオファーのリストからプライベートオファーを表示してサブスクライブするには AWS アカウント

1. [AWS Marketplace](#) コンソールにサインインします。
2. [\[プライベートオファー\] ページ](#)に移動します。
3. [プライベートオファー] ページの [利用可能なオファー] タブで、関心のあるオファーの [オファー ID] を選択します。
4. プライベートオファーを表示して、サブスクライブします。

販売者が提供したリンクからプライベートオファーを表示してサブスクライブする

販売者から送られたリンクからプライベートオファーを表示してサブスクライブするには

1. [AWS Marketplace](#) コンソールにサインインします。
2. プライベートオファーにアクセスするには、販売者が送信したリンクの手順を実行します。

Note

正しいアカウントにログインする前にこのリンクをクリックすると、[ページが見つかりません] (404) というエラーが表示されます。

詳細については、「[プライベートオファーを表示するために \[オファー ID\] をクリックすると、\[ページが見つかりません\] \(404\) エラーが表示されます。](#)」を参照してください。

3. プライベートオファーを表示して、サブスクライブします。

製品ページからのプライベートオファーの表示とサブスクリプション

製品ページからプライベートオファーを表示してサブスクライブするには

1. [AWS Marketplace](#) コンソールにサインインします。
2. その製品の製品ページに移動します。

3. ページの上部のバナーで、プライベートオファー、オファー ID、およびオファーの有効期限を確認します。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

4. [オファー ID] を選択します。
5. プライベートオファーを表示して、サブスクライブします。

Note

その製品に対して複数のプライベートオファーがある場合、各オファーは [オファー名] の下に表示されます。現在契約中の製品がある場合は、そのオファーの横に [使用中] アイコンが表示されます。

プライベートオファーのトラブルシューティング

でプライベートオファーを使用する際に HTTP ステータスコード 404 (Not Found) の問題や同様の問題が発生した場合は AWS Marketplace、このセクションのトピックを参照してください。

問題

- [プライベートオファーを表示するために \[オファー ID\] をクリックすると、\[ページが見つかりません\] \(404\) エラーが表示されます。](#)
- [どの提案でも機能しない場合](#)

プライベートオファーを表示するために [オファー ID] をクリックすると、[ページが見つかりません] (404) エラーが表示されます。

- 正しい AWS アカウントにサインインしていることを確認します。販売者はプライベートオファーを AWS アカウント IDs。
- オファーが AWS Marketplace コンソールの [プライベートオファー](#) に存在するかどうかを確認します。[プライベートオファー] にオファーが見つからない場合は、販売者が別の AWS アカウント ID

に対してオファーを延長したことが原因である可能性があります。販売者に確認して、オファーが拡張された AWS アカウント ID を確認します。

- AWS Marketplace コンソールのプライベートオファーの「承諾済みオファーと期限切れオファー」タブを表示して、[プライベートオファー](#)の有効期限が切れていないことを確認します。オファーの有効期限が切れている場合は、販売者と協力してオファーの有効期限を変更するか、お客様のアカウントに対して新しいオファーを延長してください。
- アカウント ID がプライベートオファーの表示を許可していることを確認します。ISV によっては、限定出品を使用する場合があります。ISV に、お客様のアカウントが製品の表示を許可しているかどうかを問い合わせてください。AMI 製品の限定出品には許可リストが必要です。AWS 組織に属していて、販売者が管理アカウントにオファーを延長している場合、連結アカウントにはサブスクライブするには許可リストが必要です。そうしないと、許可リストにない購入者の連結アカウントがオファーを表示しようとしたときに「ページが見つかりません (404)」というエラーが表示されます。
- オファーを表示する必要がある場合は、AWS 管理者に問い合わせて `aws-marketplace:ViewSubscriptions` IAM アクセス許可があることを確認します。AWS Marketplace セキュリティの詳細については、「」を参照してくださいの[セキュリティ AWS Marketplace](#)。
- プライベートマーケットプレイスを利用しているかどうかを確認してください。
 - 製品を購入できるように、製品がプライベートマーケットプレイス (該当する場合) の許可リストに掲載されていることを確認します。不明な場合は、システム管理者に問い合わせて確認してください。

どの提案でも機能しない場合

どの提案でも HTTP ステータスコード 404 (Not Found) エラーが解決されない場合は、ブラウザで次の操作を試してください。

- キャッシュをクリアします。
- Cookie を削除します。
- サインアウトし、サインインし直します。
- シークレットモードまたはプライベートブラウジングモードを使用します。
- 別のブラウザを試します。Internet Explorer を使用することは推奨しません。

トラブルシューティングの提案をすべて完了しても、まだ Page not found エラーが表示される場合は、[AWS Marketplace 管理ポータル](#) 経由で、Private Offer Success Team (POST) チームにご連絡ください。

のプライベートオファーページ AWS Marketplace

のプライベートオファーページには AWS Marketplace、プライベート製品とパブリック製品 AWS アカウント の両方で に拡張されたすべてのプライベートオファーが一覧表示されます。利用できるすべてのオファーは、製品ごとに表示されます。各製品につき 1 つのオファーを受け入れることができます。

プライベートオファーページについて理解する

[プライベートオファー] ページを表示するには、AWS Marketplace コンソールにサインインして [プライベートオファー] に移動します。に拡張されたプライベートオファー AWS アカウント は、オファー ID、製品、登録販売者 (ISV またはチャンネルパートナー)、パブリッシャー、有効な契約 (該当する場合)、オファーの有効期限など、プライベートオファーの下に一覧表示されます。関心のあるオファーの [オファー ID] を選択してオファーの詳細を確認したり、プライベートオファーをサブスクライブしたりできます。

プライベートオファーページには以下の情報が含まれます。

- [ご利用いただけるオファー] タブには、ご利用のアカウントに適用されたプライベートオファーのうち、受け付け可能なプライベートオファーが一覧表示されます。このタブの [オファー ID] リンクは、プライベートオファーの詳細にアクセスするために販売者が提供しているリンクと同じです。
- [受け入れたオファーと期限切れのオファー] タブには、お客様が承諾し、契約が作成されたオファーが一覧表示されます。また、販売者が設定したオファーの有効期限に達したオファーも一覧表示されます。このタブは、販売者との契約を更新するときに、以前のオファー ID と契約 ID (ある場合) を取得するのに便利です。オファーによって契約が成立し、契約がアクティブな場合は、契約を選択してサブスクリプションの詳細ページを表示できます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、[「the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

プライベートオファーの変更、アップグレード、更新については、「[でのプライベートオファーの変更またはサブスクリプション解除 AWS Marketplace](#)」を参照してください。

プライベートオファーページの閲覧に必要なアクセス許可

AWS Marketplace コンソールでプライベートオファーページを表示するには、次のアクセス許可が必要です。

- AWS マネージドポリシーを使用する場合: `AWSMarketplaceRead-only`、`AWSMarketplaceManageSubscriptions`、または `AWSMarketplaceFullAccess`
- AWS マネージドポリシーを使用していない場合: IAM アクション `aws-marketplace:ListPrivateListings` と `aws-marketplace:ViewSubscriptions`

プライベートオファーページを表示できない場合は、管理者に連絡して正しい AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を設定してください。に必要な IAM アクセス許可の詳細については AWS Marketplace、「」を参照してください [AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシー](#)。

外貨でプライベートオファーの支払い

米ドル以外の通貨で米ドルのプライベートオファーの支払い

米ドル通貨でプライベートオファーを受け取り、支払い方法が米ドル以外の通貨である場合、使用される変換レートは請求書の日付の現在のレートです。プライベートオファーに応じて、請求書の日付はプライベートオファーの承諾日またはそれ以降の日付にすることができます。例えば、支払いスケジュールのない契約ベースのプライベートオファーの場合、請求日はオファーの承諾日です。支払いスケジュールが設定されたプライベートオファーの場合、請求日は分割払いの請求が予定されている日付です。

米ドル以外のプライベートオファーの支払い

すべての AWS 料金は本日も USD のままです。ただし、EUR、GBP、AUD、および特価の 4 つの通貨でプライベートオファーを受け取ることができます。外為の変動はありません。販売者は、希望の支払い通貨で契約料金でプライベートオファーを拡張できます。任意の通貨でプライベートオファーを表示して受け入れることができるため、外為の変動に対処することなく、支払う金額を把握できます。

オファ어의承諾時に、AWS は合意済みの米ドル以外の料金を米ドルの料金に変換し、サブスクリプション全体の為替レートをロックします。オファ어의承諾後、請求書には、米ドルの料金、オファ어承諾時の固定為替レート、および米ドル以外の料金通貨の両方が表示されます。別の AWS Marketplace オペレーターから請求書が生成される新しい場所に移動したシナリオでは、既存の固定外為オファ어はキャンセルされます。販売者に連絡して、支払う通貨で新しいオファ어를再発行してください。まれに、USD 以外の請求額が、外為変換によりわずかに四捨五入される場合があることに注意してください。

消費ベースの料金の支払い

プライベートオファ어의通貨に関係なく、消費ベースの料金が USD 通貨で一括月額請求書に追加されます。消費ベースの料金の例は、契約に含まれるもの以外の追加使用です。詳細については、「[AWS Marketplace での製品の支払い](#)」を参照してください。

での SaaS プライベートオファ어의サブスクライブ AWS Marketplace

Software as a Service (SaaS) のプライベートオファ어で利用できる設定オプションは、販売者と交渉する可能性のある契約によって異なります。

プライベートオファ어ページには、次のペインがあります。

- [オファ어名] - これは、作成時に販売者がプライベートオファ어に提供した名前です。
- オファ어의詳細 - このペインには、オファ어タイプ、オファ어의概要が表示されます。これには、オファ어 ID、製品、ベンダー、オファ어의延長日、オファ어의有効期限、利用可能なオファ어의リストが含まれます。
- 契約オプション - このペインでは、契約期間と自動更新設定を選択できます。
- 料金の詳細と単位設定 - このペインには、オファ어의支払いスケジュールとディメンション/単位の定義が表示されます。ディメンションは使用量の測定を示し、期間は料金期間 (12 か月間は 5 GB/日、1 時間あたりユーザーあたり 0.01 USD など) を指定します。契約の場合は、契約期間にわたって事前に決められた使用量に対して支払います。サブスクリプションの場合、測定された使用量に対して合意されたレートで支払います。追加使用の料金もここで指定します。SaaS サブスクリプションでは、契約期間中のすべての使用量に対して合意された料金が課金されます。
- 合計額 - このペインには、オファ어의合計コスト、契約通貨、税金の詳細が表示されます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、[「the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

- 利用規約 – 販売者がこのプライベートオファーにアップロードしたライセンス契約を表示できます。これは、すべてのプライベートオファーの仕様を確認し、契約を締結する準備ができた後に契約を承諾する場所でもあります。
- 購入の詳細 – このペインには、オファー ID、オファー提供元、合計契約コスト、契約期間、本日の合計支払額、選択したユニット数、税金の詳細、発注書番号が表示されます。

Important

[プライベートオファー] ページに表示されないセクションは、プライベートオファーの交渉対象ではありません。

SaaS プライベートオファーをサブスクライブするには

1. [「プライベートオファーの表示とサブスクライブ」](#) の手順を実行します。
2. オファーの詳細ペインで、適切なプライベートオファーを選択していることを確認します。製品に対して複数のオファーがある可能性があります。
3. 契約設定ペインで、契約期間と契約の詳細が交渉したものであることを確認します。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、[「the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

4. 料金の詳細と単位設定ペインで、ディメンションと数量が交渉したものであることを確認します。
5. 支払い情報ペインで、支払い情報を確認します。Flexible Payment Schedule について交渉した場合は、支払い日と金額が一覧表示されます。層ではない場合は、オファーを承諾する際に、契約の合計金額が請求されます。
6. 利用規約ペインで、EULA が販売者と交渉したものであることを確認します。

7. 購入の詳細ペインで、契約のすべての詳細を確認します。

[Subscribe] をクリックします。

オファーを承諾すると、製品に正常にサブスクライブしたことを示すアラートが表示されます。販売者のページにリダイレクトされたら、[Set Up Your Account] を選択して、販売者のウェブサイトでのアカウントの設定を完了します。

での AMI プライベートオファーのサブスクライブ AWS Marketplace

Amazon マシンイメージ (AMI) のプライベートオファーに使用できるセクションと設定オプションは、製品ベンダーと交渉した契約によって異なります。次の図は、AWS Marketplace ウェブサイトの AMI プライベートオファーページのレイアウトを示しています。

次の図に示すように、[プライベートオファー] ページには次のセクションがあります。

- [ベンダー名と製品] - これは、プライベートオファーの対象となるベンダーおよび製品の名前です。右側には製品の設定ボタンがあります。
- [ページのガイダンス] - この領域には、このページのタスクを完了してプライベートオファーを受け入れるためのガイダンスがあります。
- [利用規約] - このセクションには、次の情報が含まれます。
 - 左上には、プライベートオファーの名前と、これがプライベートオファーであることを示すラベルがあります。
 - プライベートオファー名セクションの下には、契約受諾の通知があります。[契約に同意する] ボタンを使用すると、プライベートオファーを承諾できます。
 - 通知セクションの下には、契約期間、契約に含まれるコンポーネント、交渉済みのインスタンス料金に関するセクションの他、EULA を確認またはダウンロードする別の機会が表示されます。
- [契約期間] - このセクションには、契約日数と契約終了日が表示されます。
- [その他のオファー情報] - 右側には、契約金額の合計、次回の支払い予定、現在の条件、その他のプライベートオファーやパブリックオファーのサムネイルイメージが表示されます。

Note

インスタンスタイプ または にアクセスできない場合は AWS リージョン、プライベート オファーが送信された時点でサポートされていない可能性があります。さらなる情報については、契約の詳細を確認してください。インスタンスまたはリージョンにアクセスするには、販売者に連絡して、更新されたプライベート オファーをリクエストします。新しい オファーを承諾すると、新しく追加されたインスタンスまたはリージョンにアクセスできます。

Vendor name and product		Continue to Configuration button
Page guidance		Additional offer information
Terms and Conditions		Contract pricing
Private offer name	Private Offer	Scheduled payments
Notification for accepting the private offer contract		Accept Contract button
Contract duration		Other Available Offers
Components included in the contract		
Additional usage costs		
Terms duration		

Flexible Payment Schedule で年間 AMI プライベート オファーをサブスクライブする

AMI のプライベート オファーをサブスクライブするには、AWS Marketplace ウェブサイトでプライベート オファーを受け入れる必要があります。AWS Marketplace コンソールまたは Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) コンソールでプライベート オファーを受け入れることはでき

ません。販売者が Flexible Payment Schedule を設定したプライベートオファーを作成した場合、プライベートオファーに記載されている金額で、支払いスケジュールの日付に従って請求されます。Flexible Payment Schedule で AMI プライベートオファーを受け入れるには、次の手順に従ってください。

Flexible Payment Schedule で AMI プライベートオファーを受け入れるには

1. 「[プライベートオファーの表示とサブスクライブ](#)」の手順を実行します。
2. 適切なプライベートオファーを表示していることを確認します。ベンダーは、その製品に対して複数のプライベートオファーを作成できます。その他のプライベートオファーは [ご利用いただけるその他のオファー] セクションに表示されます。
3. オファーの有効期限と料金設定情報が、プライベートオファーについて交渉したものであることを確認してください。そうでない場合は、適切なプライベートオファーを表示していることを確認します。
4. EULA をダウンロードして、それがプライベートオファーについて交渉したものであることを確認してください。
5. [契約期間] セクションで、プライベートオファーの条件が交渉したものであることを確認します。
6. プライベートオファーの詳細を確認したら、[利用規約] セクションで [条件に同意する] を選択します。
7. 条件を確認し、同意する場合は [確認] を選択します。

 Important

システムが契約のリクエストを処理している間は、ブラウザを更新しないでください。

AMI を設定する準備が整ったら、[Continue to Configuration (設定を続行)] を選択します。製品を使用するたびにサブスクリプションプロセスを完了する必要があります。

Flexible Payment Schedule なしで年間 AMI プライベートオファーをサブスクライブする

AMI のプライベートオファーをサブスクライブするには、AWS Marketplace ウェブサイトでプライベートオファーを受け入れる必要があります。AWS Marketplace コンソールまたは Amazon EC2 コンソールでは承諾できません。販売者が Flexible Payment Schedule なしでプライベートオファーを

作成した場合、承諾時にプライベートオファーに設定されている料金とオプションに従って契約を設定できます。Flexible Payment Schedule なしで AMI プライベートオファーを受け入れるには、次の手順に従ってください。

Flexible Payment Schedule なしで AMI プライベートオファーを受け入れるには

1. 適切なプライベートオファーを表示していることを確認します。ベンダーは、その製品に対して複数のプライベートオファーを作成できます。追加のプライベートオファーが追加のプライベートオファーペインに表示されます。承諾するオファーが、[このオファーを表示しています] と表示されていることを確認します。

 Note

多くの場合、支払いアカウントは製品を使用するアカウントではありません。支払いアカウントを使用してオファーを承認する場合は、ワンクリックオプションを選択するのではなく、手動で製品を起動することが推奨されます。

2. オファーの有効期限と料金設定情報が、プライベートオファーについて交渉したものであることを確認してください。そうでない場合は、適切なプライベートオファーを表示していることを確認します。
3. EULA をダウンロードして、それがプライベートオファーについて交渉したものであることを確認してください。
4. 契約条件ペインで、プライベートオファーの条件が交渉したものであることを確認します。
5. オファーの詳細がプライベートオファーについて交渉した内容であることを確認し、[Accept Terms (条件に同意する)] を選択します。そうでない場合は、適切なプライベートオファーを表示していることを確認します。
6. [このソフトウェアをサブスクライブする] の [インスタンスタイプ] を、利用可能なインスタンスタイプのリストから選択します。[数量] で、ライセンスの数を選択します。
7. 選択を確認します。選択内容を確認して問題がなければ、[契約の作成] を選択し、次に [確認] を選択します。

AMI を設定する準備が整ったら、[Continue to Configuration (設定を続行)] を選択します。製品を使用するたびにサブスクリプションプロセスを完了する必要があります。

でのプライベートオファーの変更またはサブスクリプション解除

AWS Marketplace

標準サブスクリプションからプライベートオファーに更新したり、AWS Marketplaceの既存の特定のプライベートオファーを変更したりすることもできます。プロセスは、定められた契約によって異なります。

多くのサブスクリプションでは、パブリックプライシングからプライベートオファーに移行する際に、ISV またはチャネルパートナーとオファーについて交渉します。プライベートオファーを承諾すると、関連する既存の1つまたは複数のサブスクリプションが自動的にプライベートオファー料金モデルに移行します。これにはユーザー側のアクションは一切必要ありません。以下のガイダンスを使用して、プライベートオファーの料金設定を受けるシナリオとステップを確認してください。

パブリックオファーからプライベートオファーへの料金設定の変更

プライベートオファーを承諾すると、そのオファーを承諾したユーザーに対してそれ以上のアクションは必要ありません。これらは、プライベートオファーで定義されている料金設定、契約条件に切り替えられます。プライベートオファーの料金、契約条件に切り替えるには、製品を使用している連結済みの各ユーザーがプライベートオファーを承諾する必要があります。製品の使用を開始するユーザーも、プライベートオファーで定義されている料金設定、および契約条件を取得するために、プライベートオファーを受け入れる必要があります。

SaaS 契約の変更 - アップグレードと更新

このセクションは、Software as a Service (SaaS) 契約と従量課金制の製品の SaaS 契約に適用されます。以前のプライベートオファーで有効な契約があり、同じ製品の新しいプライベートオファーを受け入れる場合、販売者は既存の契約をアップグレードまたは更新して、条件、価格、期間を変更したり、既存の契約を終了前に更新したりすることができます。これにより、既存の契約を先にキャンセルしなくても、新しいプライベートオファーを受け入れることができます。

Note

将来の日付のプライベートオファーは早期更新として表示されます。詳細については、「[the section called “将来の日付の契約とプライベートオファー”](#)」を参照してください。

アップグレードまたは更新を受け入れるには、請求書の発行条件を満たしている必要があります。現在、請求書発行の条件を満たしていない場合は、[AWS カスタマーサービス](#)にチケットを送信して、支払い方法を請求書発行に変更してください。

請求書発行に切り替えない場合は、次のいずれかのアクションを取ることができます。

- 製品ベンダーおよび AWS Marketplace カスタマーサポートチームと協力して、その製品の新しいプライベートオファーを受け入れる前に現在の契約をキャンセルします。
- 別の AWS アカウントでオファーを受け入れます。

SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更する

SaaS サブスクリプションから SaaS 契約に変更するには、まず SaaS サブスクリプションを解除する必要があります。その後、SaaS 契約のプライベートオファーを承諾します。既存の SaaS サブスクリプションを表示するには、AWS Marketplace コンソールの右上隅にある Marketplace ソフトウェアを選択します。

AMI 契約から新しい契約に変更する

以前のプライベートオファーから Amazon マシンイメージ (AMI) 契約を結んでいて、同じ製品に対して新しいプライベートオファーを受け入れる場合は、次のいずれかを実行する必要があります。

- 新しい AMI 契約を受け入れる前に、現在の AMI 契約が終了するのを待つ。
- 製品ベンダーと AWS Marketplace カスタマーサポートチームと協力して、現在の契約を終了します。
- 契約しているもの AWS アカウント とは異なる を使用してプライベートオファーを受け入れます。

時間単位の AMI から年単位の AMI に変更する

時間単位の AMI サブスクリプションから年単位の AMI サブスクリプションに移行すると、そのサブスクリプションはバウチャーシステムと同様に機能します。時間単位の各 AMI の使用量は、年単位の AMI サブスクリプションの 1 単位で相殺されます。年間サブスクリプションを購入すると、関連付けられているすべてのプライベートオファーを介して製品にサブスクライブしているアカウントは、自動的にプライベートオファーで交渉された料金に変更されます。プライベートオファーが設定された後にサブスクリプションを開始する連結済みのアカウントは、サブスクライブ時にプライベートオファーをサブスクライブする必要があります。

Note

古いオファーの年間ライセンスは、新しいオファーの条項に同意するとすぐに無効化されます。ISV と協力して、無効化されたライセンスの補償と新しいオファーを続行する方法について検討します。

年単位の AMI から時間単位の AMI に変更する

年単位のサブスクリプションの有効期限が終了すると、製品にサブスクライブしている連結済みアカウントは自動的に時間単位の AMI 料金に切り替わります。年単位のサブスクリプションが設定されている場合は、連結済みアカウントはそのサブスクリプションをキャンセルせずにその製品の時間単位のサブスクリプションに切り替えることはできません。

での将来の日付の契約とプライベートオファー AWS Marketplace

で将来の日付の契約 (FDA) を使用すると AWS Marketplace、将来の日付で製品の使用が開始される製品をサブスクライブできます。支払い時期や使用時期とは独立して製品を購入する時期を管理できます。

FDA は、AWS Marketplace で購入者が以下の取引について独立して以下のアクションを実行できるようサポートします。

- オファーを受け入れ、製品を調達するか、取引を予約する。
- 製品の使用 (ライセンス/権利のアクティベーション) を開始する。
- 購入代金を支払う (請求書の生成)。

FDA は、Software as a Service (SaaS) 製品契約や、Flexible Payment Schedule の有無にかかわらず、使用料金付きの契約 (CCP) を作成するプライベートオファーでサポートされています。

将来の日付の契約を使用する場合は、以下の日付に注意します。

契約署名日

オファーを承諾した日付と、契約が作成された日付。この日付は契約 ID が作成された日です。

契約開始日

製品の使用が開始される日付。これは将来の日付または将来の開始日です。これはライセンス/権利が有効になる日付です。

契約終了日

契約が終了する日付。契約とライセンス/権利はこの日付で失効します。

Note

エンドユーザーライセンス契約、注文フォーム、またはお客様と販売者の間のその他の契約で指定された契約期間は、AWS Marketplace 請求書で指定された期間と競合するかどうかを制御します。

将来の日付の契約の作成

SaaS 契約や、Flexible Payment Schedule の有無にかかわらず、使用料金付き契約の場合、販売者はプライベートオファーの作成の一環として契約開始日を設定します。購入者は販売者と協力して、開始日が要件を満たしていることを確認する必要があります。

将来の日付の契約を作成するには、次の手順に従います。将来の日付の契約は、AWS Marketplace コンソールのサブスクリプションの管理ページで確認できます。

将来の日付の契約を作成するには

1. 「[プライベートオファーの表示とサブスクリブ](#)」の手順を実行します。
2. オファーの詳細ペインで、正しいプライベートオファーを選択したことで、契約開始日が正しいことを確認します。将来の日付のオファーは、[オファー] メニューで [早期更新] とマークされます。

Note

SaaS 製品の場合は、契約開始日に、必ず ISV のアカウント設定を完了する必要があります。契約開始日より前にこのステップを完了することはできません。詳細については、「[the section called “SaaS プライベートオファーへのサブスクリブ”](#)」を参照してください

将来の日付の契約での Flexible Payment Scheduler の使用

Flexible Payment Scheduler は、将来の日付の契約に使用できます。購入代金の支払い時期は、契約署名日と契約終了日の間の時期を選択して設定できます。このアプローチには、契約開始日の前後の支払いが含まれます。

プライベートオファーを作成した記録上の販売者が支払い日と金額を選択します。詳細については、「[Flexible Payment Scheduler](#)」を参照してください。

将来の日付の契約の修正

契約開始日の後に、FDA で特定のディメンションの購入数量を増やすことができます。このオプションは、契約に Flexible Payment Schedule がない場合に可能です。詳細については、「[Flexible Payment Scheduler](#)」を参照してください。

修正が完了すると、契約開始日に日割り計算された金額が請求されます。開始日が過去の場合は、すぐに請求されます。

将来の日付の契約の通知を受け取る

将来の日付の契約に対して実行された次のアクションについて、指定されたルートアカウントに送信される電子メール通知が届きます。

- オファーの承認/契約の作成 (契約署名日)
- ライセンスまたは権利のアクティベーション時 (契約開始日)
- 30 日後、60 日後、または 90 日後に失効する契約に関する事前のリマインダー
- 契約失効日 (契約終了日)
- 契約の修正または置き換え時

AWS Marketplace で製品サブスクリプションを共有する

AWS Marketplace で製品をサブスクライブするときは、それらの製品を使用するためのライセンスを付与する契約が作成されます。AWS アカウント が組織のメンバーである場合は、Amazon マシンイメージ (AMI)、コンテナ、機械学習、データ製品のライセンスをその組織内の他のアカウントと共有できます。AWS Marketplace でライセンスサポートを設定し、それを AWS License Manager 内部から共有する必要があります。

Note

AWS Organizations については[AWS Organizations ユーザーガイド](#)を参照してください。AWS License Manager での組織とのライセンスの共有については、「AWS License Manager ユーザーガイド」の「[付与されたライセンス](#)」を参照してください。

次の動画では、ライセンス共有について簡単に紹介します。

[AWS Marketplace ライセンス資格を配信する \(3:56\)](#)

ライセンスの表示

AWS Marketplace は、AMI、コンテナ、機械学習、Software as a Service (SaaS)、および購入したデータ製品のライセンスを自動的に作成します。それらのライセンスを組織内の他のアカウントと共有できます。

Note

ライセンスは SaaS 製品用に作成されますが、SaaS ライセンスの共有は現在サポートされていません。

を使用してライセンスを管理および共有します AWS License Manager。ただし、AWS Marketplace を使用して、内部から購入した製品のライセンスを表示できます AWS Marketplace。

でサブスクライブした製品のライセンスを表示するには AWS Marketplace

1. [AWS Marketplace](#) でサインインして [サブスクリプションを管理する] を選択します。

Note

現在のサブスクリプションのみがサブスクリプションの管理ページ AWS アカウントに表示されます。アカウントが [AWS Organization](#) の管理アカウントである場合、メンバーアカウントのサブスクリプションは表示されません。

2. すべてのライセンスを表示することも、特定のサブスクリプションのライセンスを表示することもできます。
 - すべてのライセンスを表示するには
 - アクションメニューから、ライセンスの表示を選択して、License Manager コンソールですべての AWS Marketplace マネージドライセンスを表示します。
 - 単一のサブスクリプションのライセンスを表示するには
 - a. 表示する製品のカードを選択すると、製品の詳細ページに移動します。
 - b. [アクション] メニューから [ライセンスの表示] を選択し、その製品のライセンスを License Manager コンソールに表示します。

Note

組織内のすべてのアカウントから集計された、付与されたライセンスを表示することもできます。詳細については、[AWS License Manager ユーザーガイド](#)の付与されたライセンスを参照してください。

ライセンスの共有

共有できるライセンスがあるのは、AMI、コンテナ、機械学習、データ製品だけです。

AWS Marketplace のサブスクリプションには、製品詳細に [アクセスレベル] が表示されます。

- [契約] レベルのある製品には、組織内の他のアカウントで使用したり共有したりできるライセンスがあります。
- [使用権限] レベルのある製品は、アカウントと共有されているライセンスです。これらの製品を使用することはできますが、共有することはできません。

AWS Marketplace では、ライセンスの使用を AWS Organizations、AWS アカウント または AWS License Manager を使用する組織単位と直接共有する許可をサポートします。許可のアクティブ化プロセスには、AWS Marketplace から提供された同じ製品に対して有効化された許可に代わるオプションが追加されました。詳細については、[AWS License Manager ユーザーガイド](#)の付与されたライセンスを参照してください。

Note

特定の AWS リージョン に限定されている製品の場合、ライセンスを共有するアカウントは、そのアカウントが許可されたリージョン内にある場合にのみライセンスを有効にできません。

ライセンス共有の前提条件

AWS Marketplace でライセンスを共有する前に、まず組織のライセンス共有をセットアップする必要があります。以下のタスクを完了して、組織のライセンス共有をセットアップしてください。

- ユーザーに代わってライセンスを管理する許可を AWS Marketplace に付与して、ユーザーがライセンスを購入または共有するときに関連するライセンス供与を作成できるようにします。詳細については、「[の使用権限を共有するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace](#)」を参照してください。
- 初回使用のために AWS License Manager をセットアップします。詳細については、「AWS License Manager ユーザーガイド」の「[AWS License Manager の使用開始](#)」を参照してください。

ライセンスの使用状況の追跡

AMI 製品の使用量ベースのライセンスメトリクスは、それぞれのライセンスの [使用状況ダッシュボード] タブを選択することにより AWS License Manager を使用して追跡できます。

License Manager を使用してライセンスの使用状況を追跡する方法については、「AWS License Manager ユーザーガイド」の「[付与されたライセンス](#)」を参照してください。

のコスト管理

AWS Marketplace には、コスト管理に役立つ以下のツールが用意されています。

- 調達インサイトダッシュボードには、組織 AWS アカウント 内のすべての のコスト分析と契約データが表示されます。
- コスト配分タグは、AWS Marketplace リソースの使用状況を特定して追跡するのに役立ちます AWS Cost Explorer。

以下のトピックでは、ツールの使用方法について説明します。

トピック

- [調達インサイトを使用してコストレポートを表示する](#)
- [コスト配分タグを使用する](#)

調達インサイトを使用してコストレポートを表示する

調達インサイトダッシュボードを使用して、組織内のすべての AWS アカウントのコスト分析と契約データを表示します。

例えば、ダッシュボードを使用して以下を実行できます。

- 各 AWS Marketplace 購入のコストの詳細を表示する
- ベンダーや製品などのディメンション別にデータを分析
- 時間の経過に伴うコスト傾向の追跡
- 今後の更新を 30 日や 60 日などの日付範囲別に表示
- サブスクライバーアカウントや製品タイトルなど、複数のカテゴリ別にデータを表示
- 監査のために契約の実行を経時的に追跡
- 同じ製品の複数のインスタンスを識別

Note

- フル機能の組織である必要があります。詳細については、[AWS 「Organizations を使用して組織のすべての機能を有効にする」](#)を参照してください。

- 新規 AWS Marketplace 購入のデータがダッシュボードに表示されるまでに 24 時間以上かかる場合があります。
- 委任管理者を作成するには、AWS Organizations 管理アカウントに属している必要があります。

管理アカウントの詳細については、[「ユーザーガイド」の「チュートリアル: 組織の作成と設定」](#)と[「で管理アカウントを管理する AWS Organizations」](#)を参照してください。
AWS Organizations

次のトピックでは、ダッシュボードを有効にして使用方法と、ダッシュボードをプログラムで作成する方法について説明します。

トピック

- [調達インサイトダッシュボードの有効化](#)
- [ダッシュボードの使用](#)
- [委任管理者を使用する](#)
- [ダッシュボードへのプログラムによるアクセス](#)

調達インサイトダッシュボードの有効化

以下のセクションでは、[調達インサイト]ダッシュボードを有効にするための一般的な前提条件を満たす方法と、それを有効にする方法について説明します。

このセクションのいずれかの部分についてサポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。

トピック

- [ダッシュボードの前提条件](#)
- [ダッシュボードを有効化する](#)
- [管理者の場合: ポリシー例](#)

ダッシュボードの前提条件

[調達インサイト]ダッシュボードを設定して有効にするには、次の前提条件が必要です。

- 組織のすべての機能を有効化します。詳細については、[AWS 「Organizations ユーザーガイド」の「Organizations で組織のすべての機能を有効にするAWS」](#)を参照してください。
- サービスにリンクされたロールを作成し、AWS Marketplace 設定で信頼されたアクセスを有効にします。
- ダッシュボードを有効にするには、次の有効化アクセス許可が必要です。
 - iam:CreateServiceLinkedRole
 - organizations:DescribeOrganization
 - organizations:EnableAWSServiceAccess
 - organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization
 - organizations:DeregisterDelegatedAdministrator (委任された管理者を管理するために必要)
 - organizations:ListDelegatedAdministrators (委任された管理者を管理するために必要)
 - organizations:RegisterDelegatedAdministrator (委任された管理者を管理するために必要)
- ダッシュボードを表示して操作するには、次のアクセス許可が必要です。
 - aws-marketplace:GetBuyerDashboard
 - organizations:DescribeOrganization

Note

これらのアクセス許可の取得についてサポートが必要な場合は、AWS 管理者にお問い合わせください。

ダッシュボードを有効化する

ダッシュボードをアクティブ化するには、すべての機能を有効にして AWS 組織の管理アカウントにサインインする必要があります。IAM ユーザーまたはロールには、[Dashboard の前提条件](#)で指定されたアクセス許可が必要です。

Important

ユーザーまたは AWS 管理者には、フル機能の組織が必要です。また、次の手順を完了するには、AWS Organizations 管理アカウントに属する必要があります。詳細について

は、[「ユーザーガイド」の「チュートリアル: 組織の作成と設定」](#)と[「による管理アカウントの管理 AWS Organizations」](#)を参照してください。AWS Organizations

ダッシュボードを有効化する

1. AWS Marketplace コンソールを <https://console.aws.amazon.com/marketplace.com> で開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [AWS Marketplace 調達インサイト] で、[信頼できるアクセスを有効にする] を選択します。
4. [組織全体で信頼できるアクセスを有効にする] および [組織用のサービスにリンクされたロールを作成する] の両方のチェックボックスをオンにします。
5. [統合を作成する] を選択します。

統合を作成すると、システムは以下のサービスにリンクされたロールと AWS 管理ポリシーを作成します。

- [AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#) (このガイドの後半)
- [AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#) (AWS マネージドポリシーリファレンス)

Important

AWS コマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してダッシュボードをアクティブにする場合は、信頼されたアクセスを有効にする前に、上記のサービスのようなロールを作成する必要があります。作成しないと、有効化プロセスは失敗します。

管理者の場合: ポリシー例

このポリシー例には、このセクションの [ダッシュボードの前提条件](#) で前述されているアクセス許可が含まれます。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [{
    "Sid": "CreateServiceLinkedRoleForProcurementInsights",
```

```
    "Effect": "Allow",
    "Action": "iam:CreateServiceLinkedRole",
    "Resource": "arn:aws:iam::*:role/aws-service-role/procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com/AWSServiceRoleForProcurementInsights*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
        "iam:AWSServiceName": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
      }
    }
  },
  {
    "Sid": "EnableAWSServiceAccessForProcurementInsights",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:EnableAWSServiceAccess"
    ],
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
        "organizations:ServicePrincipal": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
      }
    }
  },
  {
    "Sid": "ManageDelegatedAdministrators",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:ListDelegatedAdministrators",
      "organizations:DeregisterDelegatedAdministrator",
      "organizations:RegisterDelegatedAdministrator"
    ],
    "Resource": "*",
    "Condition": {
      "StringLike": {
        "organizations:ServicePrincipal": "procurement-
insights.marketplace.amazonaws.com"
      }
    }
  },
  {
    "Sid": "GetBuyerDashboardStatement",
    "Effect": "Allow",
```

```
    "Action": "aws-marketplace:GetBuyerDashboard",
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "ViewOrganizationDetails",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:DescribeOrganization",
      "organizations:ListAWSServiceAccessForOrganization"
    ],
    "Resource": "*"
  }
]
```

ポリシーの作成の詳細については、IAM ユーザーガイドの[AWS 「Identity and Access Management」](#)の「[ポリシーとアクセス許可](#)」を参照してください。

ダッシュボードの使用

以下のセクションでは、[AWS Marketplace 調達インサイト]ダッシュボードの使用方法を説明します。

Note

組織内のすべてのアカウントのデータを表示するには、AWS Organizations 管理アカウントまたは委任された管理者アカウントに属している必要があります。
管理アカウントの詳細については、上記の[概要のリンク](#)を参照してください。委任された管理者の詳細については、このセクションの後半の「[委任管理者を使用する](#)」を参照してください。

トピック

- [ダッシュボードを起動する](#)
- [ダッシュボードを使用するためのヒント](#)

ダッシュボードを起動する

AWS Marketplace コンソールで[調達インサイト]ダッシュボードを使用するか、プログラムで呼び出すことができます。コンソールでダッシュボードを使用する場合、[コスト分析]と[契約]の2つ

のタブが表示されます。次の手順では、コンソールでダッシュボードを開く方法について説明します。

ダッシュボードを起動する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[調達インサイト] を選択します。
3. 次のいずれかを実行します。
 - 製品と販売者に費やした金額を表示する [費用分析] タブのチャートやグラフを使用します。
 - [契約] タブのチャートやグラフを使用して、組織のすべての AWS アカウントにわたる AWS Marketplace 契約の全体像を把握します。

Important

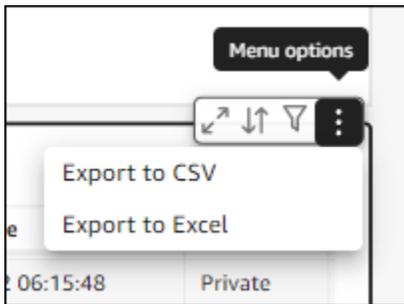
タブの [期限切れ契約] セクションには、ダッシュボードが使用できるようになった後に期限が切れた契約のデータのみが表示されます。

Amazon QuickSight ダッシュボードの使用の詳細については、「Amazon QuickSight ユーザーガイド」の「[Amazon QuickSight ダッシュボードとの通信](#)」を参照してください。

ダッシュボードを使用するためのヒント

以下のヒントは、[調達インサイト] ダッシュボードの使用に役立ちます。

- ダッシュボードは Amazon QuickSight を使用してデータを表示します。システムは、データに最も論理的に適合するグラフやその他の表示要素を自動的に選択します。Amazon QuickSight ダッシュボードの使用の詳細については、「Amazon QuickSight ユーザーガイド」の「[Amazon QuickSight ダッシュボードとの通信](#)」を参照してください。
- データをダウンロードすることができます。いずれかのタブで、[ソースデータ] テーブルまで下にスクロールします。テーブルの右上隅にカーソルを合わせたら、縦の省略記号を選択してデータをエクスポートします。CSV ファイルまたは Microsoft Excel でエクスポートできます。



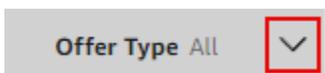
- どちらのタブでも同じデータフィルターが使用されます。特定のタブのフィルターは、そのタブにのみ適用されますが、タブのすべてのチャートとグラフに適用されます。次のテーブルは、フィルターとデフォルト値を一覧しています。

フィルター	デフォルト値
契約終了日	過去 12 か月間と現在の比較
従量制料金契約を含める	はい、従量制料金を含めます
オファーのタイプ	すべて

Note

[契約] タブの [期限切れの契約] セクションでは、ダッシュボードのリリース日までさかのぼった値のみが表示され、12 か月分のデータは表示されません。

- フィルターのデフォルト値を変更するには、[コントロール] バーの右側にある矢印を選択します。



Amazon QuickSight フィルターの使用の詳細については、「Amazon QuickSight ユーザーガイド」の「[ダッシュボードデータのフィルターを使用する](#)」および「[セッション中にデータをフィルター処理する](#)」を参照してください。

委任管理者を使用する

以下のセクションのステップでは、委任管理者を登録および登録解除する方法について説明します。委任管理者は、組織内のすべてのデータを表示できます。

Important

以下の手順を実行するには、ユーザーまたは AWS 管理者が組織のすべての機能を有効にし、AWS Organizations 管理アカウントに属している必要があります。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[チュートリアル: 組織を作成して構成する](#)」と「[AWS Organizations を使用して管理アカウントを管理する](#)」を参照してください。

トピック

- [委任管理者を登録する](#)
- [委任管理者の登録を解除する](#)

委任管理者を登録する

委任管理者を作成するには、アカウント ID を登録し、そのアカウント内のすべてのユーザーが、契約とコストデータの統合されたビューを取得します。

管理者を登録する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [委任管理者] で、[登録] を選択します。

[委任管理者を登録] ページが表示されます。

4. [アカウント ID] ボックスに対象のアカウント ID を入力します。
5. [登録] を選択します。

委任管理者の登録を解除する

次の手順では、アカウントの登録を解除し、そのアカウントのすべてのユーザーがデータの全体像を表示できないようにする方法について説明します。

管理者の登録を解除する

1. <https://console.aws.amazon.com/marketplace> で AWS Marketplace コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [設定] を選択します。
3. [委任管理者] で、登録解除するアカウントの横にあるラジオボタンを選択します。
4. [Deregister] (登録解除) を選択します。
5. [委任管理者の登録を解除する] ダイアログボックスで、[登録を解除] を選択します。

ダッシュボードへのプログラムによるアクセス

プログラムで [調達インサイト] ダッシュボードを作成するには、[GetBuyerDashboard](#) API を呼び出します。

Important

ダッシュボードへの信頼されたアクセスを有効にする前に、[ダッシュボードを有効化する](#) で一覧されているサービスにリンクされたロールを作成する必要があります。作成しないと、有効化プロセスは失敗します。

コスト配分タグを使用する

AWS Marketplace は、購入するソフトウェア製品のコスト配分タグ付けをサポートします。アクティブ化されたコスト配分タグを使用して、AWS コストと使用状況レポート AWS Cost Explorer、AWS 予算、またはその他のクラウドコスト分析ツールを使用して、AWS Marketplace リソースの使用状況を特定および追跡できます。

AWS Marketplace コストの分類と追跡を容易にするために、コスト配分タグを使用してコスト配分レポートでリソースコストを整理できます。

のコスト配分タグは、次のソースから AWS Marketplace 取得されます。

- Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに関連付けられる Amazon マシンイメージ (AMI) ソフトウェア製品のコストは、同じタグを継承します。これらのタグは、アカウントの AWS Billing and Cost Management コンソールでコスト配分タグとしてアクティブ化できます。AMI 製品でのコスト配分タグの使用の詳細については、「[での AMI 製品のコスト配分タグ付け AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- AMI、コンテナ、Software as a Service (SaaS) 製品には、ベンダーが提供するタグが付いている場合があります。例えば、ユーザー数で請求する SaaS 製品では、タグを使用して部門ごとの使用状況を識別できます。これらのタグの使用の詳細については、「[ベンダー計測タグ](#)」を参照してください。

コスト配分タグは、タグが Billing and Cost Management コンソールでアクティブ化された時点からのコストのみを追跡します。アカウントの請求情報とコスト管理コンソールにアクセスできるのは、AWS アカウント 所有者、AWS Organizations 管理アカウントの所有者、および適切なアクセス許可を持つユーザーのみです。コスト配分タグには追加料金は発生せず、AWS Marketplace ソフトウェア製品の機能には影響しません。

EMEA 対象販売者からのサブスクリプションの場合、コストと使用状況レポートには AWS、契約当事者 (Amazon Web Services EMEA SARL) の列が含まれます。

ベンダー計測タグ

AWS Marketplace ベンダー計測を使用する 製品 (AMI、コンテナ、SaaS 製品を含む) には、ソフトウェアベンダーが顧客の追加サービスとして提供するタグがある場合があります。これらのタグは、ベンダーが提供するメトリクス全体での AWS Marketplace リソース使用量を理解するのに役立つコスト配分タグです。これらのタグを使用して AWS Cost Explorer Service、[AWS Budgets](#)、またはその他のクラウドコスト分析ツールを通じて AWS Cost and Usage Report AWS Budgets リソースの使用状況を特定および追跡 AWS Marketplace できます。

タグは、AWS Marketplace 製品の使用を開始し、ベンダーが計測レコードを送信すると AWS Billing、コンソールに表示されます AWS Marketplace。前払いのコミットメントに基づいて製品を使用する場合は、その製品の使用量の計測を受け取ることはできません。そのため、AWS Billing コンソールにはベンダー計測タグがありません。リンクされたアカウントを管理する場合は、タグを表示およびアクティブ化するための `ModifyBilling` および `AccessViewBilling` 許可が必要です AWS Billing。詳細については、[AWS 「請求ユーザーガイド」の「請求アクションポリシー」](#)を参照してください。AWS

Note

ベンダー計測タグを有効にすると、コストと使用状況レポートのサイズが大きくなる場合があります。コストと使用状況レポートは Amazon S3 に保存されます。そのため、Amazon S3 のコストも増加する可能性があります。

すべての対象 AWS Marketplace 製品のベンダー計測タグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Billing コンソール](#)を開きます。次に、左側のナビゲーションペインで、[コスト配分タグ] を選択します。
2. [AWS生成のコスト配分タグ] タブを選択します。
3. `aws:marketplace:isv:` を検索して、ベンダー計測タグによるタグ付けをサポートするすべての製品のタグを見つけます。
4. すべてのタグのチェックボックスをオンにして、[有効化] を選択します。ベンダー計測タグは、24 時間以内に有効になります。

関連トピック

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[コスト配分タグの使用](#)」
- 「AWS Billing ユーザーガイド」の「[AWS 生成コスト配分タグの有効化](#)」

AWS Marketplace イベントの購入者通知

AWS Marketplace は、E メール、Amazon EventBridge イベント、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックを通じてタイムリーな通知を提供します。

EventBridge と Amazon SNS の詳細については、以下のトピックを参照してください。

- 「EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge の使用を開始する](#)」。
- 「[Amazon Simple Notification Service トピックの作成方法とメッセージの公開方法](#)」については、「Amazon SNS デベロッパーガイド」を参照。

このセクションのトピック

- [AWS Marketplace イベントの E メール通知](#)
- [AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知](#)

AWS Marketplace イベントの E メール通知

の購入者は AWS Marketplace、次のイベントが発生したときに E メール通知を受け取ります。

- オファーを承諾します。
- 販売者は、以前に承諾したプライベートオファー関連の新しいプライベートオファーを公開します。
- 販売者は、以前に承諾されたオファーの更新を公開します。

Note

通知は、購入者の AWS アカウント ID に関連付けられた E メールアドレスに送信されます。E AWS Marketplace メールが見つからない場合は、スパムフォルダを確認するか、E メール設定を調整します。からの E メール通知 AWS Marketplace は から送信されます `no-reply@marketplace.aws`。通知メールは、Google や Yahoo などのプロバイダーによってフィルタリングされる場合があります。手順については、「[正当なメールが迷惑メールに振り分けられないようにする \(Google\)](#)」、または「[Block and unblock email addresses in Yahoo Mail](#)」を参照してください。

AWS Marketplace イベントの Amazon EventBridge 通知

AWS Marketplace は、以前は Amazon CloudWatch Events と呼ばれていた Amazon EventBridge と統合されています。EventBridge は、アプリケーションをさまざまなソースからのデータに接続するために使用できるイベントバスサービスです。詳細については、「[Amazon EventBridge ユーザーガイド](#)」を参照してください。

AWS Marketplace は、次のタイプの EventBridge イベントを送信します。

- [Discovery API イベント](#) – 購入者は、販売者がオファーを作成して購入可能にする AWS Marketplace たびに、 からイベントを受け取ります。イベントには、製品 ID、有効期限、製品の詳細、販売者名などの詳細が含まれます。
- [プライベートマーケットプレイスイベント](#) – プライベートマーケットプレイス管理者と購入者は、購入者が製品リクエストを作成する AWS Marketplace たびに、 およびリクエストが承認または拒否されるたびに、 からイベントを受け取ります。イベントには、製品詳細や販売者名などの詳細が含まれます。

Note

EventBridge ルールの作成の詳細については、「Amazon EventBridge ユーザーガイド」の「[Amazon EventBridge ルール](#)」を参照してください。

AWS Marketplace Discovery API Amazon EventBridge イベント

購入者は、販売者がオファーを作成して購入可能にするたびに、AWS Marketplace からイベントを受け取ります。イベントには、販売者 ID、有効期限、製品の詳細、販売者名などの詳細が含まれます。

このトピックでは、次の表に示す各イベントに関して詳述します。

販売者によるアクション	購入者が受信したイベント	詳細情報
オファーを作成して購入できるようにします。	Listing Available	新規出品のイベント

新規出品のイベント

販売者がオファーを作成して購入できるようになると、購入者は Listing Available 詳細タイプのイベントを受け取ります。

次の例は、Listing Available イベントのイベント本文の例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Listing Available",
  "source": "aws.discovery-marketplace",
  "account": "123456789012",
  "time": "2023-08-26T00:00:00Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "catalog": "AWSMarketplace",
    "offer": {
      "id": "offer-1234567890123",
      "expirationDate": "2025-08-26T00:00:00Z"
    },
    "product": {
      "id": "bbbbaaaa-abcd-1111-abcd-666666666666",
      "title": "Product Title"
    },
    "sellerOfRecord": {
      "name": "Seller Name"
    }
  }
}
```

AWS Marketplace Private Marketplace EventBridge イベント

プライベートマーケットプレイスの管理者と購入者は、購入者が製品のリクエストを作成するたびに AWS Marketplace からイベントを受信します。また、リクエストが承認または拒否された際もイベントを受信します。イベントには、製品 ID や販売者名などの詳細が含まれます。

このセクションのトピックでは、次のテーブルに一覧されるイベントについて詳述します。

アクション	受信したイベント	詳細情報
購入者がプライベートマーケットプレイスの製品をリクエストする	製品リクエストが作成される	新製品リクエストのイベント
管理者が製品を承認する	製品リクエストが承認される	製品リクエスト承認イベント
管理者が製品を拒否するか、30 日後にシステムが自動拒否する	製品リクエストが拒否される	製品リクエストの拒否イベント

新製品リクエストのイベント

購入者がプライベートマーケットプレイスカタログの製品をリクエストすると、購入者とプライベートマーケットプレイスの管理者は Product Request Created 詳細タイプのイベントを受信します。

次の例は、Product Request Created イベントのイベント本文の例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Created",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "expirationDate": "2022-11-01T13:12:22Z",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
    }
  }
}
```

```
    "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
  },
  "manufacturer": {
    "name": "Test Vendor"
  },
  "experienceId": "exp-12345",
  "catalog": "AWSMarketplace",
  "requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"
}
}
```

製品リクエスト承認イベント

プライベートマーケットプレイス管理者が購入者のプライベートマーケットプレイスカタログの製品を承認すると、購入者とプライベートマーケットプレイス管理者は Product Request Approved 詳細タイプのイベントを受信します。

次は、Product Request Approved イベントのイベント本文例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Approved",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "approvedDate": "2022-11-05T13:12:22Z",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
      "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
    },
    "manufacturer": {
      "name": "Test Vendor"
    }
  }
}
```

```
  },
  "experienceId": "exp-12345",
  "catalog": "AWSMarketplace",
  "requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"
}
}
```

製品リクエストの拒否イベント

プライベートマーケットプレイス管理者が製品の追加を拒否した場合、または 30 日後にシステムがリクエストを自動的に拒否した場合、購入者とプライベートマーケットプレイス管理者 (複数可) は Product Request Declined 詳細タイプのイベントを受信します。

次は、Product Request Declined イベントのイベント本文例です。

```
{
  "version": "0",
  "id": "01234567-0123-0123-0123-0123456789ab",
  "detail-type": "Product Request Declined",
  "source": "aws.private-marketplace",
  "account": "255182084545",
  "time": "2016-11-01T13:12:22Z",
  "region": "us-east-1",
  "resources": [
    "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:255182084545:AWSMarketplace/Experience/exp-12345"
  ],
  "detail": {
    "requestId": "3d4c9f9b-b809-4f5e-9fac-a9ae98b05cbb",
    "declinedDate": "2022-11-05T13:12:22Z",
    "declinedCause": "REQUEST_EXPIRED",
    "schemaVersion": "1.0.0",
    "product": {
      "id": "product-12345",
      "arn": "arn:aws:aws-marketplace:us-east-1:123456789012:AWSMarketplace/SaaSProduct/product-12345",
      "title": "MSP360 Backup for Google Workspace"
    },
    "manufacturer": {
      "name": "Test Vendor"
    }
  },
  "experienceId": "exp-12345",
  "catalog": "AWSMarketplace",
```

```
"requesterArn": "arn:aws:iam::255182084545:user/pmp-enduser"  
}  
}
```

AWS Marketplace 調達システムとの統合

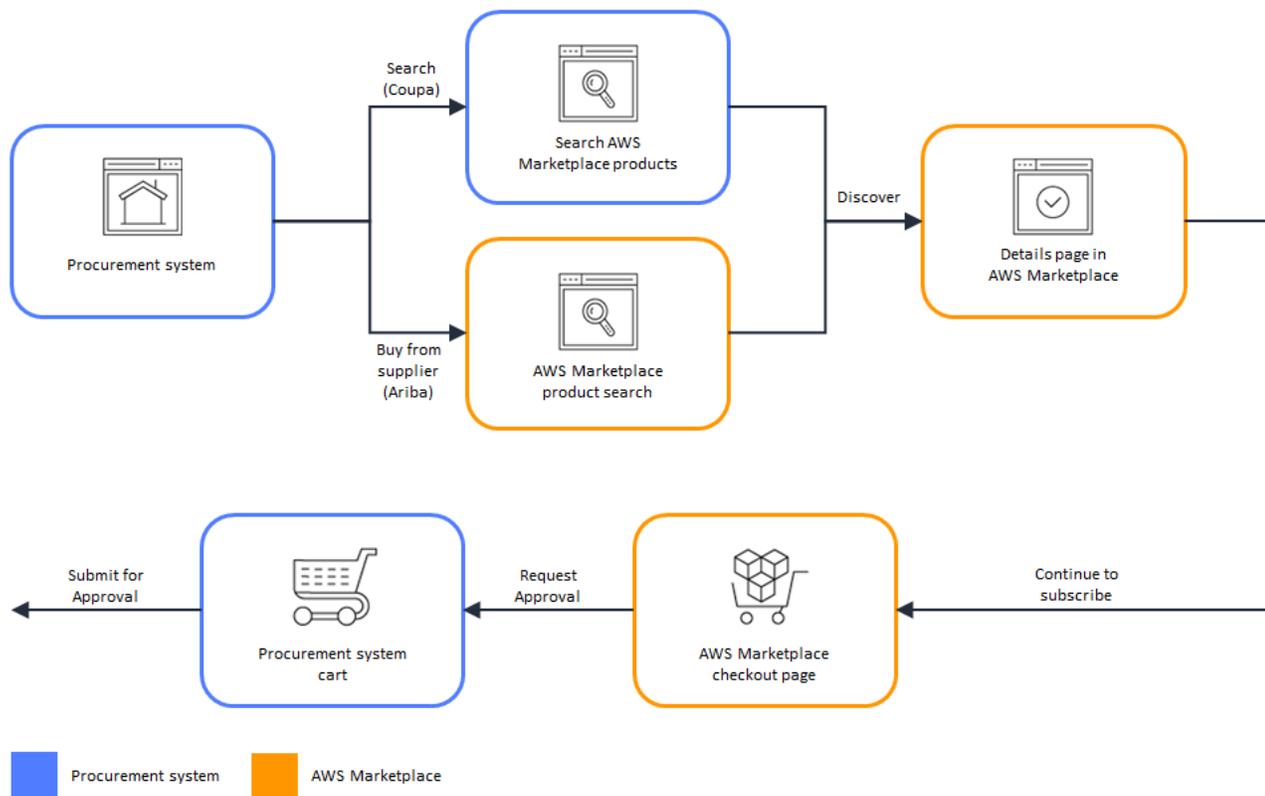
コマース拡張マークアップ言語 (cXML) プロトコル AWS Marketplace に従って と統合するように調達ソフトウェアを設定できます。この統合は、サードパーティーのカatalogにパンチアウトとも呼ばれるアクセスポイントを作成します。

統合は、調達システムによってわずかに異なります。

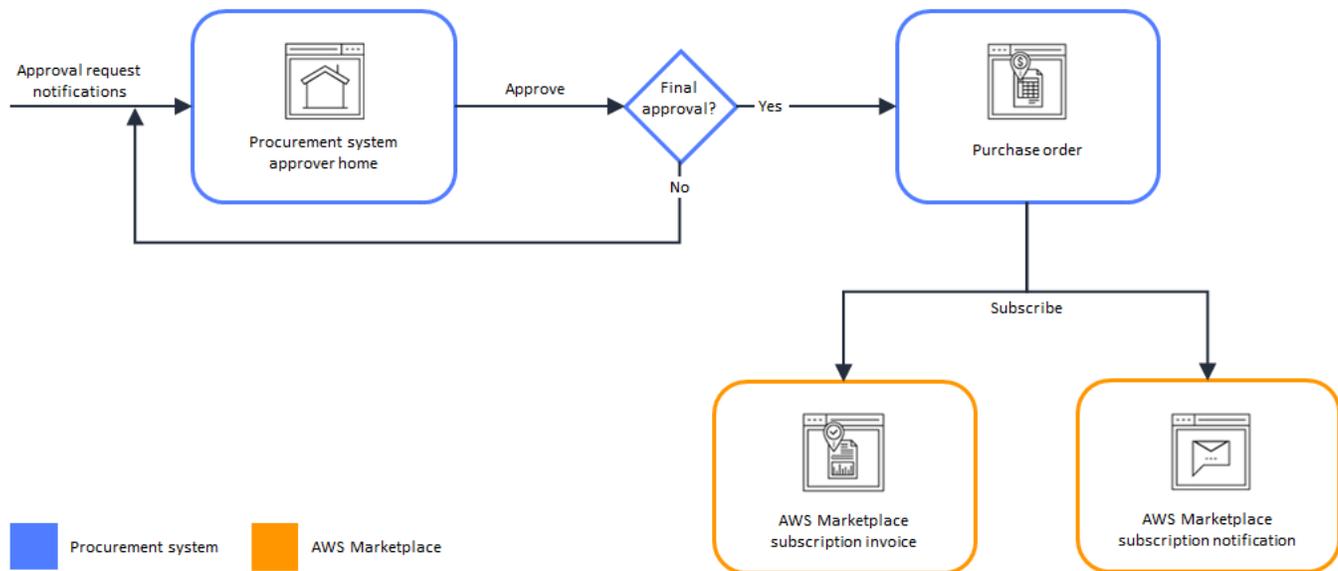
- Coupa – Coupa Open Buy 機能を使用すると、Coupa 内 AWS Marketplace から検索できます。Coupa には検索結果が表示され、ユーザーが製品を選択すると、AWS Marketplace にリダイレクトされて詳細が表示されます。または、Coupa の調達ソフトウェアのユーザーは、ホームページのオンラインショッピングセクションで AWS Marketplace Catalogにアクセスできます。ユーザーは、で直接開始 AWS Marketplace して製品を参照することもできます。
- SAP Ariba – Ariba はユーザーを にリダイレクト AWS Marketplace してソフトウェアを検索し、製品の詳細を取得します。管理者がパンチアウト統合を設定すると、Ariba の調達ソフトウェアのユーザーは、Catalogタブを選択してから AWS Marketplace Catalogを選択して AWS Marketplace ソフトウェアを検索できます。これにより、関心のある製品を見つける AWS Marketplace ために にリダイレクトされます。

Ariba ユーザーは AWS Marketplaceではなく、Ariba 内から購入を開始する必要があります。

ユーザーが参照しているサブスクリプションを購入する場合 AWS Marketplace、その中にサブスクリプションリクエストを作成します AWS Marketplace。製品のサブスクリプションページでは、購入を完了する代わりに、ユーザーは承認をリクエストします。承認プロセスを完了するために、リクエストは調達システムのショッピングカートに返送されます。次の図は、調達システムサブスクリプションリクエストのプロセスを示しています。



調達システムが リクエストを受け取ると AWS Marketplace、調達システムは承認プロセスを完了するためのワークフローを開始します。リクエストが承認されると、調達システムの発注書システムは AWS Marketplace の取引を自動的に完了し、ユーザーにサブスクリプションのデプロイ準備ができたことを通知します。リクエストは、購入を完了 AWS Marketplace するために 戻る必要はありません。ただし、購入した製品の使用方法 AWS Marketplace については、「」を参照してください。AWS Marketplace は、アクセスに使用した AWS アカウントに E メールメッセージを送信します AWS Marketplace。E メールメッセージは、サブスクリプションが成功し、ソフトウェアが利用可能であることを受信者に通知します AWS Marketplace。次の図は、調達システムサブスクリプションリクエストの承認プロセスを示しています。



調達システムとの統合に関するその他の注意事項は次のとおりです。

- 使用量ベースの料金の SaaS 製品では、予想される使用量の予算見積りを設定できます。この見積りは、調達システムを通じて承認のために送信できます。事前承認の取得を選択した場合、実際の料金は実際の使用量に基づいており、承認された発注書に対して毎月請求されます。最初の見積もりに関係なく、実際の使用量に基づいて課金されます。実際の使用量が推定使用量を超える場合は、差額をカバーするために追加の購入申請を提出する必要がある場合があります。
- 無料試用版には料金がかからないため、調達システムでは請求書は生成されません。
- サーバー年間契約 (AMI、コンテナ、Helm チャートオプションを含む) には、継続的な pay-as-you-go と 1 回限りの前払い料金の両方が含まれ、2 段階の承認プロセスが必要です。まず、pay-as-you-go の契約の承認リクエストを送信します。デフォルトでは 10,000 USD です (この金額は請求されません)。AWS Marketplace がこの最初の承認から PO を受け取ったら、調達ページに戻り、2 番目の承認にルーティングします。この承認には、合計契約額が表示されます。この 2 回目の承認が完了すると、最終的な契約が締結されます。
- PSI (調達システム統合) を利用しているお客様は、無料製品と BYOL 製品の事前承認を有効にできます。無料版と BYOL 版の 2 つの設定があります。設定を有効にすると、注文は事前承認されるため AWS Marketplace、顧客は承認のために調達システムに注文を送信する必要はありません。この設定が無効になっている場合、顧客は [リクエスト承認] ボタンを使用して調達システムに承認を送信します。無料製品と BYOL 製品の事前承認設定を無効にすると、顧客の調達システムで 0.00 USD の注文が生成されます。調達システム統合の詳細については、「<https://aws.amazon.com/marketplace/features/procurementsystem>」を参照してください。

Coupa と統合 AWS Marketplace するための の設定

AWS Marketplace と Coupa 調達ソフトウェアの統合を設定できます。設定を完了すると、組織内のユーザーは調達ソフトウェアを使用して AWS Marketplace 製品を検索し、サブスクリプションをリクエストできます。サブスクリプションリクエストが承認されると、取引が完了し、ユーザーにソフトウェアのサブスクリプションが利用可能であることが通知されます。ユーザーがサインインすると AWS Marketplace、ソフトウェア製品は購入したサブスクリプションとして表示され、使用できます。調達システムとの統合により、AWS Marketplace 請求書を発注書システムと統合することもできます。

ステップ 1. IAM 許可をセットアップする

AWS Marketplace と調達システムの統合を設定するには、でプロセスを開始し AWS Marketplace、調達システムでプロセスを完了します。AWS Marketplace で生成された情報を使用して、調達システムパンチアウトを設定します。設定を完了するには、使用するアカウントが以下の要件を満たしている必要があります。

- AWS Marketplace 設定を完了する AWS アカウント ために使用される は、管理アカウントであり、[AWS #####: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)管理ポリシーで定義されている AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を持っている必要があります。

アクセス許可を手動で設定するのではなく、IAM マネージドアクセス許可を使用することをお勧めします。この方法を使用すると、ヒューマンエラーが発生しにくくなり、アクセス許可が変更された場合に、管理ポリシーが更新されます。AWS Marketplaceでの IAM の設定と使用の詳細については、「[のセキュリティ AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- 設定の完了に使用される調達システムアカウントは、調達システムに契約、サプライヤー、パンチアウトカタログを設定するための管理アクセスを持つ必要があります。

ステップ 2. Coupa と統合 AWS Marketplace するように を設定する

IAMpermissionsを設定したら、Coupa と AWS Marketplace の統合を設定する準備が整います。[調達の管理] に移動します。[調達システムの管理] ペインで、パンチアウトの名前と説明を入力します。統合をテストモードに切り替えて、準備ができるまで製品サブスクリプションを作成せずに統合をテストすることもできます。統合の AWS Marketplace 部分を設定するには、次の手順を実行します。

Coupa と統合 AWS Marketplace するように を設定するには

1. [AWS Marketplace Manage Procurement Systems](#) の [Procurement systems (調達システム)] で、[Set up Coupa integration (Coupa 統合の設定)] を選択します。
2. [Manage Coupa integration (Coupa 統合の管理)] ページの [Account information (アカウント情報)] で、統合の名前と説明を入力します。

Note

AWS Billing コンソールで、Software as a Service (SaaS) 契約製品をサブスクライブするために使用されるコマース拡張マークアップ言語 (cXML) 発注書を参照できます。その場合は、AWS Marketplace 設定でサービスにリンクされたロールを使用して請求統合を有効にできます。

3. リダイレクトとテストモードを有効にするの設定をオンまたはオフにし、保存を選択して AWS Marketplace システム内の統合を完了できます。

で統合が完了したら AWS Marketplace、Coupa で統合をセットアップする必要があります。このページで生成された情報を使用して、Coupa システムのパンチアウトを設定します。

AWS Marketplace この設定では、デフォルトでテストモードが有効になります。テストモードでは、サブスクリプションリクエストは Coupa バックエンドに送られるため、フロー全体を確認できますが、最終的な請求書は作成されません。これは、設定を完了してから計画的にパンチアウトを有効するのに役立ちます。

Note

必要に応じてテストモードをオンまたはオフに切り替えることができます。統合が完了したら、テストモードをオフにすることを忘れないでください。そうしない場合、システム内のユーザーがリクエストを作成しているように見えますが、ソフトウェアは購入されません。

ステップ 3. Coupa を設定する

AWS Marketplace Coupa システムでとの統合を設定するには、「Coupa 統合の管理」ページの「購入情報」ペインから情報をコピーします AWS Marketplace。この情報を使用して以下のリンクのステップを完了し、ガイドに従って Coupa 調達システムを設定します。

- [Coupa パンチアウト設定](#)
- [cXML 発注書用のサプライヤーの設定](#)

Note

で使用される UNSPSC [AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード](#) コードの詳細については AWS Marketplace、「」を参照してください。

SAP Ariba と統合するための AWS Marketplace の設定

AWS Marketplace と SAP Ariba 調達システムの統合を設定できます。設定が完了したら、組織内のユーザーは調達ソフトウェアを使用して、AWS Marketplace 製品の検索およびサブスクリプションリクエストを行うことができます。サブスクリプションリクエストが承認されると、取引が完了し、ユーザーにソフトウェアのサブスクリプションが利用可能であることが通知されます。ユーザーが AWS Marketplace にサインインすると、ソフトウェア製品は購入済みサブスクリプションとして一覧表示され、使用可能になります。調達システムとの統合により、AWS Marketplace 請求書を発注システムと統合することもできます。

ステップ 1. IAM アクセス許可のセットアップ

AWS Marketplace と調達システムとの統合を設定するには、AWS Marketplace でプロセスを開始し、調達システムで完了します。AWS Marketplace で生成された情報を使用して、調達システムパンチアウトを設定します。設定を完了するには、使用するアカウントが以下の要件を満たしている必要があります。

- AWS Marketplace 設定の完了に使用される AWS アカウントは、管理アカウントであり、[AWS ######: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#) マネージドポリシーで定義された AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可がある必要があります。

アクセス許可を手動で設定するのではなく、IAM マネージドアクセス許可を使用することをお勧めします。この方法を使用すると、ヒューマンエラーが発生しにくくなり、アクセス許可が変更された場合に、管理ポリシーが更新されます。AWS Marketplace での IAM の設定と使用の詳細については、「[のセキュリティ AWS Marketplace](#)」を参照してください。

- 設定の完了に使用される調達システムアカウントは、調達システムに契約、サプライヤー、パンチアウトカタログを設定するための管理アクセスを持つ必要があります。

ステップ 2. AWS Marketplace を設定して SAP Ariba と統合する

Ariba と統合するように AWS Marketplace を設定するには、AWS Marketplace 運用チームと協力してレベル 1 のパンチアウトを作成する必要があります。SAP Ariba パンチアウトの詳細については、SAP コミュニティウェブサイトの「[SAP Ariba パンチアウトの概要](#)」を参照してください。

セットアップを設定する準備として、以下の情報を収集してください。

- 自分の AWS アカウント ID。AWS アカウント が AWS 組織に属している場合は、管理アカウント ID も必要です。
- SAP Ariba システムの Ariba ネットワーク ID (ANID)。

Ariba と統合するために AWS Marketplace を設定するには

1. [AWS Marketplace Manage Procurement Systems](#) の [調達システム] で、[Ariba 統合の設定] を選択します。
2. [SAP Ariba 統合の管理] ページの [アカウント情報] で、統合の名前と説明、Ariba システムの [SAP Ariba ネットワーク ID] (ANID) を入力します。

Note

AWS Billing コンソールの請求書に、SaaS 契約製品のサブスクリプションに使用される cXML の発注書を参照する必要がある場合があります。その場合は、AWS Marketplace 設定内のサービスにリンクされたロールを使用して請求統合を有効にできます。

3. テストモードが有効になっていることを確認し、[保存] を選択して AWS Marketplace 統合設定を保存します。
4. SAP Ariba 統合の作成プロセスを開始するには、[お問い合わせください](#)。上記の情報を含めてください。AWS Marketplace から Ariba 統合の設定とテストの手順をお送りします。

Note

AWS Marketplace とのサプライヤー関係を作成するには、SAP Ariba システムへの管理者アクセス権が必要です。

AWS Marketplace チームからの指示と構成設定に従って、テストモードで AWS Marketplace を実行して、SAP Ariba テスト環境で統合を作成します。テスト環境では、サブスクリプションのリクエストは Ariba バックエンドに送られるため、AWS Marketplace でサブスクリプションを作成しなくても承認を含むすべてのフローを確認でき、請求書も生成されません。この方法では、本番環境でパンチアウトを有効にする前に設定をテストできます。テストが完了し、本番環境に移行する準備ができたなら、[当社に連絡して](#)実稼働環境でアカウントを設定してください。

Note

統合のテストが終わったら、忘れずに本番環境に移行してください。そうしない場合、システム内のユーザーは自分がリクエストを作成していると思っても、ソフトウェアは購入されません。

テストが完了し、AWS Marketplace チームと協力してテストモードをオフにしたなら、統合は完了です。

SAP Ariba の構成詳細については、「SAP コミュニティ」の「[SAP Ariba パンチアウトの概要](#)」を参照してください。

Note

AWS Marketplace が使用する UNSPSC コードについては、[AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード](#) を参照してください。

AWS Marketplaceが使用する UNSPSC コード

AWS Marketplace は、調達カートに返送されるソフトウェア出品に、以下の国連標準製品およびサービスコード (UNSPSC) を使用します: 43232701 「」

調達システムの統合の無効化

Coupa または SAP Ariba との統合を無効にするには、調達システム内からパンチアウト統合を削除する必要があります。これを行うには、Coupa または Ariba のいずれかから AWS Marketplace の自動リダイレクト機能を無効にします。これにより統合は無効になりますが、設定は維持され、簡単に再有効化できます。

AWS Marketplace サイドの統合設定を完全に削除する必要がある場合は、[お問い合わせください](#)。

購入者 AWS として で Buy を使用する

で購入 AWS すると、購入者は販売者のウェブサイトやマーケットプレイスなど、任意の選択肢から AWS Marketplace 出品をショッピングしたり、シンプルな埋め込み call-to-action (CTA) ボタンを使用したりすることができます。お客様は、パートナーのウェブサイトで「で利用可能 AWS Marketplace」な製品を検索したり、デモをリクエストしたり、無料トライアルにアクセスしたり、カスタム料金を要求したりできます。購入するには、で購入 AWS ボタンをクリックしてアカウントにログインします AWS。AWS トランザクションによるすべての購入は、内で処理および管理されます AWS Marketplace。これにより、一括 AWS 請求、一元的なサブスクリプション管理、コスト最適化ツールへのアクセスなどのメリットが得られます。

Note

AWS 機能での購入の詳細については、「[での購入 AWS](#)」を参照してください。

販売者のウェブサイトに表示される CTA ボタンには以下が含まれます。

- で購入 AWS
- でオファーを表示する AWS
- で無料で試す AWS
- プライベートオファーをリクエストする
- デモをリクエストする

で購入 AWS すると、次の利点があります。

- クラウドソリューションの検出と評価を加速する: ウェブ上でソリューションを探しながら AWS、を通じて購入できる AWS パートナーからソフトウェアを見つけます AWS。
- AWS アカウントでの購入を便利かつ安全にする: AWS ボタンで購入を探し、アカウント AWS でログインして、AWS 支払い設定を利用して高速購入を行います。
- AWS Marketplace による一元的な請求とメリット: で一括請求をロック解除 AWS し、一元管理されたツールにアクセスして、でのサブスクリプションの管理とコストの最適化を支援します AWS Marketplace。

サポートされる製品

以下の製品は、で Buy をサポートしています AWS。

- SaaS サブスクリプション
- SaaS 契約
- SaaS 契約 (追加使用量あり)
- SaaS 無料トライアル

製品の発見と購入

販売者のウェブサイトで製品を表示およびサブスクライブする

1. で購入する機能がある販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. CTA で購入 AWS ボタンを選択します。



Buy with AWS

Try free with AWS

Request private offer

Request demo

4. アカウントにログインしていない場合は AWS、ログインします。シングルサインオン (SSO) ユーザーの場合は、まず SSO 認証情報を使用して認証します。通常使用しているのと同じ認証フレームワーク (SAML 2、OIDC、OAuth 2.0 など) を使用します。ログインすると、AWS 共同ブランド調達による購入ページにアクセスできます。
5. AWS 共同ブランド調達での購入ページには、顧客レビューと購入のオファーの詳細、料金、条件が表示されます。
6. 購入オファーの詳細を確認します。
7. [サブスクライブ] を選択します。
8. SaaS 製品をサブスクライブしたら、販売者のウェブサイトに登録するアカウントのセットアップを選択します。

販売者のウェブサイトからプライベートオファーをリクエストする

1. で購入する機能がある販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. プライベートオファー CTA のリクエストボタンを選択します。
4. 連絡先の詳細 (名前、電話番号、E メール) と、リクエストに関連する情報を入力します。
5. [Submit request (リクエストの送信)] を選択します。

販売者は、プライベートオファーのリクエストについてお客様に連絡します。

販売者のウェブサイトからデモをリクエストする

1. で購入する機能がある販売者のウェブサイトに移動します AWS。
2. 購入する製品を特定します。
3. デモ CTA のリクエストボタンを選択します。
4. 連絡先の詳細 (名前、電話番号、E メール) と、リクエストに関連する情報を入力します。
5. [Submit request (リクエストの送信)] を選択します。

販売者はデモのリクエストについて連絡します。

に記載されている製品の無料トライアル AWS Marketplace

に記載されている一部の製品では、無料トライアル AWS Marketplace を提供しています。無料トライアルでは、購入前にソフトウェアを試用できます。無料トライアルは、一定の無料使用量または期間に制限されています。無料トライアル期間を開始すると一時停止できません。

ソフトウェアとインフラストラクチャの料金

販売者が提供する無料トライアルは、出品されている製品のソフトウェア料金にのみ適用されます AWS Marketplace。購入者は、ソフトウェアの料金に無料トライアルが含まれているかどうか AWS Marketplace にかかわらず、から販売者の製品を使用する際のすべてのインフラストラクチャコストを負担する責任があります。これらのインフラストラクチャコストは によって設定 AWS され、それぞれの料金ページで利用できます。例えば、無料トライアルがある Amazon マシンイメージ (AMI) 製品をサブスクライブする場合、無料トライアル中の AMI の使用に対しては課金されません。ただし、AMI 製品を実行する Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスに対して課金される場合があります。

Note

製品によっては、実行するために追加の AWS インフラストラクチャが必要になる場合があります。例えば、販売者は、ロードバランサー、ストレージ、データベース、またはその他の AWS のサービスにデプロイするデプロイ手順やテンプレートを提供する場合があります AWS アカウント。販売 AWS のサービス 者が製品に何を必要としているかを理解するには、 にリストされている製品の詳細ページを確認してください AWS Marketplace。次に、該当する AWS のサービスの料金ページを確認します。

AMI ベースの製品の無料トライアル

で時間単位または時間単位の年間料金を使用する一部の AMI 製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、販売者が設定した期間中、AMI 製品の Amazon EC2 インスタンスを 1 つ、時間単位のソフトウェア料金なしで実行できます。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。追加の Amazon EC2 インスタンスを起動するには、インスタンスごとに時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルの終了前に Amazon EC2 インスタンスを終了しないと、無料トライアルが終了した時点から時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、Amazon EC2 インスタンスは自動的に終了せず、継続して使用するとソフトウェア料金が発生します。インフラストラクチャの料金の詳細については、「[Amazon EC2 料金表](#)」を参照してください。

コンテナベースの製品の無料トライアル

で時間単位または時間単位の長期料金を使用する一部のコンテナ製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、複数の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) タスクまたは Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) ポッドを時間単位のソフトウェア料金なしで一定期間実行できます。含まれるタスクまたはポッドの数、無料トライアルの期間は、販売者が設定します。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。無料トライアルに含まれる数を超えて追加のタスクまたはポッドを起動すると、タスクまたはポッドごとに時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルの終了前にタスクやポッドを終了しないと、無料トライアルが終了した時点から時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、タスクやポッドは自動的に終了せず、継続して使用するとソフトウェア料金が発生します。これらの料金の詳細については、「[Amazon ECS 料金表](#)」と「[Amazon EKS 料金表](#)」を参照してください。

機械学習製品の無料トライアル

の時間単位の料金を使用する一部の機械学習製品 AWS Marketplace には、無料トライアルがあります。無料トライアルにサブスクライブすると、時間単位のソフトウェア料金を発生させることなく、販売者が設定した期間、Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブを実行できます。インフラストラクチャの料金は、ユーザーの負担となります。無料トライアルは、有効期限が切れると自動的に有料サブスクリプションに切り替わります。

無料トライアルが終了する前に Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブを終了しない場合、無料トライアル終了時に時間単位のソフトウェア料金が発生します。無料トライアルのサブスクリプションを解除しても、Amazon SageMaker AI エンドポイント、バッチ変換ジョブ、またはトレーニングジョブは自動的に終了せず、使用を継続してもソフトウェア料金が発生します。インフラストラクチャ料金の詳細については、「[Amazon SageMakerの料金](#)」を参照してください。

SaaS 製品の無料トライアル

の Software as a Service (SaaS) 製品には無料トライアル AWS Marketplace があります。SaaS の無料トライアルは、自動的に有料契約に切り替わりません。無料トライアルが不要になった場合は、期限切れにできます。詳細については、「[SaaS 無料トライアルをサブスクライブする](#)」を参照してください。

AWS Service Catalog への AWS Marketplace サブスクリプションの追加

Service Catalog では、Amazon Web Services (AWS) での使用が承認された IT サービスのカタログを作成および管理できます。この IT サービスには、仮想マシンイメージ、サーバー、ソフトウェア、データベースから包括的な多層アプリケーションアーキテクチャまで、あらゆるものが含まれます。Service Catalog では、一般的にデプロイされる IT サービスを一元管理できます。Service Catalog により、一貫性のあるガバナンスを実現してコンプライアンス要件を満たし、ユーザーは必要な承認されたサービスのみをすばやくデプロイできるようになります。

詳細については、「Service Catalog [管理者ガイド](#)」の「[ポートフォリオへの AWS Marketplace 製品の追加](#)」を参照してください。

AWS Marketplace に出品された製品をレビューする

AWS Marketplace では、購入時に賢明な選択を行うのに必要な情報を購入者に提供したいと考えています。AWS のお客様は、AWS Marketplace に表示されるアイテムのレビューコメントを送信できます。好意的な意見と否定的な意見のどちらもお寄せください。

Note

データ製品は、製品レビューをサポートしていません。

ガイドライン

AWS Marketplace で製品をサブスクライブしているユーザーなら誰でも製品のレビューを作成できます。製品レビューを書く際には、以下のガイドラインに従ってください。

- 理由を記載する - レビューには製品の好き嫌いだけでなく、その理由も書かれていると大変参考になります。関連する製品についての意見やそれらの製品との比較結果を書いてもかまいません。
- 具体的に記載する - レビューでは、製品の具体的な機能やエクスペリエンスに焦点を当てます。ビデオレビューの場合は、簡単な紹介を書きます。
- 簡潔にする - レビューコメントは 20~5,000 語でお願いいたします。理想的な長さは 75~500 語です。
- 正直に記載する - 肯定的か否定的かを問わず、製品に関する正直な意見をお聞かせください。それらの意見は顧客による購入の決定に役立つと考えています。
- 透明性を保つ - レビューを行うことを条件に無料の製品を受け取った場合は、その旨を明確かつわかりやすい形で開示してください。

制限事項

AWS は、以下の内容を含むレビューを削除する権利を留保します。

- 以下を含む不快な資料:
 - ひわいな内容や不快な内容
 - 不敬な意見や悪意のある意見
 - 違法行為や不道德な行為を促す内容

- 以下を含む販促コンテンツ:
 - 広告、販促資料、または同じ主張を繰り返す投稿
 - 個人や会社による、または個人や会社のための、製品や直接競合する製品の金銭的利益につながる意見 (作成者、公開者、製造者、または製品を販売するサードパーティーの業者によるレビューなど)
 - 製品の無料コピー以外の対価を受けることを目的としたレビューコメント (有料の宣伝パッケージに含まれるレビューなど)
 - 製品への検証可能なサブスクリプションのない顧客のレビューコメント
- 以下を含む不適切なコンテンツ:
 - 他者からコピーされたコンテンツ (過度の引用など)
 - Amazon.com 以外の連絡先または URL
 - 在庫や別の注文/発送の詳細
 - ウォーターマークを含む動画
 - ページで閲覧できる他のレビューに対するコメント (ページの表示が予告なく変更されることがあるため)
 - 外国語の内容 (製品と明らかに関係がある場合を除く)
 - 形式に問題があるテキスト
- 以下を含む主題から外れた情報:
 - 販売者や配送に関するフィードバック
 - カタログや製品説明の誤植や間違いに関するフィードバック (これについては、製品ページの下にあるフィードバックフォームを使用)

カスタマーレビューに関するご質問は、[お問い合わせ](#)までご連絡ください。

タイミングと心構え

当社では、製品レビューをできるだけ迅速に処理するよう努めています。ただし、AWS Marketplace チームではレビュー者と販売者の両方と連絡を取り、フィードバックが当社の [the section called “ガイドライン”](#) と [the section called “制限事項”](#) に照らして妥当かどうかを確認および検証する必要があります。プロセスの完了にかかる時間については、「AWS Marketplace 販売者ガイド」に記載されているものと同じ「[タイミングと心構え](#)」のガイダンスに従います。

AWS Marketplace のサポートを取得する

AWS Marketplace の一般的な問題については、[お問い合わせください](#)。AWS Marketplace で購入するソフトウェアに関する質問については、ソフトウェア販売者にお問い合わせください。

カスタマーサポートの AWS アカウント番号の検索

お客様、またはお客様のユーザーがサポートに連絡する必要がある場合、AWS アカウント番号が必要です。

AWS アカウント番号を確認するには

1. ユーザー名で [AWS Management Console](#) にサインインします。
2. 上部のナビゲーションバーで、[サポート]、[サポートセンター] の順に選択します。

AWS アカウント ID (アカウント番号) が上部のナビゲーションバーの下に表示されます。

AWS Marketplace Vendor Insights

AWS Marketplace Vendor Insights は、信頼できる業界標準を満たすソフトウェアを調達できるようにすることで、ソフトウェアリスク評価を簡素化します。AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、単一のユーザーインターフェイスから製品のセキュリティプロファイルをほぼリアルタイムでモニタリングできます。ソフトウェア製品のセキュリティ情報をダッシュボードに表示することにより、評価にかかる労力を低減できます。ダッシュボードを使用して、データプライバシー、アプリケーションセキュリティ、アクセスコントロールなどの情報を表示および評価できます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、業界標準を継続的に満たす信頼できるソフトウェアを調達することで、販売者からセキュリティデータを収集し、購入者をサポートします。と統合することで AWS Audit Manager、AWS Marketplace Vendor Insights はの Software as a Service (SaaS) 製品の up-to-date セキュリティ情報を自動的に取得できます AWS Marketplace。AWS Marketplace Vendor Insights AWS Artifact はサードパーティーのレポートと統合されるため、ベンダーソフトウェアのオンデマンドコンプライアンスレポートとのレポートにアクセスできます AWS のサービス。

AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリと複数のコントロールからの証拠ベースの情報を提供します。次の 3 つのソースから、証拠に基づいた情報を収集します。

- ベンダーの本番環境アカウント - 複数のコントロールのうちの 25 のコントロールが、ベンダーの本番環境アカウントからのライブエビデンスの収集をサポートしています。各コントロールのライブ証拠は、販売者の AWS リソースの設定を評価する 1 つ以上の AWS Config ルールによって生成されます。ライブ証拠は、複数のソースのデータを常に更新して最新の情報を表示する方法です。は証拠を AWS Audit Manager キャプチャし、AWS Marketplace Vendor Insights ダッシュボードに配信します。
- Vendor ISO 27001 および SOC 2 Type II レポート - コントロールカテゴリは、国際標準化機構 (ISO) レポートおよび Service Organization Controls (SOC) 2 レポートのコントロールにマッピングされています。販売者が AWS Marketplace Vendor Insights とこれらのレポートを共有すると、サービスは関連するデータを抽出してダッシュボードに表示します。
- Vendor 自己評価 - 販売者によって自己評価を行います。また、AWS Marketplace Vendor Insights のセキュリティ自己評価や CAIQ (Consensus Assessment Initiative Questionnaire) など、他の自己評価を作成してアップロードできます。

次の動画では、AWS Marketplace Vendor Insights を使用して、SaaS リスク評価を簡素化する方法を示しています。

購入者として AWS Marketplace Vendor Insights の使用を開始する

AWS Marketplace Vendor Insights は、 で利用可能なソフトウェア製品のセキュリティ情報を表示します AWS Marketplace。 AWS Marketplace Vendor Insights を使用して、 の製品のセキュリティプロファイルを表示できます AWS Marketplace。

AWS Marketplace Vendor Insights ダッシュボードには、 AWS Marketplace Vendor Insights を使用してソフトウェア製品のコンプライアンスアーティファクトとセキュリティコントロール情報が表示されます。 AWS Marketplace Vendor Insights は、ダッシュボードに表示される複数のセキュリティコントロールに関する証拠ベースの情報を収集します。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用して製品のセキュリティおよびコンプライアンス情報にアクセスする場合、料金はかかりません。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用した製品の検索

Vendor AWS Marketplace Insights ダッシュボードで製品のプロファイルと概要情報を表示したり、カテゴリコントロールを選択して、製品で収集されたデータの詳細を確認したりできます。 AWS Marketplace Vendor Insights AWS Marketplace を使用して で製品を検索するには、次の手順を使用します。

AWS Marketplace Vendor Insights で製品を検索するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 [AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [すべての製品を表示] を選択します。
3. [Vendor Insights] タグが付いた製品を表示します。
4. [ベンダーインサイトの検索結果を絞り込む] で、[セキュリティプロファイル] を選択します。
5. [製品の詳細] ページの [製品概要] から、[ベンダーインサイト] セクションを選択します。
6. [この製品のすべてのプロファイルを表示] を選択します。
7. [概要] では、製品に関する詳細と、受け取ったセキュリティ証明書のリストを表示できます。
8. [アクセスをリクエスト] を選択します。
9. [Vendor Insights データへのアクセスをリクエストする] ページで、情報を入力し、[アクセスをリクエスト] を選択します。

この製品の AWS Marketplace Vendor Insights データへのアクセスを正常にリクエストしたことを示す成功メッセージが表示されます。

サブスクライブして、評価データへのアクセスをリクエストする

AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、ベンダーソフトウェアのセキュリティプロファイルを継続的にモニタリングできます。まず、モニタリングする製品のベンダー評価データをサブスクライブするか、アクセスをリクエストします。製品の評価データをモニタリングする必要がなくなった場合、その製品の評価データの配信を停止できます。AWS Marketplace Vendor Insights を使用して製品のセキュリティおよびコンプライアンス情報にアクセスする場合、料金はかかりません。料金の詳細については、「[AWS Marketplace Vendor Insights 料金表](#)」を参照してください。

特定のベンダー製品のすべての評価データにアクセスするには、その製品の評価データをサブスクライブする必要があります。

製品の AWS Marketplace Vendor Insights 評価データをサブスクライブするには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [概要] タブを選択します。
5. [アクセスをリクエスト] を選択します。
6. 指定されたフィールドに、お客様の情報を入力します。
7. 完了したら、[アクセスをリクエスト] を選択します。

この製品のすべてのベンダー評価データへのアクセスをリクエストしたことを示す成功メッセージが表示されます。

評価データのサブスクリプションを解除する

そのベンダーの製品の評価データにアクセスする必要がなくなった場合、その製品の評価データの配信を停止できます。

製品の AWS Marketplace Vendor Insights 評価データのサブスクリプションを解除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [製品の詳細] ページで製品を選択し、[サブスクリプション解除] を選択します。
4. AWS Marketplace Vendor Insights データのサブスクリプション解除に関する用語をお読みください。

5. テキスト入力フィールドに **Unsubscribe** を入力し、[サブスクリプション解除] を選択します。

Vendor AWS Marketplace Insights データのサブスクリプションを解除し、アクセスに対して課金されなくなることを示す成功メッセージが表示されます。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用した製品のセキュリティプロファイルの表示

AWS Marketplace Vendor Insights は、販売者からセキュリティデータを収集します。製品のセキュリティプロファイルには、製品のセキュリティ、回復力、コンプライアンス、その他の評価に必要な要素に関する最新情報が表示されます。この情報は、常に業界標準に適合し、信頼できるソフトウェアの調達を支援することにより、お客様をはじめとする購入者をサポートします。評価する Software as a Service (SaaS) 製品ごとに、AWS Marketplace Vendor Insights は複数のセキュリティコントロールに関する証拠ベースの情報を収集します。

トピック

- [AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード](#)
- [SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する](#)
- [コントロールカテゴリを理解する](#)

AWS Marketplace Vendor Insights のダッシュボード

ダッシュボードには、AWS Marketplace Vendor Insights によって収集されたソフトウェア製品のコンプライアンスアーティファクトとセキュリティコントロール情報が表示されます。すべてのセキュリティ [コントロールカテゴリ](#) について、データレジデンシーの変更や認証の期限切れなど、証拠に基づく情報を提供します。統合ダッシュボードには、コンプライアンス情報の変更が表示されません。AWS Marketplace Vendor Insights を使用すると、追加のアンケートを作成し、リスク評価ソフトウェアを使用する必要がなくなります。ダッシュボードは常に更新および検証されているため、調達後もソフトウェアのセキュリティコントロールを継続的にモニタリングできます。

SaaS 製品のセキュリティプロファイルを表示する

AWS Marketplace Vendor Insights は、販売者のソフトウェアに関する意思決定に役立ちます。AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリと複数のコントロールにわたる販売者の証拠ベースの情報からデータを抽出します。ダッシュボードで SaaS 製品のプロファイルと概要情報を表示したり、コントロールカテゴリを選択して、収集したデータの詳細を確認したりするこ

とができます。プロフィールを通じてコンプライアンス情報を表示するには、製品をサブスクライブし、アクセス許可を付与されている必要があります。

1. にサインイン AWS Management Console し、[AWS Marketplace コンソール](#)を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [プロフィールの詳細] ページで、[セキュリティとコンプライアンス] タブを選択します。

Note

赤丸の中の数字は、非準拠のコントロールの数を示しています。

5. [コントロールカテゴリ] では、一覧表示されたカテゴリの下のテキストを選択すると、詳細情報が表示されます。
 - 最初の [コントロール名] (適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するためのポリシー/手順がありますか?) を選択します。
 - 表示された情報を読んでください。また、AWS Artifact サードパーティーのレポートからレポートを表示したり、監査人から例外を表示したりすることもできます。
 - 上のナビゲーションで製品名を選択すると、[製品の詳細] ページに戻ります。

コントロールカテゴリを理解する

AWS Marketplace Vendor Insights は、10 のコントロールカテゴリ内の複数のコントロールから証拠ベースの情報を提供します。AWS Marketplace Vendor Insights は、ベンダーの本番稼働用アカウント、ベンダーの自己評価、ベンダー ISO 27001 および SOC 2 Type II レポートの 3 つのソースから情報を収集します。これらのソースの詳細については、「[AWS Marketplace Vendor Insights](#)」を参照してください。

次のリストは、各コントロールカテゴリの説明です。

アクセス管理

システムまたはアプリケーションへのアクセスを識別、追跡、管理、コントロールします。

アプリケーションセキュリティ

アプリケーションの設計、開発、テストを行う際に、アプリケーションにセキュリティが組み込まれているかどうかを検証します。

監査、コンプライアンス、セキュリティポリシー

組織の規制要件の遵守状況を評価します。

ビジネスの回復力と継続性

事業の継続性を維持しながら、迅速に混乱に適応する組織の能力を評価します。

データセキュリティ

データと資産を保護します。

エンドユーザーデバイスのセキュリティ

エンドユーザーのポータブルデバイスと、それらが接続されているネットワークを脅威や脆弱性から保護します。

人事

従業員の雇用、給与支払い、退職などのプロセスにおける機密データの取り扱いについて、従業員関連部門を評価します。

インフラストラクチャセキュリティ

重要な資産を脅威や脆弱性から保護します。

リスク管理とインシデント対応

許容可能と判断したリスクのレベルと、リスクや攻撃に対応するために講じられた措置を評価します。

セキュリティと設定に関するポリシー

組織の資産を保護するセキュリティポリシーとセキュリティ設定を評価します。

コントロールカテゴリセット

次の表は、各カテゴリの詳細情報と、収集された各カテゴリの値に関する情報を示しています。次の表は、表の各列に含まれる情報の種類を示しています。

- コントロールセット - コントロールはコントロールセットに割り当てられ、各コントロールにはそのカテゴリのセキュリティ機能を反映します。各カテゴリには、複数のコントロールセットがあります。
- コントロール名 - ポリシーまたはプロシージャの名前。「手動による認証が必要」とは、ポリシーまたは手順の書面による確認または文書化が必要であることを意味します。

- コントロールの説明 - このポリシーまたは手続きに関して必要な質問、情報、または文書。
- 証拠抽出の詳細 - このカテゴリに必要なデータを追加で取得するために必要な、コントロールに関する情報と背景情報。
- サンプル値 - このカテゴリのコンプライアンス値が規制基準に準拠していることを示すガイダンスのために示した例。

トピック

- [アクセス管理コントロール](#)
- [アプリケーションのセキュリティコントロール](#)
- [監査とコンプライアンスのコントロール](#)
- [ビジネスの回復力のコントロール](#)
- [データセキュリティコントロール](#)
- [エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロール](#)
- [人事コントロール](#)
- [インフラストラクチャのセキュリティ](#)
- [リスク管理とインシデント対応のコントロール](#)
- [セキュリティと設定に関するポリシーコントロール](#)

アクセス管理コントロール

アクセス管理コントロールは、システムまたはアプリケーションへのアクセスを識別、追跡、管理、制御します。この表は、アクセス管理コントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
安全な認証	アクセス管理 3.1.1 - 安全な認証 - Userid の個人データ (手動による認証が必要)	ユーザー ID に個人情報 (名前や E 外) が必要ですか？
	アクセス管理 3.1.2 - 安全な認証 - アプリケーションが 2 要素認証をサポート (手動による認証が必要)	アプリケーションは 2 要素認証をすか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
	アクセス管理 3.1.3 - 安全な認証 - アカウントロックアウト (手動による認証が必要)	ログインに複数回失敗した場合、アカウントはロックされますか？
認証情報管理	アクセス管理 3.2.1 - 認証情報管理 - パスワードポリシー	アプリケーションには、強力なパスワードがありますか？
	アクセス管理 3.2.2 - 認証情報管理 - パスワード暗号化	パスワードポリシーは、サインイン時にパスワードとユーザー ID) を転送時に暗号化/ソルトでハッシュ化することを要求しますか？
	アクセス管理 3.2.3 - 認証情報管理 - シークレット管理	シークレット管理サービスを使用していますか？
	アクセス管理 3.2.4 - 認証情報管理 - コード内の認証情報 (手動による認証が必要)	コードに認証情報が含まれていないように確保されていますか？
本番環境へのアクセス	アクセス管理 3.3.1 - 本番環境へのアクセス - シングルサインオン (手動による認証が必要)	SSO は本番環境にアクセスできるように構成されていますか？
	アクセス管理 3.3.2 - 本番環境へのアクセス - 2 要素認証	本番環境またはホスト環境にアクセスするには、2 要素認証が必要ですか？
	アクセス管理 3.3.3 - 本番環境へのアクセス - ルートユーザー (手動による認証が必要)	ルートユーザーは例外的に本番環境でのみ使用されますか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
	アクセス管理 3.3.4 - 本番環境へのアクセス - ルートユーザー MFA	ルートユーザーには多要素認証 (MFA) が有効化されていますか？
	アクセス管理 3.3.5 - 本番環境へのアクセス - リモートアクセス	本番環境へのリモートアクセスは、VPN、SSH、RDP、Telnet、Telnet、チャネルやキーベースの認証などを使用して保護されていますか？
アクセスコントロールポリシー	アクセス管理 3.4.1 - アクセスコントロールポリシー - 最小特権アクセス	ユーザーが本番環境にアクセスするときに、最小特権アクセスポリシーに従っていますか？
	アクセス管理 3.4.2 - アクセスコントロールポリシー - アクセスポリシーのレビュー	本番環境のすべてのアクセスポリシーは定期的にレビューされていますか？
	アクセス管理 3.4.3 - アクセスコントロールポリシー - ユーザーとセキュリティポリシーの設定 (手動による認証が必要)	このアプリケーションは、ユーザーと権限を動的に設定できるユーザーとその権限を設定できるように設計されていますか？
	アクセス管理 3.4.4 - アクセスコントロールポリシー - 論理セグメンテーション (手動による認証が必要)	アプリケーションユーザーには論理的に分離されたアクセスがありますか？
	アクセス管理 3.4.5 - アクセスコントロールポリシー - 終了時のアクセスのレビュー	従業員の退職時または職務変更時のアクセスポリシーが更新されていますか？

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明
アクセスログ	アクセス管理 3.5.1 - アクセスログ	本番環境で個々のユーザーが実行 ティのログを記録していますか？

アプリケーションのセキュリティコントロール

アプリケーションのセキュリティコントロールは、アプリケーションの設計、開発、テストを行う際に、アプリケーションにセキュリティが組み込まれているかどうかを検証します。この表は、アプリケーションのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
安全なソフトウェア開発ライフサイクル	アプリケーションセキュリティ 4.1.1 - 安全なソフトウェア開発ライフサイクル - 個別の環境	開発環境、テスト環境、ステージング環境は本番環境から分離されていますか？	開発環境、テスト環境、ステージング環境が本番環境から分離されているかどうかを記載します。	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.1.2 - 安全なソフトウェア開発ライフサイクル - 安全なコーディング対策	セキュリティエンジニアは、デベロッパーと協力してセキュリティ対策に取り組んでいますか？	デベロッパーとセキュリティエンジニアが、安全なコーディング対策について協力しているかどうかを記載します。	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.1.3 - 安全なソ	顧客データは、テスト、開発、または QA 環境	顧客データは、テスト、開発、または QA 環境	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ソフトウェア開発 ライフサイクル - テスト環境での 顧客データの使 用 (手動による認 証が必要)	で使用されたこ とはありますか?	で使用されたこ とはありますか? その場合、どの ようなデータ が、何のために 使用されていま すか?	
	アプリケーション セキュリティ 4.1.4 - 安全なソ フトウェア開発 ライフサイクル - 安全な接続	SSL/TLS は、 顧客データを使 用するすべて のウェブページ と通信で有効に なっていますか?	顧客データを使 用するすべての 通信に安全な接 続 (SSL/TLS な ど) を使用するか どうかを記載し ます。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.1.5 - 安全なソフトウェア開発 ライフサイクル - イメージのバックアップ	アプリケーションイメージのスナップショットはバックアップされていますか？	イメージスナップショット (アプリケーションをサポートするシステムや顧客データをホストするシステムなど) をバックアップするかどうかを記載します。 「はい」の場合、対象範囲内のデータを含むイメージスナップショットがスナップされる前に、承認されていることを確認するプロセスはありますか？ イメージスナップショットへのアクセスコントロールは実装されていますか？	はい。イメージは、顧客と経営層の承認を得てバックアップされます。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
アプリケーションセキュリティレビュー	アプリケーションセキュリティ 4.2.1 - アプリケーションセキュリティレビュー - セキュアコードのレビュー	セキュアコードのレビューは各リリースの前に行われますか？	セキュアコードのレビューは各リリースの前に行われるかどうかを記載します。	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.2.2 - アプリケーションセキュリティレビュー - ペネトレーションテスト	ペネトレーションテストは実施されていますか？ペネトレーションテストのレポートを提示していただけますか？	アプリケーションでペネトレーションテストを実施するかどうかを記載します。「はい」の場合、直近の3件のレポートを手動による証拠として提示していただけますか？	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.2.3 - アプリケーションセキュリティレビュー - セキュリティパッチ	入手可能なリスクの高いセキュリティパッチはすべて適用され、定期的に検証されていますか？	リスクの高いセキュリティパッチを定期的に適用するかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で適用されていますか？	はい。セキュリティパッチは毎月適用されます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.2.4 - アプリケーションセキュリティレビュー - アプリケーションの脆弱性スキャン	インターネットに接続しているすべてのアプリケーションに対して、定期的または大幅な変更が行われた後で、脆弱性スキャンを実施していますか？	インターネットに接続しているすべてのアプリケーションに対して脆弱性スキャンを実行するかどうかを記載します。「はい」の場合、脆弱性スキャンはどのくらいの頻度で行われていますか？レポートのコピーを提出していただけますか？	はい。脆弱性スキャンを毎月実行しています。
	アプリケーションセキュリティ 4.2.5 - アプリケーションセキュリティレビュー - 脅威と脆弱性の管理	脅威および脆弱性の評価ツールと、それらが収集するデータを管理するプロセスはありますか？	脅威および脆弱性の評価ツールと、その検出結果を管理するプロセスがあるかどうかを記載します。脅威と脆弱性の管理方法について、詳細を記載してください。	はい。さまざまなソースからのすべての脅威と脆弱性が1つのポータルに集約されます。それらは重大度別に管理されています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.2.6 - アプリケーションセキュリティレビュー - マルウェア対策スキャン	アプリケーションをホストするネットワークやシステムに対して、定期的にマルウェア対策スキャンを実施していますか？	アプリケーションをホストするネットワークやシステムに対して、マルウェア対策スキャンを実施するかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で行われていますか？レポートを提出していただけますか？	はい。マルウェア対策スキャンを毎月実行しています。
アプリケーションログ	アプリケーションセキュリティ 4.3.1 - アプリケーションログ - アプリケーションログ	アプリケーションログを収集し、それを確認していますか？	アプリケーションログを収集し、それを確認しているかどうかを記載します。「はい」の場合、ログはどのくらいの期間保持されますか？	はい。ログは 1 年間保持されます。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.3.2 - アプリケーションログ - ログへのアクセス	オペレーティングシステムとアプリケーションのログは、変更、削除、不適切なアクセスから保護されていますか？	オペレーティングシステムとアプリケーションのログが、変更、削除、不適切なアクセスから保護されているかどうかを記載します。侵害やインシデントが発生した場合、アプリケーションログの消失を検知するプロセスを導入していますか？	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.3.3 - アプリケーションログ - ログに保存されたデータ (手動による認証が必要)	顧客の個人を特定できる情報 (PII) をログに保存していますか？	顧客の個人を特定できる情報 (PII) をログに保存しているかどうかを記載します。	いいえ。PII データはログに保存されません。
変更管理ポリシー	アプリケーションセキュリティ 4.4.1 - 変更管理ポリシー - 機能テストと耐障害性テスト	変更をリリースする前に、機能テストと耐障害性テストを実施していますか？	新規リリースの前に、アプリケーションの機能テストと耐障害性テストを実施するかどうかを記載します。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.4.2 - 変更管理ポリシー - 変更管理手順	変更管理手順は、本番環境に対するすべての変更に必要なですか？	本番環境で行われたすべての変更に変更管理手順が適用されているかどうかを記載します。	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.4.3 - 変更管理ポリシー - 本番環境における人為的ミス/リスクの回避	ヒューマンエラーやリスクが本番環境に影響を与えないことを検証するプロセスは整っていますか？	ヒューマンエラーやリスクが本番環境に影響を与えないことを検証するプロセスがあることを記載します。	あり
	アプリケーションセキュリティ 4.4.4 - 変更管理ポリシー - ドキュメントとログの変更	サービスに影響を与える可能性のある変更を文書化してログを記録していますか？	サービスに影響を与える変更を文書化して記録するかどうかを記載します。「はい」の場合、ログはどのくらいの期間保持されますか？	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	アプリケーションセキュリティ 4.4.5 - 変更管理ポリシー - 購入者への変更通知 (手動による認証が必要)	サービスに影響を与える可能性のある変更が加えられる前に、顧客に確実に通知するための正式なプロセスがありますか？	サービスに影響を与える可能性のある変更を行う前に、顧客に通知するかどうかを記載します。「はい」の場合、影響のある変更について、顧客に通知するための SLA はどのようなものですか？	はい。影響がある変更の 90 日前にお客様に通知します。

監査とコンプライアンスのコントロール

監査とコンプライアンスのコントロールでは、組織の規制要件の遵守状況を評価します。この表は、監査コントロールとコンプライアンスコントロールの値と説明を一覧にしたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
認証完了	監査とコンプライアンス 1.1.1 - 認証完了 (手動による認証が必要)	保有している認証を一覧表示します。	持っている認証の名称を記載します。	SOC2、ISO/IEC 27001
認証中	監査とコンプライアンス 1.2.1 - 認証中 (手動による認証が必要)	現在進行中の認証を追加で記載します。	現在監査または審査中の追加の認証と、完了予定日を記載します。	はい。PCI の認証が進行中です (2022 年第 2 四半期に完了予定)。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
コンプライアンス確保の手順	監査とコンプライアンス 1.3.1 - コンプライアンス確保の手順 - コンプライアンス確保の手順	適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するための方針または手順がありますか？	適用される法律、規制、契約上の要求事項を確実に遵守するための方針または手順があるかどうかを指定します。「はい」の場合は、手順の詳細を記載し、手動による証拠をアップロードします。	はい。SOC2、ISO/IEC 27001などのドキュメントをアップロードしました。
	監査とコンプライアンス 1.3.2 - コンプライアンス確保の手順 - 未完了の要件を追跡する監査	未完了の規制要件やコンプライアンス要件を追跡する監査は完了していますか？	未完了の要件を追跡する監査を実施するかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。	はい、未完了の要件を追跡する監査を毎月実施しています。
	監査とコンプライアンス 1.3.3 - コンプライアンス確保の手順 - 逸脱と例外 (手動による認証が必要)	コンプライアンス要件からの逸脱や例外を処理するプロセスがありますか？	例外やコンプライアンス要件からの逸脱を処理するプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。	はい。逸脱のログとレポートツールを用意しています。例外や逸脱をすべて調査して、今後発生しないように予防します。

ビジネスの回復力のコントロール

ビジネスの回復力のコントロールでは、事業の継続性を維持しながら、迅速に混乱に適応する組織の能力を評価します。この表は、ビジネスの回復力のポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
ビジネスの回復力	ビジネスの回復力と継続性 6.1.1 - ビジネスの回復力 - フェイルオーバーテスト (手動による認証が必要)	サイトのフェイルオーバーテストは、少なくとも年に 1 回実施されていますか？	フェイルオーバーテストを毎年実施するかどうかを記載します。実施していない場合は、どのくらいの頻度で実施しますか？	あり
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.2 - ビジネスの回復力 - ビジネスインパクト分析 (手動による認証が必要)	ビジネスインパクト分析は実施されていますか？	ビジネスインパクト分析を実施したかどうかを記載します。「はい」の場合、最後に実施したのはいつですか？ 実施した分析の詳細を記載します。	はい。ビジネスインパクト分析は 6 か月前に実施しました。
	ビジネスの回復力と継続性 6.1.3 - ビジネスの回復力 - サードパーティーベンダーへの依存 (手動による認証が必要)	重要なサードパーティーサービスプロバイダー (クラウドサービスプロバイダー以外) への依存関係はありますか？	(クラウドサービスプロバイダー以外の) サードパーティーベンダーへの依存関係があるかどうかを記載します。「はい」の場合、ベンダー	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
			の詳細を記載し てください。	
	ビジネスの回復 力と継続性 6.1.4 - ビジネスの回復 力 - サードパー ティーの継続性 と回復力テスト (手動による認証 が必要)	サードパー ティーベンダー に独自のデザ スタリカバリプ ロセスと演習を 要求しています か？	サードパー ティーベンダー が独自のデザ スタリカバリの プロセスと演習 を行う必要があ るかどうかを記 載します。	このサンプルは 該当しません。
	ビジネスの回復 力と継続性 6.1.5 - ビジネスの回復 力 - サードパー ティーベンダー の契約違反 (手動 による認証が必 要)	重要なサー ビスプロバイ ダーとの契約 には、Amazon が販売、出荷 (SSA) する可用 性と継続性の違 反に対する罰則 や是正条項が含 まれていますか？	サードパー ティーベンダー との契約には、 可用性と継続性 の違反に対する 罰則や是正条項 は含まれていま すか？	このサンプルは 該当しません。
	ビジネスの回復 力と継続性 6.1.6 - ビジネスの回復 力 - システムの 健全性	システムの健全 性を把握するた めのモニタやア ラートはありま すか？	システムの健全 性を把握するた めのモニタやア ラートがあるか どうかを記載し ます。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
ビジネス継続性	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.1 - ビジネス継続性 - ビジネス継続性 ポリシー/手順	正式なビジネス 継続性手順が策 定され、文書化 されていますか？	ビジネス継続性 の正式な手順が 策定され、維持 されているかど うかを記載しま す。「はい」の 場合は、手順の 詳細を記載しま す。	あり
	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.2 - ビジネス継続性 - 対応と復旧の戦 略	優先順位の高い 活動に対して、 具体的な対応と 復旧の戦略が定 められています か？	復旧と対応の戦 略が顧客の活動 とサービスを対 象として策定 されているかど うかを記載しま す。	あり
	ビジネスの回復 力と継続性 6.2.3 - ビジネス継続性 - ビジネス継続性 テスト	ビジネス継続性 を確実にするた め、復旧テスト を実施していま すか？	障害発生時のビ ジネス継続性を 確保するために 復旧テストを実 施するかどうか を記載します。	はい。障害が発 生した場合、ビ ジネス継続性続 のためのシステ ムが 2 時間以内 に有効になりま す。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	事業回復力と継続性 6.2.4 - ビジネス継続性 - マルチテナンシー環境における可用性への影響 (手動による認証が必要)	購入者によって、システムの他のユーザーの可用性に影響を与える可能性のある負荷を与えることを制限していますか？	ある購入者の負荷が他の購入者の可用性に影響を与える可能性があるかどうかを記載します。「はい」の場合、影響がなくなるまでのしきい値はどれくらいですか？「いいえ」の場合、使用のピークを越えた時間帯にサービスが影響を受けないようにする方法について、詳細を記載してください。	はい。このサンプルにはしきい値はありません。
アプリケーションの可用性	ビジネスの回復力と継続性 6.3.1 - アプリケーションの可用性 - 可用性の記録 (手動による認証が必要)	昨年、信頼性や可用性に関して重大な問題がありましたか？	過去 1 年間で信頼性や可用性に関する重大な問題があったかどうかを記載します。	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.2 - アプリケーショ ンの可用性 - 提 起メンテナンス 期間 (手動による 認証が必要)	定期メンテナ ス中はダウンタ イムが予想され ますか?	定期メンテナ ス期間中にサー ビスが停止する 可能性がある かどうかを指定 してください。 「はい」の場 合、ダウンタイ ムはどのくらい ですか?	いいえ
	ビジネスの回復 力と継続性 6.3.3 - アプリケーショ ンの可用性 - オ ンラインインシ デントポータル (手動による認証 が必要)	計画的な停止と 予期しない停止 の概要を示すオ ンラインのイン シデント対応ス テータスポータ ルはありますか?	計画的な停止と 予期しない停止 の概要を示すイ ンシデントス テータスポータ ルがあるかど うかを記載しま す。「はい」の 場合は、顧客が アクセスする方 法の詳細を記載 します。サービ ス停止後、どの くらいでポータ ルが更新されま すか?	はい。お客様は example.com か ら詳細情報に アクセスできま す。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	ビジネスの回復力と継続性 6.3.4 - アプリケーションの可用性 - 目標復旧時間 (手動による認証が必要)	具体的な目標復旧時間 (RTO) がありますか?	目標復旧時間 (RTO) があるかどうかを記載します。「はい」の場合、RTO を記載してください。	はい、RTO は 2 時間です。
	ビジネスの回復力と継続性 6.3.5 - アプリケーションの可用性 - 目標復旧時点 (手動による認証が必要)	具体的な目標復旧時点 (RPO) がありますか?	目標復旧時点 (RPO) があるかどうかを記載します。「はい」の場合、RPO を記載してください。	はい、RPO は 1 週間です。

データセキュリティコントロール

データセキュリティコントロールでは、データと資産を保護します。この表は、データセキュリティコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
顧客データインジェスト	データセキュリティ 2.1.1 - 顧客データインジェスト (手動による認証が必要)	製品機能のために顧客に必要なデータのリストを作成します。	顧客で消費されるすべてのデータを記載します。機密データや秘密データが消費されるかどうかを記載します。	機密データや秘密データは消費されません。この製品は、アプリケーション、インフラストラクチャ、AWS のサービスからのログなど、機密ではない情報

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
				のみを消費し ます。(AWS CloudTrai l、 AWS Config、VPC フ ローログ)
データストレ ージの場所	データセキュリ ティ 2.2.1 - デー タストレージの 場所 (手動による 認証が必要)	お客様のデータ はどこに保存さ れますか? デー タが保存されて いる国やリー ジョンを一覧に します。	データが保存さ れている国と地 域のリストを記 載します。	オハイオ (米 国)、オレゴン (米国)、アイルラ ンド (EU)
アクセスコント ロール	データセキュリ ティ 2.3.1 - アク セスコントロー ル - 従業員のア クセス (手動によ る認証が必要)	従業員は暗号化 されていない顧 客データにアク セスできますか?	従業員が暗号化 されていない顧 客データにアク セスできるか どうかを記載し ます。「はい」 の場合は、アク セスが必要な理 由を簡単に記載 してください。 「いいえ」の場 合は、アクセス コントロールの 方法を簡単に 記載してくださ い。	いいえ。すべて のデータは保存 時に暗号化され ます。従業員 は顧客データに はアクセスでき ず、使用状況に 関するデータに のみアクセスで きます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.3.2 - アクセスコントロール - モバイルアプリケーション (手動による認証が必要)	顧客はモバイルアプリケーションからデータにアクセスできますか？	顧客がモバイルアプリケーションからデータにアクセスできるかどうかを記載します。「はい」の場合は、詳細を記載します。顧客はどのようにサインインしますか？認証情報はアプリケーションによってキャッシュされますか？トークンはどのくらいの頻度で更新されますか？	いいえ。モバイルアプリケーションを使用してサービスにアクセスすることはできません。
	データセキュリティ 2.3.3 - アクセスコントロール - データの送信先の国 (手動による認証が必要)	顧客データは送信元以外の国にも送信されますか？	顧客データは送信元以外の国にも送信されますか？「はい」の場合は、顧客データが送受信される国のリストを記載します。	いいえ

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.3.4 - アクセスコントロール - データはサードパーティーベンダーと共有されるか (手動による認証が必要)	顧客データはサードパーティーベンダー (クラウドサービスプロバイダー以外) と共有されていますか？	顧客データはサードパーティーベンダーと共有されていますか？ 「はい」の場合は、顧客データを提供するサードパーティーベンダーとその国または地域のリストを記載します。	いいえ
	データセキュリティ 2.3.5 - アクセスコントロール - サードパーティーベンダーに関連するセキュリティポリシー	サードパーティーベンダーが顧客データの機密性、可用性、完全性を維持することを保証するためのポリシーや手順がありますか？	サードパーティーベンダーが顧客データの機密性、可用性、完全性を維持することを保証するためのポリシーや手順があるかどうかを記載します。「はい」の場合は、ポリシーまたは手順のマニュアルまたは文書をアップロードしてください。	このサンプルは該当しません。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
データの暗号化	データセキュリティ 2.4.1 - データ暗号化 - 保管時のデータ暗号化	すべてのデータは保管時に暗号化されますか？	すべてのデータが保管時に暗号化されるかどうかを記載します。	あり
	データセキュリティ 2.4.2 - データ暗号化 - 転送中のデータ暗号化	すべてのデータは転送時に暗号化されますか？	すべてのデータが転送時に暗号化されるかどうかを記載します。	あり
	データセキュリティ 2.4.3 - データ暗号化 - 強力なアルゴリズム (手動による認証が必要)	強力な暗号化アルゴリズムを使用していますか？	強力な暗号化アルゴリズムを使用していますか？「はい」の場合は、使用する暗号化アルゴリズム (RSA、AES 256 など) を記載してください。	はい。データの暗号化に AES 256 を使用しています。
	データセキュリティ 2.4.4 - データ暗号化 - 固有の暗号化キー (手動による認証が必要)	顧客には固有の暗号キーを生成する機能がありますか？	顧客は独自の暗号キーを提供または生成できますか？「はい」の場合は、詳細を記載し、証拠をアップロードしてください。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.4.5 - データ暗号化 - 暗号化キーへのアクセス (手動による認証が必要)	従業員は顧客の暗号キーにアクセスできないようになっていますか？	従業員が顧客の暗号キーにアクセスできないようになっているかどうかを記載します。「いいえ」の場合は、従業員が顧客のキーにアクセスする理由を記載してください。「はい」の場合は、アクセスコントロールの方法を記載してください。	はい。暗号キーは安全に保管され、定期的にローテーションされます。従業員はこれらのキーにアクセスできません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
データストレージと分類	データセキュリティ 2.5.1 - データストレージと分類 - データのバックアップ	顧客データをバックアップしていますか？	顧客データをバックアップするかどうかを記載します。「はい」の場合は、バックアップポリシー (バックアップの実行頻度、保存場所、暗号化、冗長性に関する詳細を含む) を記載します。	はい、バックアップは 3 か月ごとに行われます。バックアップは暗号化され、顧客データと同じリージョンに保存されます。顧客のサポートエンジニアにはバックアップを復元するためのアクセス許可がありますが、バックアップ内のデータにはアクセスできません。
	データセキュリティ 2.5.2 - データストレージと分類 - データアクセスコントロールポリシー	保存されている顧客データに対して適切なアクセスコントロールを実施していますか？ アクセスコントロールポリシーを記載します。	保存されている顧客データに適切なアクセスコントロール (RBAC など) を実装するかどうかを記載します。データアクセスのコントロール方法について、より詳細な情報と手動による証拠を提供してください。	はい。顧客データへのアクセスを制限するために、最小特権のアクセスコントロールが実装されています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.5.3 - データストレージと分類 - トランザクションデータ (手動による認証が必要)	顧客のトランザクション詳細 (支払いカード情報やトランザクションを行うグループに関する情報など) は境界ゾーンに保存されていますか?	顧客のトランザクション詳細 (支払いカード情報やトランザクションを行うグループに関する情報など) が境界ゾーンに保存されているかどうかを記載します。「はい」の場合は、それを境界ゾーンに保存する必要がある理由を記載してください。	いいえ
	データセキュリティ 2.5.4 - データストレージと分類 - 情報の分類	顧客データは、法的または規制の要件、ビジネス価値、不正な開示や変更に対する機密性に従って分類されていますか?	顧客データを機密性によって分類するかどうかを記載します。「はい」の場合は、この分類に関する手動による証拠をアップロードしてください。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	データセキュリティ 2.5.5 - データストレージと分類 - データのセグメンテーション (手動による認証が必要)	顧客間のデータセグメンテーションと分離機能は提供されていますか？	異なる顧客のデータをセグメンテーションするかどうかを記載します。「いいえ」の場合は、データを交差汚染から保護するためのメカニズムを記載してください。	あり
データ保持期間	データセキュリティ 2.6.1 - データ保持 (手動による認証が必要)	データの保持期間はどのくらいですか？	データ保持期間を記載します。保持期間がデータの分類と機密性によって異なる場合、それぞれの保持期間の詳細を記載してください。	6 か月間
購入者がサブスクリプションを解除した後のデータ保持	データセキュリティ 2.6.2 - クライアントがサブスクリプションを解除した後のデータ保持 (手動による認証が必要)	購入者がサブスクリプションを解除した後は、どのくらいの期間データを保持しますか？	顧客がサブスクリプションを解除した後のデータ保持期間を記載します。	3 か月間

エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロール

エンドユーザーデバイスのセキュリティコントロールでは、ポータブルエンドユーザーデバイスと、それらが接続されるネットワークを脅威や脆弱性から保護します。この表は、エンドユーザーデバイスのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
資産/ソフトウェアインベントリ	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.1.1 - 資産/ソフトウェアインベントリ - 資産インベントリ	資産インベントリリストは定期的に更新されていますか？	資産インベントリを管理しているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で更新していますか？	はい。インベントリは毎週更新しています。
	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.1.2 - 資産/ソフトウェアインベントリ - ソフトウェアおよびアプリケーションインベントリ	対象範囲のシステムにインストールされているすべてのソフトウェアプラットフォームとアプリケーションがインベントリ化されていますか？	インストールされているすべてのソフトウェアとアプリケーションのインベントリが維持されているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度で更新していますか？	はい。インベントリは毎週更新しています。
資産のセキュリティ	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.2.1 - 資産のセキュリティ - セキュリティバッチ	すべてのエンドユーザーデバイスに、利用可能なリスクの高いすべてのセキュリティバッチが適用され、少な	リスクの高いすべてのセキュリティバッチを少なくとも毎月適用するかどうかを記載します。「いいえ」の	はい。セキュリティチームによって、このプロセスを隔週で実行しています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
		くとも毎月検証 されていますか？	場合、どのくら いの頻度で適用 していますか？ パッチの管理方 法について、詳 細を記載してく ださい。	
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.2 - 資産のセキュ リティ - エンドポ イントのセキュ リティ	エンドポイント のセキュリティ はありますか？	エンドポイント のセキュリティ がすべてのデバ イスにインス トールされてい るかどうかを記 載します。「は い」の場合、 ツールとその保 守方法について 詳細を記載して ください。	はい。当社のセ キュリティチー ムでは、社内 ツールを使用し て、これを隔週 で処理していま す。
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.3 - 資 産セキュリティ - 資産のメンテナ ンスと修復 (手動 による認証が必 要)	組織の資産のメ ンテナンスと修 復は、承認およ び管理されてい るツールを使用 して実施し、記 録されています か？	資産のメンテナ ンスと修復を管 理対象ツールで 実施し、記録さ れちるかどうか を記載します。 「はい」の場 合、その管理方 法について詳細 を記載してくだ さい。	はい。デバイスのメンテナ ンスは、すべて記録 されています。 このメンテナ ンスによってダウ ンタイムが発生 することはありません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.2.4 - 資 産セキュリティ - デバイスのアク セスコントロー ル	デバイスのアク セスコントロー ルは有効になっ ていますか？	デバイスのアク セスコントロー ル (RBAC など) が有効になって いるかどうかを 記載します。	はい。最小特権 アクセスがすべ てのデバイスに 実装されていま す。
デバイスログ	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.3.1 - デ バイスログ - 十 分な詳細をログ に記載 (手動によ る認証が必要)	インシデントの 調査をサポート するため、オペ レーティングシ ステムやデバイ スのログには十 分な詳細が記録 されていますか？	インシデントの 調査をサポート するために、ロ グに十分な詳細 (ログイン試行の 成功と失敗、機 密設定やファイ ルへの変更など) が含まれている かどうかを記載 します。「いい え」の場合は、 インシデントの 調査方法の詳細 を記載してくだ さい。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.3.2 - デバイスログ - デバイスログへのアクセス	デバイスログは、変更、削除、不適切なアクセスから保護されていますか？	デバイスログは、変更、削除、不適切なアクセスから保護されているかどうかを記載します。「はい」の場合、その実施方法の詳細を記載してください。	はい。ログの変更はアクセスコントロールによって実施されません。ログに加えられた変更は、すべてアラートにつながりません。
	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.3.3 - デバイスログ - ログの保持 (手動による認証が必要)	ログは、攻撃を調査するのに十分な期間保持されていますか？	ログはどのくらいの期間保持されますか？	はい、1年間で
モバイルデバイス管理	エンドユーザーデバイスセキュリティ 7.4.1 - モバイルデバイス管理 - モバイルデバイス管理プログラム	モバイルデバイス管理プログラムはありますか？	モバイルデバイス管理プログラムがあるかどうかを記載します。「はい」の場合は、モバイルデバイス管理に使用しているツールを記載してください。	はい。社内ツールを使用しています。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.4.2 - モバイルデバイ ス管理 - プライ ベートモバイル デバイスから本 番環境へのアク セス (手動による 認証が必要)	管理されていな いプライベート モバイルデバイ スを使用して、 スタッフが本番 環境にアクセス することは禁止 されていますか？	管理されていな いプライベート モバイルデバイ スを使用して、 スタッフが本番 環境にアクセス することが禁止 されているかど うかを記載しま す。「いいえ」 の場合、このコ ントロールを実 施する方法を 記載してくださ い。	あり
	エンドユーザー デバイスセキュ リティ 7.4.3 - モ バイルデバイス 管理 - モバイル デバイスから顧 客データへのア クセス (手動によ る認証が必要)	従業員は、管理 されていないプ ライベートモバ イルデバイス を使用して、顧客 データを閲覧ま たは処理するこ とを禁止されて いますか？	従業員は、管理 されていないプ ライベートモバ イルデバイス を使用して、顧 客データにアク セスすることが 禁止されている かどうかを記載 します。「いい え」の場合、ア クセスを許可す るユースケース は何ですか？ど のようにアクセ スをモニタリン グしていますか？	あり

人事コントロール

人事コントロールでは、従業員の雇用、給与支払い、退職などのプロセスにおける機密データの取り扱いについて、従業員関連部門を評価します。この表は、人事ポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
人事ポリシー	人事 9.1.1 - 人事ポリシー - 従業員の身元調査	雇用前に身元調査は行われますか？	雇用前に全従業員の身元調査を実施するかどうかを記載します。	あり
	人事 9.1.2 - 人事ポリシー - 雇用契約	雇用契約は雇用前に締結されていますか？	雇用前に雇用契約が締結されているかどうかを記載します。	あり
	人事 9.1.3 - 人事ポリシー - 従業員向けセキュリティ研修	全従業員は、定期的にセキュリティ意識向上トレーニングを受けていますか？	従業員が定期的にセキュリティトレーニングを受けているかどうかを記載します。「はい」の場合、どのくらいの頻度でセキュリティトレーニングを受けていますか？	はい。毎年セキュリティトレーニングを受けています。
	人事 9.1.4 - 人事ポリシー - ポリシー違反の懲戒処分	人事ポリシーに違反した場合の懲戒処分はありますか？	人事ポリシーの違反に対する懲戒処分の有無を記載します。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	人事 9.1.5 - 人事ポリシー - 請負業者/下請業者の身元調査 (手動による認証が必要)	サードパーティーベンダー、請負業者、下請業者の身元調査は行われていますか？	サードパーティーベンダー、請負業者、下請業者に対して身元調査を実施しているかどうかを記載します。「はい」の場合、身元調査は定期的に行われていますか？	はい。身元調査は毎年行われます。
	人事 9.1.6 - 人事ポリシー - 退職時の資産返還	退職時に貸与した資産の返還を確認するプロセスはありますか？	従業員の退職時に貸与した資産の返還を検証するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり

インフラストラクチャのセキュリティ

インフラストラクチャのセキュリティコントロールでは、重要な資産を脅威や脆弱性から保護します。この表は、インフラストラクチャのセキュリティポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
物理的なセキュリティ	インフラストラクチャのセキュリティ 8.1.1 - 物理的なセキュリティ	資産 (建物、車両、ハードウェアなど) に直接アクセスする必要がある個人は、	資産 (建物、車両、ハードウェアなど) に直接アクセスする必要がある個人に対	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	<p>テイ - 施設への物理的アクセス</p>	<p>ID と必要な認証情報を提供する必要がありますか？</p>	<p>し、ID と必要な認証情報を提供する必要があるかどうかを記載します。</p>	
	<p>インフラストラクチャのセキュリティ 8.1.2 - 物理的なセキュリティ - 物理的なセキュリティと環境管理の実施</p>	<p>データセンターやオフィスビルでは、物理的なセキュリティと環境管理が実施されていますか？</p>	<p>すべての施設で物理的なセキュリティと環境管理が実施されているかどうかを記載します。</p>	<p>あり</p>
	<p>インフラストラクチャのセキュリティ 8.1.3 - 物理的なセキュリティ - 訪問者のアクセス (手動による認証が必要)</p>	<p>訪問者のアクセスを記録していますか？</p>	<p>訪問者が施設に入ることを許可されている場合、訪問者のアクセスログは保存されていますか？「はい」の場合、ログはどのくらいの期間保持されますか？</p>	<p>はい。ログは 1 年間保持されます。</p>
<p>ネットワークセキュリティ</p>	<p>インフラストラクチャのセキュリティ 8.2.1 - ネットワークセキュリティ - 未使用のポートとサービスの無効化 (手動による認証が必要)</p>	<p>未使用のポートとサービスは、すべて本番環境とシステムで無効になっていますか？</p>	<p>未使用のポートとサービスが、すべて本番環境とシステムで無効になっているかどうかを記載します。</p>	<p>あり</p>

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.2 - ネットワーク セキュリティ - ファイアウォー ルの使用	ファイアウォー ルを使用して、 重要で機密性の 高いシステム を、機密性の低 いシステムにあ るネットワーク セグメントとは 別のネットワー クセグメントに 分離しています か？	ファイアウォー ルを使用して、 重要で機密性の 高いシステム を、機密性の低 いシステムにあ るネットワーク セグメントとは 別のネットワー クセグメントに 分離しているか どうかを記載し ます。	あり
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.3 - ネットワーク セキュリティ - ファイアウォー ルルールのレ ビュー	ファイアウォー ルのルールはす べて定期的にし レビューし、更新 されていますか？	ファイアウォー ルのルールはど のくらいの頻度 で定期的にし レビューし、更新 されていますか？	はい。ファイア ウォールのルー ルは 3 か月ごと に更新されてい ます。
	インフラストラ クチャのセキュ リティ 8.2.4 - ネットワークセ キュリティ - 侵 入検知/防止シス テム	機密性の高いす べてのネット ワークゾーンと ファイアウォー ルが有効な場所 に、侵入検知/防 止システムが設 置されています か？	機密性の高いす べてのネット ワークゾーンで 侵入検知および 防止システムが 有効になっている かどうかを記 載します。	あり

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	インフラストラクチャのセキュリティ 8.2.5 - ネットワークセキュリティ - セキュリティ基準と強化基準	ネットワークデバイスのセキュリティ基準と強化基準は定められていますか？	ネットワークデバイスのセキュリティ基準と強化基準を定めているかどうかを記載します。「はい」の場合、詳細(これらの基準が実装および更新される頻度に関する詳細を含む)を記載してください。	はい。セキュリティ基準と強化基準は、毎月ネットワークデバイスに実装されています。
クラウドサービス	インフラストラクチャのセキュリティ 8.3.1 - クラウドサービス - アプリケーションのホストに使用されるプラットフォーム(手動による認証が必要)	アプリケーションのホストに使用するクラウドプラットフォームを一覧にしてください。	アプリケーションのホストに使用するクラウドプラットフォームを記載してください。	AWS

リスク管理とインシデント対応のコントロール

リスク管理とインシデント対応のコントロールでは、許容可能と判断したリスクのレベルと、リスクや攻撃に対応するために講じられた措置を評価します。この表は、リスク管理とインシデント対応のコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
リスク評価	リスク管理/インシデント対応 5.1.1 - リスク評価 - リスクの対処と特定	組織に対する破壊的インシデントのリスクを特定し、対処することに焦点を当てた正式なプロセスはありますか？	組織に破壊的なインシデントを引き起こすリスクを特定し、対処するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり
	リスク管理/インシデント対応 5.1.2 - リスク評価 - リスク管理プロセス	評価中に特定されたリスクの処理を管理するプログラムまたはプロセスはありますか？	リスクとその軽減策を管理するためのプログラムまたはプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合、リスク管理プロセスについて詳細を記載してください。	<p>はい。不適合に対処するため、問題を定期的に見直し、修正しています。環境に影響を与えるすべての問題について、次の情報が特定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 特定された問題の詳細 • 根本原因 • 補償コントロール • 重要度 • 所有者 • 短期的な方向性 • 長期的な方向性

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.3 - リスク評 価 - リスク評価	リスク評価は頻 繁に行われてい ますか？	リスク評価は頻 繁に行われて いますか？「は い」の場合は、 リスク評価の頻 度を記載してく ださい。	はい。リスク評 価は 6 か月ご とに実施してい ます。
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.4 - リスク評 価 - サードパー ティーベンダー のリスク評価	リスク評価は、 すべてのサード パーティーベン ダーを対象に実 施されています か？	リスク評価は、 すべてのサード パーティーベン ダーに対して実 施されているか どうかを記載し ます。「はい」 の場合は、どの くらいの頻度で 実施されていま すか？	このサンプルは 該当しません。
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.1.5 - リスク評 価 - 契約変更時 のリスク再評価	サービス提供や 契約変更が行わ れたときに、リ スク評価が実施 されていますか？	サービス提供や 契約変更が行わ れるたびに、リ スク評価を実施 するかどうかを 記載します。	このサンプルは 該当しません。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.1.6 - リスク評価 - リスクの受け入れ (手動による認証が必要)	経営陣がリスクを承知の上で客観的に受け入れ、アクションプランを承認するプロセスがありますか？	経営陣がリスクを理解した上で受け入れ、リスクに関連する問題を解決するためのアクションプランとタイムラインを承認するプロセスがあるかどうかを記載します。そのプロセスには、各リスクの背後にあるメトリクスの詳細を経営陣に提供することが含まれていますか？	はい。リスクの重大度と、リスクが軽減されない場合に発生する可能性のある問題に関する詳細が、リスクを承認する前に経営陣に提供されます。
	リスク管理/インシデント対応 5.1.7 - リスク評価 - リスクメトリクス (手動による認証が必要)	リスクメトリクスを定義、監視、報告するための対策は整っていますか？	リスクメトリクスを定義、監視、報告するプロセスがあるかどうかを記載します。	あり
インシデント管理	リスク管理/インシデント対応 5.2.1 - インシデント管理 - インシデント対応計画	正式なインシデント対応計画はありますか？	正式なインシデント対応計画があるかどうかを記載します。	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.2.2 - インシデント管理 - セキュリティインシデントの報告 窓口 (手動による 認証が必要)	顧客がセキュリティインシデントを報告するプロセスはありますか？	顧客がセキュリティインシデントを報告するプロセスがあるかどうかを記載します。「はい」の場合、顧客がセキュリティインシデントを報告する方法を記載してください。	はい。お客様は example.com でインシデントを報告できます。
	リスク管理/インシデント対応 5.2.3 - インシデント管理 - インシデントの報告/ 主要な活動	主要な活動を報告していますか？	主要な活動を報告していますか？ 主要な活動を報告するための SLA はどのようなものですか？	はい。主要な活動はすべて 1 週間以内に報告されます。
	リスク管理/インシデント対応 5.2.4 - インシデント管理 - インシデントのリカバリ	ディザスタリカバリ計画はありますか？	インシデント発生後のリカバリ計画があるかどうかを記載します。「はい」の場合、リカバリ計画の詳細を記載してください。	はい。インシデントの発生後、24 時間以内にリカバリが行われます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/インシデント対応 5.2.5 - インシデント管理 - 攻撃発生時に購入者が利用できるログ (手動による認証が必要)	攻撃を受けた場合、顧客は関連するリソース (ログ、インシデントレポート、データなど) を利用できますか?	攻撃やインシデントが発生した場合、顧客はその使用に関連するリソース (ログ、インシデントレポート、データなど) を利用できますか?	あり
	リスク管理/インシデント対応 5.2.6 - インシデント管理 - セキュリティ情報 (手動による認証が必要)	アプリケーションに影響を及ぼす最新の攻撃や脆弱性をまとめたセキュリティ情報はありますか?	アプリケーションに影響を及ぼす最新の攻撃や脆弱性をまとめたセキュリティ情報があるかどうかを記載します。「はい」の場合、詳細を記載してください。	はい。お客様は example.com でインシデントを報告できます。
インシデント検知	リスク管理/インシデント対応 5.3.1 - インシデント検知 - 包括的なログ記録	インシデントの特定と軽減に役立つ包括的なログ記録はありますか?	包括的なログ記録が有効になっているかどうかを記載します。システムがログに記録できるイベントのタイプを特定します。ログはどのくらいの期間保持されますか?	はい。アプリケーション、デバイス、AWS のサービスなどのイベント AWS CloudTrail AWS Config、および VPC フローログがログに記録されます。ログは 1 年間保持されます。

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.3.2 - インシデ ント検知 - ログ のモニタリング	ログのモニタリ ングなどの検知 メカニズムを使 用して、異常 な活動や不審な 活動をモニタリ ングし、警告し ていますか？	セキュリティの モニタリングと 警告を定期的に 実施するかど うかを記載しま す。「はい」の 場合、異常な動 作や不審な動作 のログのモニタ リングも含まれ ていますか？	はい。すべての ログは、複数の ログイン失敗、 通常とは異な る位置情報から のログイン、そ の他の不審なア ラートなどの異 常な動作がない かモニタリング されます。
	リスク管理/イ ンシデント対応 5.3.3 - インシデ ント検知 - サード パーティーの データ侵害	下請業者のセ キュリティ、 プライバシー 、データ侵害の 問題を特定、検 出、ログ記録す るプロセスはあ りますか？	データ侵害、セ キュリティ問 題、プライバ シー問題につい て、サードパー ティーベンダー や下請業者を特 定して検出する プロセスがある かどうかを記載 します。	あり
インシデント通 知の SLA	リスク管理/イ ンシデント対応 5.4.1 - インシデ ント通知の SLA (手動による認証 が必要)	インシデントや 違反に関する通 知を送信するた めの SLA はどの ようなものです か？	インシデントや 違反に関する通 知を送信するた めの SLA はどの ようなものです か？	7 日間

セキュリティと設定に関するポリシーコントロール

セキュリティと設定に関するポリシーコントロールは、組織の資産を保護するセキュリティポリシーとセキュリティ設定を評価します。この表は、セキュリティと設定に関するポリシーコントロールの値と説明をまとめたものです。

コントロールセット	コントロールタイトル	コントロールの説明	証拠収集の詳細	サンプル値
情報セキュリティに関するポリシー	セキュリティと設定に関するポリシー 10.1.1 - 情報セキュリティに関するポリシー - 情報セキュリティポリシー	セキュリティチームが所有し、維持する情報セキュリティポリシーはありますか？	情報セキュリティポリシーがあるかどうかを記載します。「はい」の場合は、手動による証拠を共有またはアップロードしてください。	はい。NIST フレームワークに基づいてセキュリティポリシーを構築します。
	セキュリティと設定に関するポリシー 10.1.2 - 情報セキュリティに関するポリシー - ポリシーのレビュー	すべてのセキュリティポリシーは、毎年レビューされていますか？	セキュリティポリシーを毎年レビューするかどうかを記載します。「いいえ」の場合、ポリシーはどのくらいの頻度でレビューされますか？	はい。毎年レビューされます。
セキュリティ設定に関するポリシー	セキュリティと設定に関するポリシー 10.2.1 - セキュリティ設定に関するポリシー - セキュリティ設定 (手動による認証が必要)	セキュリティ設定の標準は維持され、文書化されていますか？	すべてのセキュリティ設定の標準が維持され、文書化されているかどうかを記載します。「はい」の場合は、手動による証拠	あり

コントロール セット	コントロールタ イトル	コントロールの 説明	証拠収集の詳細	サンプル値
			を共有またはア ップロードして ください。	
	セキュリティと 設定に関するポ リシー 10.2.2 - セキュリティ 設定に関するポ リシー - セキュ リティ設定のレ ビュー (手動によ る認証が必要)	セキュリティ設 定は少なくと も年に 1 回レ ビューされてい ますか?	セキュリティ設 定を少なくとも 年 1 回レビュー するかどうかを 記載します。 「いいえ」の場 合は、レビュー の頻度を記載し てください。	はい。3 か月ご とにレビューさ れます。
	セキュリティと 設定に関するポ リシー 10.2.3 - セキュリティ設 定に関するポリ シー - 設定の変 更	設定の変更は記 録されますか?	設定の変更を記 録するかどうか を指定してくだ さい。「はい」 の場合、ログは どのくらいの期 間保持されます か?	はい。設定の変 更はすべてモニ タリングされ、 記録されます。 設定が変更され るとアラートが 生成されます。 ログは 6 か月間 保持されます。

AWS Marketplace Vendor Insights を使用して購入者としてスナッ プショットをエクスポートする

スナップショットは、セキュリティプロファイルの特定の時点の状態です。スナップショットをエク
スポートすることにより、データをダウンロードしてオフラインでの確認、証拠データの確認、製品
の比較を行うことができます。

JSON 形式または CSV 形式にエクスポートできます。

スナップショットをエクスポートする

1. AWS Management Console にサインインして、[AWS Marketplace コンソール](#) を開きます。
2. [ベンダーインサイト] を選択します。
3. [ベンダーインサイト] から製品を選択します。
4. [セキュリティとコンプライアンス] タブから [概要] セクションに移動し、[エクスポート] を選択します。
5. ドロップダウンリストから [ダウンロード (JSON)] または [ダウンロード (CSV)] を選択します。

AWS Marketplace Vendor Insights でのアクセスの制御

AWS Identity and Access Management (IAM) は、AWS リソースへのアクセスを制御するための AWS のサービスです。IAM は、追加費用なしで使用できる AWS のサービスです。管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に AWS Marketplace リソースの使用を許可する (アクセス許可を持たせる) かを制御します。AWS Marketplace Vendor Insights は IAM を使用して、販売者データ、評価、販売者の自己認証、および業界標準の監査レポートへのアクセスを制御します。

AWS Marketplace 管理ポータル で許可する操作とユーザーを制御する方法として、IAM を使用してユーザーおよびグループを作成することをお勧めします。次に、そのユーザーをグループに追加してグループを管理します。読み取り専用のアクセス許可を付与するポリシーまたはアクセス許可をグループに割り当てます。読み取り専用アクセスが必要なユーザーが他にもいる場合は、アクセス許可を AWS アカウント に許可するのではなく、作成したグループにそれらのユーザーを追加します。

ポリシーは、ユーザー、グループ、またはロールに適用されるアクセス許可を定義したドキュメントです。AWS でユーザーができることを決定するアクセス許可。ポリシーでは通常、特定のアクションへのアクセスを許可し、オプションで、それらのアクションを Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなどの特定のリソースで実行することを許可することができます。また、ポリシーにより、アクセスを明示的に拒否することもできます。アクセス許可は、特定のリソースへのアクセスを許可または拒否するポリシー内のステートメントです。

Important

作成したすべてのユーザーは、自分の認証情報を使用して認証します。ただし、同じ AWS アカウント を使用します。ユーザーが行った変更はアカウント全体に影響を及ぼす可能性があります。

AWS Marketplace には、そのようなアクセス許可が付与されたユーザーが AWS Marketplace 管理ポータルで実行できるアクションを制御するために定義されたアクセス許可があります。また、AWS Marketplace によって作成されたポリシーもあります。これは、複数のアクセス許可を組み合わせたものです。AWSMarketplaceSellerProductsFullAccess ポリシーでは、ユーザーに AWS Marketplace 管理ポータルの製品へのフルアクセスを許可します。

アクション、リソース、条件キーの詳細については、「サービス認証リファレンス」の「[AWS Marketplace Vendor Insights 用のアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。

AWS Marketplace Vendor Insights 購入者のアクセス許可

AWS Marketplace Vendor Insights の IAM ポリシーで、次のアクセス許可を使用できます。アクセス許可を 1 つの IAM ポリシーにまとめて、必要なアクセス許可を付与できます。

GetProfileAccessTerms

GetProfileAccessTerms では、ユーザーは AWS Marketplace Vendor Insights プロファイルの確認、承認、アクセスに必要な条件を取得できます。

アクショングループ: 読み取り専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile。

ListEntitledSecurityProfiles

ListEntitledSecurityProfiles では、ユーザーは有効な読み取り権限を持つすべてのセキュリティプロファイルを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、リスト専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: なし

ListEntitledSecurityProfileSnapshots

ListEntitledSecurityProfileSnapshots では、ユーザーは有効な SecurityProfile の読み取り権限を持つセキュリティプロファイルのセキュリティプロファイルスナップショットを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、リスト専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile

GetEntitledSecurityProfileSnapshot

GetEntitledSecurityProfileSnapshot では、ユーザーは有効な読み取り権限を持つセキュリティプロファイルのセキュリティプロファイルスナップショットを一覧表示できます。

アクショングループ: 読み取り専用、読み取り/書き込み。

必要なリソース: SecurityProfile

のセキュリティ AWS Marketplace

当社では、高品質の販売者のソフトウェアを一覧表示し、当社の選択の品質の維持に積極的に取り組んでいます。のすべてのお客様は異なるため、に記載されている製品に関する十分な情報を提供し、顧客が適切な購入決定を下せるように AWS Marketplace することが当社の目標です。

Note

AWS Data Exchange のデータ製品のセキュリティについては、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[セキュリティ](#)」を参照してください。

の販売者のセキュリティの詳細については AWS Marketplace、「販売者AWS Marketplace ガイド」の[AWS Marketplace 「セキュリティ」](#)を参照してください。

販売者と共有されるサブスクリバードータ

当社は、以下の理由により、販売者の連絡先情報を当社の販売者と共有することがあります。

- カスタマートレーニングとテクニカルサポートを提供する必要がある場合。
- ソフトウェアのアクティベーション、設定、およびコンテンツのカスタマイズに使用する場合。
- 販売チームに社内で補償する場合。

さらに、販売者が販売チームに報酬を支払うために、会社名、住所、使用料などの情報を販売者と共有することがあります。また、ベンダーがマーケティングキャンペーンの有効性を評価できるように、当社が特定の情報を販売者と共有することもあります。販売者は、この情報をすでに所有している情報と共に使用して、販売チームに対する報酬や特定の購入者の使用法を決定することができます。

そうでない場合は、当社では通常、購入者の情報を販売者と共有することはなく、共有する情報は個人を特定できる情報ではありません。ただし、購入者が個人情報を共有することを当社に許可している場合、もしくは法律や規制に準拠するためにその情報を販売者に提供することが必要であると当社が認めた場合を除きます。

IAM ポリシーを IPv6 にアップグレードする

AWS Marketplace のお客様は、IAM ポリシーを使用して IP アドレスの許容範囲を設定し、設定した範囲外の IP アドレスが AWS Marketplace リソースにアクセスできないようにします。

AWS Marketplace ウェブサイトドメインは IPv6 プロトコルにアップグレードされています。

IPv6 アドレスの処理用に更新されていない IP アドレスのフィルタリングポリシーでは、AWS Marketplace ウェブサイトのリソースにクライアントがアクセスできなくなる場合があります。

IPv4 から IPv6 に移行する際、影響を受けるお客様

デュアルアドレス指定を使用しているお客様は、このアップグレードの影響を受けます。デュアルアドレス指定とは、ネットワークが IPv4 と IPv6 の両方をサポートすることを意味します。

デュアルアドレス指定を使用している場合は、現在 IPv4 形式のアドレスで構成されている IAM ポリシーを、IPv6 形式のアドレスを含むように更新する必要があります。

アクセスに関する問題については、[サポート](#) にお問い合わせください。

Note

次のお客様は、アップグレードの影響を受けません。

- IPv4 ネットワークのみを利用しているお客様。
- IPv6 ネットワークのみを利用しているお客様。

IPv6 とは

IPv6 は、最終的に IPv4 を IPv6 に置き換えることを意図した次世代の IP 規格です。以前のバージョンの IPv4 は、32 ビットのアドレス指定方式を使用して 43 億台のデバイスをサポートしていました。IPv6 は代わりに 128 ビットのアドレス指定を使用して、約 340 兆 x1 兆倍 x1 兆倍 (つまり 2 の 128 乗) のデバイスをサポートします。

```
2001:cdba:0000:0000:0000:0000:3257:9652
2001:cdba:0:0:0:0:3257:9652
2001:cdba::3257:965
```

IPv6 用の IAM ポリシーを更新する

現在、IAM ポリシーは、aws:SourceIp フィルターを使用して IP アドレスの許容範囲を設定するために使用されています。

デュアルアドレス指定では、IPv4 と IPv6 の両方のトラフィックをサポートしています。ネットワークでデュアルアドレス指定を使用している場合、IP アドレスフィルタリングに使用されている IAM ポリシーが、IPv6 のアドレス範囲を含むように更新されていることを確認する必要があります。

例えば、この IAM アイデンティティベースのポリシーは、Condition 要素で許可された IPv4 アドレス CIDR 範囲 192.0.2.0/24 と 203.0.113.0/24 を識別します。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Deny",
      "Action": "*",
      "Resource": "*",
      "Condition": {
        "NotIpAddress": {
          "aws:SourceIp": [
            "192.0.2.0/24",
            "203.0.113.0/24"
          ]
        },
        "Bool": {
          "aws:ViaAWSService": "false"
        }
      }
    }
  ]
}
```

IAM アイデンティティベースのポリシー例の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[AWS: ソース IP に基づく AWS へのアクセス拒否](#)」を参照してください。

このポリシーを更新するには、Condition 要素を IPv6 アドレス範囲の 2001:DB8:1234:5678::/64 と 2001:cdba:3257:8593::/64 を含むように更新します。

Note

既存の IPv4 アドレスは下位互換性のために必要なため、削除しないでください。

```
"Condition": {
```

```
"NotIpAddress": {
  "aws:SourceIp": [
    "192.0.2.0/24", <<DO NOT remove existing IPv4 address>>
    "203.0.113.0/24", <<DO NOT remove existing IPv4 address>>
    "2001:DB8:1234:5678::/64", <<New IPv6 IP address>>
    "2001:cdba:3257:8593::/64" <<New IPv6 IP address>>
  ]
},
"Bool": {
  "aws:ViaAWSService": "false"
}
}
```

IAM によるアクセス許可の管理の詳細については、「AWS Identity and Access Management ユーザーガイド」の「[マネージドポリシーとインラインポリシー](#)」を参照してください。

IPv4 から IPv6 に更新した後のネットワークのテスト

IAM ポリシーを IPv6 形式に更新した後、ネットワークが IPv6 エンドポイントにアクセスし、AWS Marketplace ウェブサイト機能を使用できるかをテストできます。

トピック

- [Linux/UNIX または Mac OS X を使用したネットワークのテスト](#)
- [Windows 7 または Windows 10 でネットワークをテストする](#)
- [AWS Marketplace ウェブサイトをテストする](#)

Linux/UNIX または Mac OS X を使用したネットワークのテスト

Linux/Unix または Mac OS X を使用している場合、次の curl コマンドを使用して、ネットワークが IPv6 エンドポイントにアクセスしているかどうかをテストできます。

```
curl -v -s -o /dev/null http://ipv6.ec2-reachability.amazonaws.com/
```

例えば、IPv6 で接続している場合、接続されている IP アドレスには、次の情報が表示されます。

```
* About to connect() to aws.amazon.com port 443 (#0)
* Trying IPv6 address... connected
```

```
* Connected to aws.amazon.com (IPv6 address) port 443 (#0)
> GET / HTTP/1.1
> User-Agent: curl/7.18.1 (x86_64-unknown-linux-gnu) libcurl/7.18.1 OpenSSL/1.0.1t
zlib/1.2.3
> Host: aws.amazon.com
```

Windows 7 または Windows 10 でネットワークをテストする

Windows 7 または Windows 10 を使用している場合、ネットワークが IPv6 または IPv4 でデュアルスタックのエンドポイントにアクセスできるかどうかをテストできます。次の例に示すように ping コマンドを使用します。

```
ping aws.amazon.com
```

IPv6 経由でエンドポイントにアクセスしている場合、このコマンドは IPv6 アドレスを返します。

AWS Marketplace ウェブサイトをテストする

更新後の AWS Marketplace ウェブサイト機能のテストは、主にポリシーの記述方法と使用目的によって異なります。一般的には、ポリシーで指定されている機能が意図したとおりに動作することを確認する必要があります。

次のシナリオは、AWS Marketplace ウェブサイトの機能のテストを開始する際に役立ちます。

AWS Marketplace ウェブサイトの購入者として、次のタスクを実行できるかどうかをテストします。

- AWS Marketplace 製品をサブスクライブする。
- AWS Marketplace 製品を設定する。
- AWS Marketplace 製品を起動またはフルフィルメントする。

AWS Marketplace ウェブサイトの販売者として、次のタスクを実行できるかどうかをテストします。

- 既存の AWS Marketplace 製品を管理する。
- AWS Marketplace 製品を作成する。

AWS Marketplace サブスクリプションへのアクセスのコントロール

AWS IAM Identity Center は、ワークフォース ID を安全に作成または接続し、AWS アカウント およびアプリケーション間で一元的にアクセスを管理するのに役立ちます。IAM Identity Center は、規模や種類を問わず、AWS で従業員の認証と認可を行うために推奨されるアプローチです。その他の設定ガイダンスについては、[AWS「セキュリティリファレンスアーキテクチャ」](#)を参照してください。

IAM Identity Center には、ユーザーが自分に割り当てられている AWS アカウント、ロール、クラウドアプリケーション、カスタムアプリケーションを一元的に検索してアクセスできるユーザーポータルが含まれます。IAM Identity Center は、接続先ディレクトリのユーザーとグループにシングルサインオンアクセスを割り当て、ユーザーはアクセス権許可セットを使用してアクセスレベルを決定します。これにより、一時的なセキュリティ認証情報を有効にします。AWS 組織全体の AWS Marketplace サブスクリプションの管理を委任 AWS Marketplace するためのアクセスに特定の AWS マネージドロールを割り当てることで、アクセスのレベルを定義できます。

例えば、顧客 A は、そのロールにアタッチされた ManagedMarketplace_ViewOnly ポリシーとのフェデレーションによってロールを引き受けます。つまり、顧客 A は AWS Marketplace のサブスクリプションのみを表示できるということになります。サブスクリプションを閲覧するアクセス許可を持つ IAM ロールを作成し、顧客 A に[このロールを引き受ける](#)権限を付与できます。

AWS Marketplace アクセスの IAM ロールの作成

IAM ロールを使用して、AWS リソースへのアクセスを委任できます。

アクセス AWS Marketplace 許可を割り当てる IAM ロールを作成するには

1. [IAM コンソール](#)を開きます。
2. 左側のナビゲーションペインから、[Roles] (ロール) を選択してから、[Create role] (ロールの作成) をクリックします。
3. を選択します AWS アカウント。
4. [アクセス許可を追加] から、次のポリシーのいずれかを選択します。
 - サブスクリプションを表示するのみ (変更はできない) のアクセス許可を付与するには、[AWSMarketplaceRead-only] を選択します。
 - サブスクリプションやサブスクリプション解除のアクセス許可を付与するには、[AWSMarketplaceManageSubscriptions] を選択します。

- サブスクリプションの完全な統制を許可するには、[AWSMarketplaceFullAccess] を選択します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
 6. [ロール名] に、ロールの名前を入力します。例えば、[\[MarketplaceReadOnly\]](#) や [\[MarketplaceFullAccess\]](#) などです。次に、[Create role (ロールの作成)] を選択します。詳細については、「[IAM ロールの作成](#)」を参照してください。

Note

指定したアカウントの管理者は、そのアカウントのすべてのユーザーに、このロールを引き受けるアクセス許可を付与できます。

前述のステップを繰り返し、異なるアクセス許可セットを持つロールを追加で作成し、各ユーザーのペルソナが、カスタマイズされたアクセス許可を持つ IAM ロールを使用できるようにします。

ここで説明する AWS 管理ポリシーのアクセス許可に制限はありません。IAM を使用して、カスタムアクセス許可を持つポリシーを作成し、そのポリシーを IAM ロールに追加できます。詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」の「[IAM ポリシーの管理](#)」および「[IAM ID アクセス許可の追加](#)」を参照してください。

AWS の マネージドポリシー AWS Marketplace

AWS 管理ポリシーを使用して、基本的な AWS Marketplace アクセス許可を付与できます。次に、任意のシナリオで独自のポリシーを作成し、シナリオ用の特定の要件を持つロールに適用できます。次の基本的な AWS Marketplace 管理ポリシーを使用して、どのユーザーがどのアクセス許可を持っているかを制御できます。

次のリンクから、[AWS マネージドポリシーリファレンス](#)に移動します。

- [AWSMarketplaceRead-only](#)
- [AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)
- [AWSPrivateMarketplaceRequests](#)
- [AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)
- [AWSMarketplaceFullAccess](#)

AWS Marketplace は、特定のシナリオに特化した マネージドポリシーも提供します。AWS Marketplace 購入者向けの AWS マネージドポリシーの完全なリストと、購入者が提供するアクセス許可の説明については、[AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシー](#)このセクションの「」を参照してください。

License Manager で使用するアクセス許可

AWS Marketplace はと統合 AWS License Manager して、組織内のアカウント間でサブスクライブする製品のライセンスを管理および共有します。でサブスクリプションの詳細をすべて表示するには AWS Marketplace、ユーザーがライセンス情報を一覧表示できる必要があります AWS License Manager。

AWS Marketplace 製品とサブスクリプションに関するすべてのデータを表示するために必要なアクセス許可がユーザーに付与されていることを確認するには、次のアクセス許可を追加します。

- `license-manager:ListReceivedLicenses`

アクセス許可の設定の詳細については、「[IAM ユーザーガイド](#)」の「IAM ポリシーの管理」を参照してください。

追加リソース

IAM ロールの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[IAM アイデンティティ \(ユーザー、ユーザーグループ、ロール\)](#)」を参照してください。

IAM アクセス許可とポリシーの管理の詳細については、IAM ユーザーガイドの「[ポリシーを使用した AWS リソースへのアクセスの制御](#)」を参照してください。

AWS Data Exchange のデータ製品の IAM アクセス許可とポリシーの管理の詳細については、「AWS Data Exchange ユーザーガイド」の「[AWS Data Exchange でのアイデンティティとアクセス管理](#)」を参照してください。

AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシー

AWS 管理ポリシーは、によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するように設計されているため、ユーザー、グループ、ロールにアクセス許可の割り当てを開始できます。

AWS 管理ポリシーは、すべての AWS お客様が使用できるため、特定のユースケースに対して最小特権のアクセス許可を付与しない場合があります。ユースケースに固有の [カスタマー管理ポリシー](#) を定義して、アクセス許可を絞り込むことをお勧めします。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可は変更できません。が AWS 管理ポリシーで定義されたアクセス許可 AWS を更新すると、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパル ID (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。AWS のサービスは、新しいが起動されたとき、または既存のサービスで新しい API オペレーションが利用可能になったときに、AWS 管理ポリシーを更新する可能性が最も高くなります。

詳細については「IAM ユーザーガイド」の「[AWS マネージドポリシー](#)」を参照してください。

このセクションには、購入者の AWS Marketplace へのアクセスを管理するために使用される各ポリシーが記載されています。販売者ポリシーの詳細については、「販売者 AWS Marketplace ガイド」の [AWS Marketplace 「販売者向け マネージドポリシー」](#) を参照してください。

トピック

- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceFullAccess](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceRead-only](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceRequests](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSVendorInsightsAssessorFullAccess](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSVendorInsightsAssessorReadOnly](#)
- [AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#)
- [AWS マネージドポリシーに関する AWS Marketplace の更新](#)

AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy

IAM エンティティに AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、ユーザーに代わって AWS Marketplace がアクションを実行する

ことを許可する、サービスにリンクされたロールにアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、ユーザーに代わって AWS Marketplace にシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを [AWS Secrets Manager](#) が管理できるようにする 寄稿者アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceFullAccess

AWSMarketplaceFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、購入者および販売者として、AWS Marketplace および関連サービスへのフルアクセスを許可する管理アクセス許可を付与します。これらのアクセス許可には、AWS Marketplace ソフトウェアのサブスクライブとサブスクライブ解除、からの AWS Marketplace ソフトウェアインスタンスの管理 AWS Marketplace、アカウントでのプライベートマーケットプレイスの作成と管理、Amazon EC2 AWS CloudFormation、および Amazon EC2 Systems Manager へのアクセスが含まれます。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceFullAccess](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー:

AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy

IAM エンティティに AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、がユーザーに代わってアクションを実行することを許可するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace にアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、がユーザーに代わってライセンスを管理 AWS Marketplace できるようにする 寄稿者アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceManageSubscriptions

AWSMarketplaceManageSubscriptions ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、寄稿者に AWS Marketplace 製品のサブスクリプションとサブスクリプション解除を許可するアクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceManageSubscriptions](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー:

AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess

AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、組織内のアカウントの一覧表示など、AWS Marketplace eProcurement の統合のあらゆる側面を管理できる管理者権限を付与します。eProcurement 統合の詳細については、「[AWS Marketplace 調達システムとの統合](#)」を参照してください。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceProcurementSystemAdminFullAccess](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSMarketplaceRead-only

AWSMarketplaceRead-only ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、アカウントの製品、プライベートオファー、サブスクリプションの表示、およびアカウントの Amazon EC2 AWS Marketplace、AWS Identity and Access Management および Amazon SNS リソースの表示を許可する読み取り専用アクセス許可を付与します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSMarketplaceRead-only](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、アカウント (または組織) 内のプライベートマーケットプレイスを管理するためのフルアクセスを許可する管理者権限を付与します。複数の管理者を使用する方法の詳細については、「[the section called “プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例”](#)」を参照してください。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSPrivateMarketplaceRequests

AWSPrivateMarketplaceRequests ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーでは、プライベートマーケットプレイスへの製品の追加をリクエストしたり、それらのリクエストを閲覧したりするためのアクセス許可を寄稿者に付与します。これらのリクエストは、プライベートマーケットプレイスの管理者によって承認または拒否される必要があります。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSPrivateMarketplaceRequests](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー:

AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy

IAM エンティティに AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy をアタッチすることはできません。このポリシーは、ユーザーに代わって AWS Marketplace がアクションを実行することを許可する、サービスにリンクされたロールにアタッチされます。詳細については、「[AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用](#)」を参照してください。

このポリシーは、が Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述 AWS Marketplace できるようにする寄稿者アクセス許可を付与します AWS Organizations。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSVendorInsightsAssessorFullAccess

AWSVendorInsightsAssessorFullAccess ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできません。

このポリシーは、資格のある AWS Marketplace Vendor Insights リソースを表示し、AWS Marketplace Vendor Insights サブスクリプションを管理するためのフルアクセスを付与します。これ

らのリクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、サードパーティーのレポートへの読み取り専用アクセスが許可され AWS Artifact ます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、評価者が購入者と等しく、ベンダーが販売者と等しいことを示します。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSVendorInsightsAssessorFullAccess](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSVendorInsightsAssessorReadOnly

AWSVendorInsightsAssessorReadOnly ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、権限を持つ AWS Marketplace Vendor Insights リソースを表示するための読み取り専用アクセスを許可します。これらのリクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、 のレポートへの読み取り専用アクセスが許可されます AWS Artifact。

リクエストは、管理者によって承認または拒否される必要があります。これにより、サードパーティーのレポートへの読み取り専用アクセスが許可され AWS Artifact ます。

AWS Marketplace Vendor Insights は、このガイドの目的上、評価者を購入者として識別し、ベンダーは販売者と等しくなります。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSVendorInsightsAssessorReadOnly](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシー: AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy ポリシーを IAM アイデンティティにアタッチできます。

このポリシーは、AWS 組織内のリソースデータ AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy へのアクセスを許可します。AWS Marketplace は、データを使用して [調達インサイトダッシュボード](#) にデータを入力します。ダッシュボードを使用すると、管理アカウントを持つ購入者は、組織内のすべてのアカウントにわたるすべての契約を表示できます。

このポリシーのアクセス許可を確認するにはAWS マネージドポリシーリファレンスの「[AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy](#)」を参照してください。

AWS マネージドポリシーに関するAWS Marketplace の更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始 AWS Marketplace してからの の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動通知については、 の RSS フィードをサブスクライブしてください。AWS Marketplace [AWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメント履歴](#)

Note

AWS Marketplace Vendor Insights では、このガイドの目的上、評価者は購入者と等しく、ベンダーは販売者と等しくなります。

変更	説明	日付
AWSMarketplaceRead-only および AWSMarketplaceManagedSubscriptions — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、AWS Marketplace コンソールでの契約料金の一覧表示と発注書の更新をサポートするように既存のポリシーを更新しました。	2024 年 11 月 21 日
AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy を追加しました。	AWS Marketplace Organizations のデータにアクセスして記述するための新しいポリシーが追加されました。はデータ AWS Marketplace を使用して 調達インサイトダッシュボード にデータを入力します。	2024 年 10 月 3 日
レガシーAWSMarketplaceImageBuildFullAccess AWS Marketplace ポリシーを削除しました	AWS Marketplace は Private Image Build 配信方法を停止したため、AWSMarketplaceImageBuildFullAccess ポリシーも廃止されました。	2024 年 5 月 30 日

変更	説明	日付
AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy — 新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace は、Private Marketplace リソースの管理と説明をサポートする新しいポリシーを追加しました AWS Organizations。	2024 年 2 月 16 日
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、データの読み取り AWS Organizations をサポートするようにポリシーを更新しました。	2024 年 2 月 16 日
AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy — 新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace は、デプロイ関連のパラメータの管理をサポートする新しいポリシーを追加しました。	2023 年 11 月 29 日
AWSMarketplaceRead-only および AWSMarketplaceManageSubscriptions — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、プライベートオファページへのアクセスを許可するように既存のポリシーを更新しました。	2023 年 1 月 19 日
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace により新しいタグベースの認可機能のポリシーが更新されました。	2022 年 12 月 9 日
AWSVendorInsightsAssessorReadOnly AWS Marketplace が更新された AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	AWS Marketplace が更新されAWSVendorInsightsAssessorReadOnly、AWS Artifact サードパーティーレポート (プレビュー) のレポートへの読み取り専用アクセスが追加されました。	2022 年 11 月 30 日

変更	説明	日付
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess AWS Marketplace が更新されました AWSVendorInsightsAssessorFullAccess	AWS Marketplace が更新されAWSVendorInsightsAssessorFullAccess、AWS Artifact サードパーティーレポート (プレビュー) への契約検索と読み取り専用アクセスが追加されました。	2022 年 11 月 30 日
AWSVendorInsightsAssessorFullAccess および AWSVendorInsightsAssessorReadOnly — 新機能のポリシーを追加 AWS Marketplace	AWS Marketplace AWS Marketplace Vendor Insights の新機能である AWSVendorInsightsAssessorFullAccess およびのポリシーが追加されました。AWSVendorInsightsAssessorReadOnly	2022 年 7 月 26 日
AWSMarketplaceFullAccess および AWSMarketplaceImageBuildFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace セキュリティを向上させるためにが不要なアクセス許可を削除しました。	2022 年 3 月 4 日
AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace は、未使用のアクセス許可をAWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーから削除しました。	2021 年 8 月 27 日
AWSMarketplaceFullAccess — 既存のポリシーの更新	AWS Marketplace がAWSMarketplaceFullAccess ポリシーから重複するec2:DescribeAccountAttributes アクセス許可を削除しました。	2021 年 7 月 20 日

変更	説明	日付
AWS Marketplace が変更の追跡を開始しました	AWS Marketplace が AWS マネージドポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 4 月 20 日

AWS Marketplaceのサービスにリンクされたロールの使用

AWS Marketplace は AWS Identity and Access Management (IAM) [サービスにリンクされたロール](#)を使用します。サービスにリンクされたロールは、直接リンクされた一意のタイプの IAM ロールです。AWS Marketplace。サービスリンクロールは、AWS Marketplace による事前定義済みのロールであり、ユーザーに代わってサービスから他の AWS のサービスを呼び出すために必要なすべてのアクセス許可を備えています。

サービスにリンクされたロールを使用すると、必要なアクセス許可を手動で追加する必要がなくなるため、の設定 AWS Marketplace が簡単になります。は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可 AWS Marketplace を定義し、特に定義されている場合を除き、のみがそのロールを引き受け AWS Marketplace することができます。定義された許可には、信頼ポリシーと許可ポリシーが含まれます。この許可ポリシーを他の IAM エンティティにアタッチすることはできません。

サービスにリンクされたロールをサポートする他のサービスについては、「[IAM と連動するAWS サービス](#)」を参照し、[サービスにリンクされたロール] の列内で [はい] と表記されたサービスを探してください。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] を選択します。

AWS Marketplace のサービスリンクロールの作成

AWS Marketplace は、AWS License Manager との統合をセットアップする前に、お客様に代わってサービスにリンクされたロールを作成します。

AWS Marketplace によって、組織内のすべてのアカウントに対して一度にサービスにリンクされたロールを作成するか、1つのアカウントに対して一度にサービスリンクロールを作成するように指定するかを指定できます。すべてのアカウントでサービスにリンクされたロールを作成するオプションは、組織で [すべての機能] が有効になっている場合にのみ使用できます。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「[組織内のすべての機能の有効化](#)」を参照してください。

すべてのアカウントでサービスにリンクされたロールを作成するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)でサインインし、[設定] を選択します。
2. [AWS Organizations 統合] セクションで、[統合を作成] を選択します。
3. [AWS Organizations 統合を作成] ページで、[組織全体で信頼できるアクセスを有効にする] を選択し、[統合を作成] を選択します。

 Note

この設定により、AWS Organizations 内の信頼が可能になります。その結果、現在のアクションに加えて、今後組織に追加されるアカウントには、サービスにリンクされたロールが自動的に追加されます。

現在のアカウントにサービスにリンクされたロールを作成するには

1. [AWS Marketplace コンソール](#)でサインインし、[設定] を選択します。
2. [AWS Organizations 統合] セクションで、[統合を構成する] を選択します。
3. [AWS Organizations 統合を作成] ページで、[このアカウントの AWS Marketplace ライセンス管理サービスにリンクされたロール] を選択し、次に [統合を作成] を選択します。

 Important

現在のアカウントに対してのみサービスにリンクされたロールを作成することを選択した場合、組織全体で信頼されたアクセスを有効にすることはできません。AWS Marketplace ライセンスを共有 (付与または受領) するアカウントごとに、これらの手順を繰り返す必要があります。これには、組織に今後追加されるアカウントも含まれます。

AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールの編集

AWS Marketplace では、このサービスリンクロールを編集することはできません。サービスリンクロールを作成した後は、多くのエンティティによってロールが参照される可能性があるため、ロール名を変更することはできません。ただし、IAM を使用したロールの説明の編集はできます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「サービスリンクロールの編集」を参照してください。

AWS Marketplace のサービスリンクロールの削除

サービスリンクロールが必要な機能またはサービスが不要になった場合には、そのロールを削除することをお勧めします。そうすることで、積極的にモニタリングまたは保守されていない未使用のエンティティを排除できます。ただし、手動で削除する前に、サービスにリンクされたロールのリソースをクリーンアップする必要があります。

Note

リソースを削除する際に、AWS Marketplace のサービスでロールが使用されている場合、削除は失敗することがあります。その場合は、数分待ってからオペレーションを再試行してください。

IAM を使用してサービスリンクロールを手動で削除するには

IAM コンソール、AWS CLI、または AWS API を使用し

て、`AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement` サービスリンクロールを削除します。詳細については、IAM ユーザーガイドの「[サービスにリンクされたロールの削除](#)」を参照してください。

AWS Marketplace のサービスにリンクされたロールをサポートするリージョン

AWS Marketplace は、サービスが利用可能なすべての AWS リージョンでサービスにリンクされたロールの使用をサポートします。詳細については、「[AWS Marketplace リージョンとエンドポイント](#)」を参照してください。

の使用権限を共有するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS 組織内の他のアカウントに AWS Marketplace サブスクリプションをと共有するには AWS License Manager、共有するアカウントごとに アクセス AWS Marketplace 許可を付与する必要があります。これを行うには、`AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement` ロールを使用します。このロールは、サブスクライブする製品のライセンスを AWS License Manager で作成および管理するためのアクセス許可 AWS Marketplace をに付与します AWS Marketplace。

`AWSServiceRoleForMarketplaceLicenseManagement` のサービスにリンクされたロールは、お客様に代わって License Manager でアクションを実行するために、次のサービスを信頼します。

- `license-management.marketplace.amazonaws.com`

AWS Marketplace は、指定したリソースで以下のアクションを実行することを `AWSMarketplaceLicenseManagementServiceRolePolicy` に許可します。

- アクション:
 - `"organizations:DescribeOrganization"`
 - `"license-manager:ListReceivedGrants"`
 - `"license-manager:ListDistributedGrants"`
 - `"license-manager:GetGrant"`
 - `"license-manager:CreateGrant"`
 - `"license-manager:CreateGrantVersion"`
 - `"license-manager>DeleteGrant"`
 - `"license-manager:AcceptGrant"`
- リソース:
 - すべてのリソース ("*")

サービスリンクロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するには、アクセス許可を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[サービスリンクされたロールのアクセス許可](#)」を参照してください。

で発注書进行操作するためのサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS Marketplace は、`AWSServiceRoleForMarketplacePurchaseOrders` という名前のサービスにリンクされたロールを使用します。このロールは、`AWSServiceRoleForMarketplacePurchaseOrders` の AWS Marketplace サブスクリプションに発注書番号をアタッチする AWS Marketplace アクセス許可を提供します。AWS Billing and Cost Management。

`AWSServiceRoleForMarketplacePurchaseOrders` サービスにリンクされたロールは、以下のサービスを信頼して、ロールを推測します。

- `purchase-orders.marketplace.amazonaws.com`

AWS Marketplace は、指定したリソースで以下のアクションを実行することを `AWSMarketplacePurchaseOrdersServiceRolePolicy` に許可します。

- アクション: "*" 上で "purchase-orders:ViewPurchaseOrders", "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders"

サービスにリンクされたロールの作成、編集、削除を IAM エンティティ (ユーザー、グループ、ロールなど) に許可するには、権限を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

で製品を設定および起動するためのサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS Marketplace は、という名前のサービスにリンクされたロールを使用して、[AWS Secrets Manager](#) AWS Marketplace がユーザーに代わってにシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理 `AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment` できるようにします。これらのシークレットは AWS CloudFormation、テンプレートで販売者が参照できます。テンプレートは、でクイック起動が有効になっている製品を設定するときに起動できます AWS Marketplace。

`AWSServiceRoleForMarketplaceDeployment` サービスリンク役割は役割の引き受けについて以下のサービスを信頼します。

- `deployment.marketplace.amazonaws.com`

`AWSMarketplaceDeploymentServiceRolePolicy` は、リソースで以下のアクションを実行することを AWS Marketplace に許可します。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、「」を参照してください [AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシー](#)。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ManageMarketplaceDeploymentSecrets",
```

```
"Effect": "Allow",
"Action": [
  "secretsmanager:CreateSecret",
  "secretsmanager:PutSecretValue",
  "secretsmanager:DescribeSecret",
  "secretsmanager>DeleteSecret",
  "secretsmanager:RemoveRegionsFromReplication"
],
"Resource": [
  "arn:aws:secretsmanager:*:*:secret:marketplace-deployment*!*"
],
"Condition": {
  "StringEquals": {
    "aws:ResourceAccount": "${aws:PrincipalAccount}"
  }
},
{
  "Sid": "ListSecrets",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "secretsmanager:ListSecrets"
  ],
  "Resource": [
    "*"
  ],
},
{
  "Sid": "TagMarketplaceDeploymentSecrets",
  "Effect": "Allow",
  "Action": [
    "secretsmanager:TagResource"
  ],
  "Resource": "arn:aws:secretsmanager:*:*:secret:marketplace-deployment!*",
  "Condition": {
    "Null": {
      "aws:RequestTag/expirationDate": "false"
    },
    "ForAllValues:StringEquals": {
      "aws:TagKeys": [
        "expirationDate"
      ]
    }
  },
  "StringEquals": {
```

```
    "aws:ResourceAccount": "${aws:PrincipalAccount}"
  }
}
]
}
```

ユーザー、グループ、ロールなどがサービスにリンクされたロールを作成、編集、削除できるようにするには、アクセス権を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

で Private Marketplace を設定するサービスにリンクされたロール AWS Marketplace

AWS Marketplace は、という名前のサービスにリンクされたロール `AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin` を使用して、Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述します AWS Organizations。

`AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdmin` サービスリンク役割は役割の引き受けについて以下のサービスを信頼します。

- `private-marketplace.marketplace.amazonaws.com`

`AWSServiceRoleForPrivateMarketplaceAdminPolicy` ポリシーを使用すると、AWS Marketplace は、指定リソースで次のアクションを実行できます。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、このガイド [AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシーの「」](#) を参照してください。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogDescribePermissions",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:DescribeEntity"
      ]
    }
  ]
}
```

```

    ],
    "Resource": [
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Experience/*",
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Audience/*",
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/ProcurementPolicy/*",
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/BrandingSettings/*"
    ]
  },
  {
    "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogDescribeChangeSetPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:DescribeChangeSet"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "PrivateMarketplaceCatalogListPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:ListEntities",
      "aws-marketplace:ListChangeSets"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Sid": "PrivateMarketplaceStartChangeSetPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:StartChangeSet"
    ],
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "catalog:ChangeType": [
          "AssociateAudience",
          "DisassociateAudience"
        ]
      }
    },
    "Resource": [
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Experience/*",
      "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/ChangeSet/*"
    ]
  },

```

```
{
  {
    "Sid": "PrivateMarketplaceOrganizationPermissions",
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "organizations:DescribeAccount",
      "organizations:DescribeOrganizationalUnit",
      "organizations:ListDelegatedAdministrators",
      "organizations:ListChildren"
    ],
    "Resource": [
      "*"
    ]
  }
]
```

ユーザー、グループ、ロールなどがサービスにリンクされたロールを作成、編集、削除できるようにするには、アクセス権限を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

調達データを共有するサービスにリンクされたロール

AWS Marketplace は、AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy サービスにリンクされたロールを使用して、AWS 組織内のデータにアクセスして記述します。[\[調達インサイトダッシュボード\]](#) を使用するには、このロールを作成する必要があります。

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy サービスリンク役割は役割の引き受けについて以下のサービスを信頼します。

- `procurement-insights.marketplace.amazonaws.com`

AWSServiceRoleForProcurementInsightsPolicy を使用すると、AWS Marketplace は、指定リソースで次のアクションを実行できるようになります。

Note

AWS Marketplace 管理ポリシーの詳細については、「」を参照してください [AWS 購入者向けの AWS Marketplace マネージドポリシー](#)。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "ProcurementInsightsPermissions",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "organizations:DescribeAccount",
        "organizations:DescribeOrganization",
        "organizations:ListAccounts"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    }
  ]
}
```

ユーザー、グループ、ロールなどがサービスにリンクされたロールを作成、編集、削除できるようにするには、アクセス権限を設定する必要があります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「[Service-linked role permissions](#)」を参照してください。

プライベートマーケットプレイスの管理者の作成

会社の[プライベートマーケットプレイス](#)設定を管理するために、IT 管理者グループを作成できます。組織に対してプライベートマーケットプレイスが有効化されたら、プライベートマーケットプレイスの管理者は、次を含むさまざまなタスクを実行できます。

- エクスペリエンスとオーディエンスを表示して作成します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスに製品を追加します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスから製品を削除します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのユーザーインターフェイスを設定します。
- プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを有効または無効にします。
- AWS Marketplace Catalog API に連絡して、プライベートマーケットプレイス体験をプログラムで管理してください。

組織では、各管理者がタスクのサブセットに限定されている複数のプライベートマーケットプレイス管理者を作成するには、[the section called “プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例”](#) を参照してください。

Note

プライベートマーケットプレイスの有効化は、管理アカウントから実行する必要がある 1 回限りのアクションです。詳細については、「[プライベートマーケットプレイスの開始方法](#)」を参照してください。

[the section called “AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess”](#) をユーザー、グループ、またはロールにアタッチすることにより、プライベートマーケットプレイスを管理する AWS Identity and Access Management (IAM) アクセス許可を付与します。グループまたはロールを使用することをお勧めします。ポリシーのアタッチについては、「IAM ユーザーガイド」の「[Attaching a policy to a user group](#)」を参照してください。

AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess ポリシーのアクセス許可の詳細については、「[the section called “AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess”](#)」を参照してください。AWS Marketplace で使用するその他のポリシーについては、AWS Management Console にサインインして [IAM ポリシーページ](#) を参照してください。検索ボックスに「**Marketplace**」と入力して、AWS Marketplace に関連するすべてのポリシーを検索します。

プライベートマーケットプレイス管理者向けのポリシー例

組織では、各管理者によってタスクのサブセットに限定された複数のプライベートマーケットプレイス管理者を作成できます。AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーを調整して、[AWS Marketplace カatalog のアクション、リソース、および条件キー](#) に記載されている AWS Marketplace Catalog API アクションの条件キーとリソースを指定できます。AWS Marketplace Catalog API の変更タイプとリソースを使用する一般的な仕組みと IAM ポリシーを調整するリソースは、「[AWS Marketplace Catalog API ガイド](#)」で説明されています。プライベート AWS Marketplace で利用可能なすべての変更タイプの一覧については、「[プライベートマーケットプレイスの操作](#)」を参照してください。

カスタマー管理ポリシーの作成方法については、「[IAM ポリシーの作成](#)」を参照してください。次の例は、プライベートマーケットプレイスから商品を追加または削除することのみが可能な管理者を作成するために使用できるポリシー JSON です。

```
{
```

```
"Version": "2012-10-17",
"Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:AssociateProductsWithPrivateMarketplace",
      "aws-marketplace:DisassociateProductsFromPrivateMarketplace",
      "aws-marketplace:ListPrivateMarketplaceRequests",
      "aws-marketplace:DescribePrivateMarketplaceRequests"
    ],
    "Resource": [
      "*"
    ]
  },
  {
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:DescribeEntity",
      "aws-marketplace:ListEntities",
      "aws-marketplace:ListChangeSets",
      "aws-marketplace:DescribeChangeSet",
      "aws-marketplace:CancelChangeSet"
    ],
    "Resource": "*"
  },
  {
    "Effect": "Allow",
    "Action": [
      "aws-marketplace:StartChangeSet"
    ],
    "Condition": {
      "StringEquals": {
        "catalog:ChangeType": [
          "AllowProductProcurement",
          "DenyProductProcurement"
        ]
      }
    },
    "Resource": "*"
  }
]
```

ポリシーをプライベートマーケットプレイスのリソースの一部だけを管理するように制限することもできます。次の例は、特定のプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのみを管理できる管理者を作成するために使用できるポリシー JSON です。この例では、Experience 識別子として `exp-1234example` のリソース文字列を使用しています。

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:AssociateProductsWithPrivateMarketplace",
        "aws-marketplace:DisassociateProductsFromPrivateMarketplace",
        "aws-marketplace:ListPrivateMarketplaceRequests",
        "aws-marketplace:DescribePrivateMarketplaceRequests"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:ListEntities",
        "aws-marketplace:DescribeEntity",
        "aws-marketplace:ListChangeSets",
        "aws-marketplace:DescribeChangeSet",
        "aws-marketplace:CancelChangeSet"
      ],
      "Resource": "*"
    },
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-marketplace:StartChangeSet"
      ],
      "Resource": [
        "arn:aws:aws-marketplace:*:*:AWSMarketplace/Experience/exp-1234example"
      ]
    }
  ]
}
```

エンティティ識別子の取得方法とプライベートマーケットプレイスのリソースセットの表示方法について詳しくは、「[プライベートマーケットプレイスの操作](#)」を参照してください。

AWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメント履歴

以下の表は、本リリースのAWS Marketplace 購入者ガイドのドキュメントを説明するものです。

このドキュメントの更新に関する通知については、RSS フィードにサブスクライブできます。

変更	説明	日付
新しい Buy with AWS 機能のドキュメントを追加	で購入 AWSすると、購入者は販売者のウェブサイトやマーケットプレイス、シンプルな埋め込み call-to-action (CTA) ボタンなど、任意の選択肢から AWS Marketplace 出品を購入できます。お客様は、パートナーのウェブサイトで「利用可能 AWS Marketplace」な製品を調べたり、デモをリクエストしたり、無料トライアルにアクセスしたり、カスタム料金を要求したりできません。	2024 年 12 月 4 日
発注書と管理ポリシーの更新。	AWS Marketplace トランザクションと管理ポリシーの発注書 に加えられた変更 - AWSMarketplaceRead-only および AWSMarketplaceManageSubscriptions 。	2024 年 11 月 21 日
調達用にサービスにリンクされた新規ロール	AWS Marketplace は、Organizations のデータにアクセスして記述するためのサービスにリンクされたロールを提供するようになりました。はデータ AWS Marketplace を使用して 調達インサイト	2024 年 10 月 3 日

[ダッシュボード](#)にデータを入力します。

[ドキュメント構造を更新する](#)

このガイドを再構築して、ページビューやその他のデータを使用して、重要なトピックを見つけやすくしました。ナビゲーションが更新され、全体的な深度が削減されました。関連するトピックが統合され、ブックマークが更新された場所にアクセスできるようにリダイレクトが追加されました。

2024 年 8 月 16 日

[Amazon マシンイメージ \(AMI\) の年間契約変更オプションの更新](#)

購入者はサブスクリプションを変更することで、AMI インスタンスタイプを追加または切り替えることができるようになりました。

2024 年 5 月 30 日

[AWSMarketplaceImageBuildFullAccess ポリシーの削除](#)

AWS Marketplace は Private Image Build 配信方法を停止したため、AWSMarketplaceImageBuildFullAccess ポリシーも廃止されました。

2024 年 5 月 30 日

[の新しいデモとプライベートオファターのオプション AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace では、一部の製品の製品詳細ページで[デモ](#)および[プライベートオファター](#)のリクエストオプションがサポートされるようになりました。

2024 年 4 月 1 日

[AWS Organizations サポートのポリシーを更新しました](#)

マネージドポリシーを更新AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess して、AWS Organizations データの読み取りへのアクセスを許可しました。

2024 年 2 月 16 日

[での製品の新しいサービスにリンクされたロール AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace は、Private Marketplace リソースを記述および更新し、記述するためのサービスにリンクされたロールを提供するようになりました AWS Organizations。

2024 年 2 月 16 日

[での新しいプライベートマーケットプレイスエクスペリエンス AWS Marketplace](#)

AWS Marketplace は、との統合 AWS Organizations と、プライベートマーケットプレイスエクスペリエンスを管理するための委任管理者の登録機能をサポートするようになりました。

2024 年 2 月 16 日

[での将来の日付の契約の一般提供 AWS Marketplace](#)

すべての SaaS ISVs とチャネルパートナーの将来の日付の契約機能が一般公開されました AWS Marketplace。お客様は、将来の日付の契約を使用して、同じ製品出品で既存の製品を購入した場合に、取引を事前に予約したり、更新を設定したりできるため、運用上の労力を軽減できます。

2024 年 1 月 16 日

[カナダ西部 \(カルガリー\) リージョンでのサポート](#)

AWS Marketplace では、AWS リージョンカナダ西部 (カルガリー) がサポートされるようになりました。

2023 年 12 月 20 日

[での製品の新しいサービス
にリンクされたロール AWS
Marketplace](#)

AWS Marketplace は、購入者 AWS Secrets Manager に代わってシークレットとして保存されるデプロイ関連のパラメータを管理するサービスにリンクされたロールを提供するようになりました。

2023 年 11 月 29 日

[購入者向けの新しいクイック
起動デプロイオプション](#)

購入者は、AWS Marketplace での、該当する Software as a Service (SaaS) 製品の設定、展開、および発売に必要な時間、リソース、手順を削減できるようになりました。

2023 年 11 月 29 日

[プライベートオファー用の
Flexible Payment Schedule が
利用可能に](#)

プライベートオファー用の Flexible Payment Schedule (FPS) が AWS Marketplace のすべてのお客様に利用可能になりました。

2023 年 11 月 17 日

[Amazon EKS のサードパー
ティアドオン](#)

お客様は、Amazon EKS コンソールからサードパーティー製アドオンを AWS Marketplace にリダイレクトされずにサブスクライブできるようになりました。

2023 年 10 月 18 日

[Amazon EventBridge のサポー
ト](#)

AWS Marketplace は、以前は Amazon CloudWatch Events と呼ばれていた Amazon EventBridge と統合されました。

2023 年 9 月 6 日

[イスラエル \(テルアビブ\) リージョンのサポート](#)

AWS Marketplace は AWS リージョン、イスラエル (テルアビブ) をサポートするようになりました。

2023 年 8 月 1 日

[AMI 年間契約の発注書サポート](#)

AWS Marketplace は、Amazon マシンイメージ (AMI) 年間契約の発注書機能をサポートするようになりました。

2023 年 6 月 29 日

[AWS Billing コンソールでの発注書の可用性](#)

購入者は、AWS Billing コンソールですべての発注書を管理し、out-of-cycle SaaS 契約 PDF 請求書に対応する発注書と簡単に照合できるようになりました。

2023 年 2 月 3 日

[アジアパシフィック \(メルボルン\) リージョンのサポート](#)

AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (メルボルン) がサポートされるようになりました。

2023 年 1 月 24 日

[プライベートオファーページのポリシーを更新しました](#)

[プライベートオファー] ページへのアクセスを許可するようにマネージドポリシー `AWSMarketplaceRead-only` と `AWSMarketplaceManageSubscriptions` を更新しました。

2023 年 1 月 19 日

プライベートオファーページ	認証された購入者は、AWS Marketplace プライベートオファーページでに拡張されたAWS アカウント プライベートオファーを表示できるようになりました。	2023 年 1 月 19 日
購入者へのメール通知が更新されました	プライベートオファーが公開されると購入者に通知されるようになりました。	2022 年 12 月 22 日
AWS Marketplaceの購入者は、サブスクリプションのSaaS 無料トライアルを利用できるようにになりました	購入者は、サブスクリプション SaaS 製品の無料トライアルにサブスクライブできるようになりました。	2022 年 12 月 16 日
購入者は SaaS プライベートオファー、アップグレード、または更新を受け入れることができます	販売者が以前の SaaS プライベートオファーをアップグレードまたは更新した場合、購入者は既存の契約をキャンセルしなくても新しいプライベートオファーを受け入れることができます。	2022 年 12 月 13 日
AWS Marketplace がプライベートマーケットプレイスエクスペリエンスのアーカイブをサポート	購入者はプライベートマーケットプレイス体験を AWS Marketplaceでアーカイブして再アクティブ化できるようになりました。	2022 年 12 月 12 日
AWS Marketplace タグベースの認可機能のポリシーを更新	AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess でタグベースの認可をサポートするように AWS Marketplaceポリシーを更新しました。	2022 年 12 月 9 日

サブスクリプションのキャンセル方法に関する情報を提供する新しいトピックを追加しました	AWS MarketplaceでAMI、ML、SaaS製品のサブスクリプションをキャンセルする方法についての情報を追加しました。また、SaaS契約の自動更新のキャンセルに関する情報を追加しました。	2022年12月8日
AWS Marketplace Vendor Insightsで購入者のポリシーを更新	AWS Marketplace Vendor Insights 購入者AWSVendor InsightsAssessorReadOnly の管理ポリシーAWSVendorInsightsAssessorFullAccess とを更新しました。	2022年11月30日
AWS Marketplace Vendor Insightsで購入者のアクセスを制御する	Vendor AWS Marketplace Insights に新しいトピックを追加し、購入者が利用できるアクションとアクセス許可について説明しました。	2022年11月30日
アジアパシフィック (ハイデラバード) リージョンのサポート	AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (ハイデラバード) がサポートされるようになりました。	2022年11月22日
欧州 (スペイン) リージョンのサポート	AWS Marketplace では AWS リージョン、欧州 (スペイン) がサポートされるようになりました。	2022年11月16日
欧州 (チューリッヒ) リージョンのサポート	AWS Marketplace では AWS リージョン、欧州 (チューリッヒ) がサポートされるようになりました。	2022年11月9日

AWS Marketplace 2022 年 12 月までの IPv6 への ウェブサイトのアップグレード	現在 IAM ポリシーで IPv4 形式のアドレスを使用している購入者は、2022 年 12 月 15 日の前に IAM ポリシーを IPv6 形式のアドレスに更新することをお勧めします。	2022 年 9 月 29 日
AWS Marketplace プライベートマーケットプレイスの詳細なアクセス許可	購入者は、プライベートマーケットプレイスのエクスペリエンスを管理するためのより詳細なアクセス許可を持つようになりました。	2022 年 9 月 8 日
AWS Marketplace Vendor Insights に 2 つのポリシーを追加しました。	Vendor AWS Marketplace Insights AWSVendorInsightsAssessorReadOnly にソフトウェアリスク評価を提供する 2 つのポリシーAWSVendorInsightsAssessorFullAccess とを追加	2022 年 7 月 26 日
AWS Marketplace Vendor Insights	AWS Marketplace Vendor Insights は、ソフトウェアリスク評価を提供する機能です。	2022 年 7 月 26 日
支払い方法の更新	AWS 請求コンソールでの支払い方法の変更方法を明確にするためのドキュメントのみの更新。	2022 年 6 月 1 日
契約用の SaaS 無料トライアル	購入者は、SaaS 無料トライアルに登録して、有料トライアルに移行する前に製品を確認できるようになりました。	2022 年 5 月 31 日

AMI、コンテナ、SaaS 製品にベンダー計測タグが追加されました	ベンダー提供のメトリクス全体で AWS Marketplace のリソース使用量を顧客が理解できるようにタグを提供する新機能。	2022 年 5 月 27 日
購入者の取引にメール通知が追加されました	購入者にメールで通知し、AWS Marketplace で作成される契約書を確認する新機能。	2022 年 5 月 23 日
eProcurement のお客様向けの無料/BYOL 製品の自動承認が有効になりました	eProcurement のお客様向けの無料/BYOL 製品の新しい自動承認により、お客様は製品をすぐに使用できます。	2022 年 5 月 2 日
AMI およびコンテナ製品契約の購入者の契約変更が可能になりました	AMI およびコンテナ製品契約を変更して、追加のエンタイトルメントを購入したり、サブスクリプションの自動更新オプションを有効にしたりできます。	2022 年 4 月 6 日
ライセンス使用状況を追跡する機能	購入者は、を使用して AMI および SaaS 製品の使用状況ベースのライセンスメトリクスを追跡できるようになりました AWS License Manager。	2022 年 3 月 28 日
Helm CLI バージョンへの更新	Helm CLI バージョンが 3.7.0 から 3.7.1 に変更されたことに関してコンテナ製品のドキュメントを更新しました。現時点で互換性のあるバージョンは、このバージョンだけです。	2022 年 3 月 8 日

既存のマネージドポリシーの更新	不要になったアクセス許可は、次のポリシー、AWSMarketplaceFullAccess と AWSMarketplaceImageBuildFullAccess から削除されました。	2022 年 3 月 4 日
EMEA に拠点を置く購入者が Amazon Web Services EMEA SARL を通じて製品を購入できます	AWS Marketplace トルコと南アフリカを除く欧州、中東、アフリカ (EMEA) の国と地域に拠点を置く 購入者 AWS アカウント は、EMEA 対象販売者からの購入に関する AWS Marketplace 請求書を Amazon Web Services EMEA SARL を通じて受け取ることができるようになりました。	2022 年 1 月 7 日
アジアパシフィック (ジャカルタ) リージョンのサポート	AWS Marketplace では、AWS リージョンアジアパシフィック (ジャカルタ) がサポートされるようになりました。	2021 年 12 月 13 日
コンテナベースの製品の Helm チャート配送方法	購入者は起動環境に Helm チャートをインストールすることにより、コンテナベースの製品を起動できるようになりました。	2021 年 11 月 29 日
コンテナベースの製品ドキュメントの全般的な更新と再編成	コンテナベースの製品ドキュメントを更新し、コンテナベースの製品の検出結果、購読、発売に関する情報を増やし、わかりやすくしました。	2021 年 11 月 29 日

QuickLaunch のドキュメントの追加	購入者は、Helm チャート配送方法でコンテナベースの製品を起動するときに QuickLaunch を使用できるようになりました。QuickLaunch は、を活用して新しい Amazon EKS クラスター AWS CloudFormation をすばやく作成し、そのクラスターでコンテナベースのアプリケーションを起動 AWS Marketplace する の機能です。	2021 年 11 月 29 日
AMI ベースの製品およびコンテナベースの製品の契約料金	購入者は AMI ベースの製品またはコンテナベースの製品を前払い価格で購入できるようになりました。	2021 年 11 月 17 日
SaaS 製品の注文書のサポート	AWS Marketplace は、Software as a Service (SaaS) 契約の購入への発注書番号の追加をサポートしています。	2021 年 10 月 28 日
SAP Ariba 統合のサポート	AWS Marketplace は SAP Ariba 調達システムとの統合をサポートしています。	2021 年 10 月 13 日
AMI エイリアスのサポート	AWS Marketplace は、リージョン間で使用できる AMI IDs のエイリアスの使用をサポートしています。	2021 年 9 月 8 日
管理ポリシーから未使用のアクセス許可を削除しました	AWSPrivateMarketplaceAdminFullAccess AWS 管理ポリシーから未使用のアクセス許可が削除されました。	2021 年 8 月 27 日

によるライセンスの共有のサポート AWS License Manager	AWS 組織内の他のアカウントと購入した製品にライセンスを共有できます。	2020 年 12 月 3 日
AWS Marketplace がプロフェッショナルサービスをサポート	AWS Marketplace でプロフェッショナルサービスの購入がサポートされるようになりました。	2020 年 12 月 3 日
希望通貨のサポート	希望通貨を使用して AWS Marketplace 購入に対して支払うことができます。	2020 年 7 月 27 日
プライベートオファアのアップグレードや更新を確認して承諾できます	販売者は、SaaS 契約製品および従量課金制の SaaS 契約製品のアップグレードや更新のプライベートオファアを提供する場合があります、これを既存の契約中に確認して承諾できます。	2020 年 5 月 28 日
AWS Marketplace は AWS Data Exchange を通じてデータ製品をサポートします	AWS Marketplace で AWS Data Exchange データ製品にサブスクライブできるようになりました。	2019 年 11 月 13 日
AWS Marketplace が時間単位の有料コンテナをサポート	AWS Marketplace は、Amazon Elastic Kubernetes Service (Amazon EKS) で実行されている有料の時間単位コンテナをサポートするようになりました。	2019 年 9 月 25 日
でのプライベートオファアの更新 AWS Marketplace	さまざまなタイプのプライベートオファアの受け入れに関する詳細を提供するためにコンテンツを更新しました。	2019 年 3 月 29 日

[のセキュリティの更新 AWS Marketplace](#)

IAM ポリシー情報を更新し、読みやすくするためにセクションを再構成しました。

2019 年 3 月 25 日

[プライベートマーケットプレイス機能に関するコンテンツを追加しました。](#)

プライベートマーケットプレイスのリリースをサポートするコンテンツを追加しました。

2018 年 11 月 27 日

[購入者向けユーザーガイドの初回リリース。](#)

AWS Marketplace 購入者ガイドの初回リリース。

2018 年 11 月 16 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。